

基本目的Ⅲ 子育てと学び

「育てる幸せを感じ 生涯にわたり互いに学び続ける 家庭と文化を築くまち」

◆ 1.1 子育て

施策目的 社会全体で健やかな子供の成長を支え、
子育ての喜びを感じられるまちになる

◆ 1.2 学校教育

施策目的 自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身に着けた
未来を担う子どもが育つまちになる

◆ 1.3 青少年

施策目的 心身ともに健全な子供が育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる

◆ 1.4 生涯学習

施策目的 生涯にわたって学び続けることができ、
生きがいと活力に満ちたまちになる

◆ 1.5 文化

施策目的 地域の歴史や伝統、芸術や文化に誇りをもち、
魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる

◆ 1.6 スポーツ

施策目的 スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	111	重要事業	○	総合戦略	○	担当部署	健康推進課	母子保健係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)		
4・1・3	母子保健対策事業			67,238千円	66,444千円	66,549千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶1_妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	<p>(1) 母性並びに乳幼児の健康の保持及び増進 不妊治療費助成（一般不妊・特定不妊・男性不妊・不育症に対して治療費助成） 乳幼児健康診査、妊婦健康診査、多胎妊婦健康診査、産婦健康診査、新生児聴覚検査、歯科健康診査、妊婦歯科健康診査 健康相談（母乳育児相談、乳幼児発達相談、おひさま広場） 健康教育（ママパパ学級、離乳食教室、離乳食個別講座） 保健指導、家庭訪問、未熟児養育医療給付</p> <p>(2) 地域における子育て支援の充実 母子保健推進員の育成と活動支援（乳児全戸訪問事業等）</p>
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
【健康診査】	4か月児健康診査、10か月児健康診査、1歳6か月児健康診査、2歳児歯科健康診査、3歳児健康診査
【訪問指導】	乳幼児訪問指導、妊産婦訪問指導、新生児訪問指導、未熟児訪問指導
【健康相談】	乳幼児発達相談、乳幼児健康診査事後相談（おひさま広場）、乳幼児窓口相談、母乳育児相談、母子電話相談
【健康教育】	ママパパ学級、離乳食教室 見て学ぶスタート編、離乳食個別講座
【妊娠届出受理・母子健康手帳交付・妊婦健康診査受診票交付】	妊娠届出受理、母子健康手帳及び妊婦健康診査受診票の交付、問診、セルフプランシート作成、保健事業案内、保健指導
【妊婦健康診査】	第1回から第14回妊婦健康診査費用の一部を助成、医療機関委託
【新生児聴覚検査】	新生児聴覚検査費用の一部を助成、医療機関委託
【産婦健康診査】	産後2週間及び1か月の産婦健康診査費用の一部を助成、医療機関委託
【不妊治療費等助成】	不妊治療に要する費用の一部を助成。一般不妊治療、特定不妊治療、男性不妊治療、不育治療
【母子保健推進員活動】	担当地区の母子に対し健康診査の受診勧奨や育児相談等を行い市とのパイプ役として活動、母子保健事業の協力
【未熟児養育医療給付】	身体発育が未熟で生まれ入院を必要とする1歳未満の乳児に対し、入院治療にかかる医療費等を給付
【妊婦歯科健康診査】	妊婦の歯科健康診査を実施 医療機関委託【新規】
【多胎妊婦健康診査費助成】	多胎妊婦の健康診査費用の一部を助成、医療機関委託【新規】

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	母子保健対策事業	母子保健対策事業	母子保健対策事業	母子保健対策事業
	・各種健康診査 ・健康相談 ・健康教育 ・訪問指導 ・不妊治療費助成 ・未熟児養育医療給付 ・地域における子育て支援 ・妊婦歯科健康診査【新】 ・多胎妊婦健康診査助成【新】	・各種健康診査 ・健康相談 ・健康教育 ・訪問指導 ・不妊治療費助成 ・未熟児養育医療給付 ・地域における子育て支援 ・妊婦歯科健康診査 ・多胎妊婦健康診査助成	・各種健康診査 ・健康相談 ・健康教育 ・訪問指導 ・不妊治療費助成 ・未熟児養育医療給付 ・地域における子育て支援 ・妊婦歯科健康診査 ・多胎妊婦健康診査助成	
事業費		66,444	66,444	66,444
財源	国庫	3,876	3,876	3,876
	県費	1,082	1,082	1,082
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	61,486	61,486	61,486

【関連する指標】

総合計画指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標	妊婦家庭訪問実施率	90.4	目標値	91.4	91.9	92.4	92.9	93.4
		単位：%	実績値	95.1	95.2			
総合計画指標	乳幼児健康診査受診率	98.3	目標値	98.4	98.4	98.4	98.5	98.5
		単位：%	実績値	98.6	98.9			
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	66,444千円	令和4年度決算額	66,549千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ 妊婦家庭訪問実施率 令和2年度 81.1%、令和3年度 95.1%、令和4年度 95.2% ■ 乳幼児健康診査受診率 令和2年度 98.0%、令和3年度 98.6%、令和4年度 98.9%		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	指標の妊婦家庭訪問及び乳幼児健康診査ともに目標値を上回っており、経年で高い実施率や受診率を推移している。 感染症対策の継続及び警戒度に応じた事業内容の柔軟な対応、未受診者に対する受診勧奨等により高い実施率になったものと考えられる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定妊婦や疾患を持つ妊婦、外国人妊婦等の増加で、支援を必要とする妊産婦が増加している。 ・ 新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化に伴い、親族や友人の支援や情報交換が少ない一方で、インターネットでの育児情報が多く混乱する親、子どもと触れ合う経験のないまま親になる保護者も多く、育児不安を訴える保護者が増加している。 ・ 発達障がい疑いや虐待等、支援が必要な家庭が増加している。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	年々支援を必要とする妊産婦、乳幼児が増加しているなか、変化する対象者のニーズを把握しながら事業を展開する必要がある。また、関係機関と連携を図りながら虐待予防、療育支援を行う必要がある。
令和6年度事業計画	[健康診査] 4か月児健康診査、10か月児健康診査、1歳6か月児健康診査、2歳児歯科健康診査、3歳児健康診査 [訪問指導] 乳幼児・妊産婦・新生児・未熟児訪問指導 [健康相談] 乳幼児発達相談、乳幼児健康診査事後相談(おひさま広場)、乳幼児窓口・母乳育児・母子電話相談 [健康教育] ママパパ学級、離乳食教室(見て学ぶスタート編、ステップアップ編) [妊娠届出受理・母子健康手帳交付・妊婦健康診査受診票交付] [妊婦健康診査] [新生児聴覚検査] [産婦健康診査] [妊婦歯科健康診査] [多胎妊婦健康診査費助成] [不妊治療費等助成] [母子保健推進員活動] [未熟児養育医療給付]
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	112	重要事業	○	総合戦略	○	担当部署	健康推進課	母子保健係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)		
4・1・3	妊娠・出産包括支援事業			21,038千円	23,837千円	71,400千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶1_妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	<p>安心して生み育てられるまちになるため、妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援を行うことを目的とする。</p> <p>保健師1名を母子保健コーディネーターとして配置し、様々な機関の関係者との連携・情報の共有を図り、妊娠期から子育て期までワンストップで支援を行う。新たに社会福祉士1名を配置し、疾患を持つ者や未婚等の困難事例の妊産婦への支援を強化する。</p> <p>①「母子保健コーディネーター事業」 ②「産前産後サポート事業」 ③「産後ケア事業」</p>
----------------	--

令和3年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

<p>〔母子保健コーディネーター事業〕</p> <p>妊産婦に必要な情報提供・関係機関との調整し必要な支援につなぐ、セルフプラン・支援プランの作成、定期的なフォローの実施、多言語音声翻訳アプリを用いた外国人支援、疾患を持つ者や未婚等の困難事例の妊産婦への支援</p> <p>〔産前産後サポート事業〕</p> <p>妊娠中・生後28日までの全戸訪問事業、産前産後サポーター派遣事業、祖父母教室、子育てサロン、多胎妊産婦交流事業、子育て支援モバイルサービス事業、子育て応援冊子配布事業、双子手帳の交付</p> <p>〔産後ケア事業〕</p> <p>出産直後の産婦の健康面の悩みや育児不安などを解消するため、助産師による心身のケアや休養等支援を行う事業（デイサービス型、アウトリーチ型）</p>
--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	事業費	23,837	23,837	23,837	
	財源	国庫	13,284	13,284	13,284
		県費	2,093	2,093	2,093
		市債	0	0	0
		その他	33	33	33
一般財源		8,427	8,427	8,427	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合戦略 KPI	子育て支援モバイルサービス登録率	目標値	63.8	64.8	65.8	66.8	67.8
		実績値	58.3	89.6			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	23,837千円	令和4年度決算額	71,400千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■子育て支援モバイルサービス登録率 令和2年度 78.5%、令和3年度 58.3%、令和4年度 89.6%			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	令和4年度は登録率が上昇し、目標値を上回る結果となった。令和4年度はアプリとしてリニューアルを実施し、以前よりも登録しやすくなったこと、新型コロナウイルス感染症の警戒度が下がり、面接時間を十分に確保でき、本サービスの説明をより詳しく実施できたことが要因と考えられる。			
課題	・特定妊婦や疾患を持つ妊婦、外国籍妊婦等の増加で、支援を必要とする妊産婦が増加している。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	・年々支援を必要とする妊産婦、乳幼児が増加するなか、変化する対象者のニーズを把握しながら事業を展開する必要がある。また関係機関との連携を図りながら、虐待予防、育児支援を行う必要がある。 ・子育て支援モバイルサービスの更なる活用を促すため、タイムリーに新着及び更新情報を掲載する必要がある。			
令和6年度事業計画	・母子保健コーディネーター事業 ・産前産後サポート事業 ・産後ケア事業 ・出産・子育て応援給付金事業 ・子育てサロン、多胎サロン ・困難事例に対応する専門職の配置			
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	113	重要事業	○	総合戦略		担当部署	健康推進課	母子保健係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)		
4・1・5	予防接種事業			216,771千円	227,830千円	210,930千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅱ_地域で支え合い生涯健康で暮らせる幸福感の高いまち
	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶09_心身ともに健康でいきいきと暮らせるまちになる
	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶8_感染症対策の充実
	▶1_妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	予防接種を行い、感染の恐れのある疾病の発生及びまん延を予防し、公衆衛生の向上及び増進を行う。 ①定期予防接種 ②任意予防接種助成
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

〔定期予防接種〕
 ロタ、B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合、二種混合、BCG、麻しん風しん、風しん第5期、水痘、日本脳炎、子宮頸がん、高齢者インフルエンザ、高齢者用肺炎球菌
 子宮頸がん予防ワクチン接種の再開及び差し控え中に接種機会を逃した未接種者に対する接種
 風しん第5期予防接種の3年間延長（令和6年度まで）

〔任意予防接種助成〕

おたふくかぜ、風しん（成人）、高齢者用肺炎球菌、骨髄移植等の理由による定期予防接種ワクチン再接種

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	①定期予防接種【重】 ※子宮頸がんワクチン接種再開 ※風しん第5期延長（3年間） ②任意予防接種助成【重】 ・風しん（成人）ワクチン接種費用助成 ・高齢者用肺炎球菌ワクチン接種費用助成 ・おたふくかぜワクチン接種費用助成 ・骨髄移植等の理由による定期予防接種ワクチン再接種費用助成		①定期予防接種【重】 ②任意予防接種助成【重】 ・風しん（成人）ワクチン接種費用助成 ・高齢者用肺炎球菌ワクチン接種費用助成 ・おたふくかぜワクチン接種費用助成 ・骨髄移植等の理由による定期予防接種ワクチン再接種費用助成	①定期予防接種【重】 ②任意予防接種助成【重】 ・風しん（成人）ワクチン接種費用助成 ・高齢者用肺炎球菌ワクチン接種費用助成 ・おたふくかぜワクチン接種費用助成 ・骨髄移植等の理由による定期予防接種ワクチン再接種費用助成	
	事業費	227,830	227,830	227,830	
	財源	国庫	4,569	4,569	4,569
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
一般財源	223,261	223,261	223,261		

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	予防接種の接種率（麻しん風しん第1期）	91.7	目標値	92.8	93.4	93.9	94.5	95.0
		単位：%	実績値	98.5	109.3			
活動指標	予防接種の接種率（麻しん風しん第2期）	94.8	目標値	94.9	94.9	94.9	95.0	95.0
		単位：%	実績値	97.9	97.3			
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	227,830千円	令和4年度決算額	210,930千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<p>■ 予防接種の接種率（麻しん風しん第1期） 令和2年度：103.2%、令和3年度：98.5%、令和4年度：109.3%</p> <p>■ 予防接種の接種率（麻しん風しん第2期） 令和2年度：99.3%、令和3年度：97.9%、令和4年度：97.3%</p>			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	実績値については目標値を上回っている。乳幼児健康診査時の勧奨、未接種者への電話確認・勧奨はがきの送付、入学説明会でのちらしの配布、未手続の転入者への訪問・通知による接種状況の把握等を積極的に実施したことにより、目標値を上回ったと考えられる。			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子宮頸がん予防ワクチンについて、積極的な勧奨が再開となり接種者は増加したが未接種者も多い。今後も接種率向上のため、接種勧奨を推進する必要がある。 ・風しん第5期について受検率は緩やかに伸びているが年度単位の受検者数は減少傾向であるため、積極的な受検勧奨が必要である。 			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）			
	<ul style="list-style-type: none"> ・麻しん風しん予防接種の接種率は、今後も95%以上を維持する。 ・子宮頸がん予防ワクチンは令和5年度より9価ワクチンが追加されたため、情報提供も含めて接種勧奨を推進する。 ・風しん第5期抗体検査・予防接種については、クーポン券や勧奨はがきの送付、電話等により積極的な勧奨を図る。 			
令和6年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・定期予防接種の実施 ・任意予防接種の助成 			
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	114	重要事業	総合戦略	担当部署	子育て支援課	子育て支援係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
3・2・1	児童扶養手当支給事務		286,096 千円	279,741 千円	262,097千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11 社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2 地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	母子家庭、父子家庭又は両親のいない家庭等の経済的安定と自立を図ることで、当該家庭の児童が健全に育成されることを目指す。（父または母がいても極めて重度の障がいがある場合にも支給されます） ※母子家庭等の経済的負担の軽減に対処するため、昭和36年に児童扶養手当法その他関係政令が整備されたことによる
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>両親の離婚、死亡等により、ひとり親となった家庭等の生活の安定と自立を支援するため、一定の所得の範囲内で児童扶養手当を支給するもの。経緯：①平成22年8月に父子家庭も対象 ②平成24年8月に配偶者からの暴力（DV）被害者も対象 ③平成26年12月に公的年金との併給制限の見直し ④令和元年度より手当の支給回数が4か月に1回から2か月に1回（奇数月）となった。</p> <p>主な業務 認定請求の受付及び審査、手当支給 対象者への周知等 現況届8月受理 資格の取得・喪失、現況調査、各種変更等の処理を行う</p> <p>手当額 【全部支給】43,160円～ 【一部支給】43,150円～10,180円 子ども加算 2人目10,190～5,100円加算、3人目以降1人につき6,110円～3,060円加算 扶助費※国庫補助事業 補助率1/3</p>	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	児童扶養手当支給事務				
	事業費	279,741	279,741	279,741	
	財源	国庫	92,485	92,485	92,485
		県費			
		市債			
その他					
	一般財源	187,256	187,256	187,256	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	児童扶養手当支給者人数	612人	目標値	595	587	579	570	562
		単位：人	実績値	577	527			
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	279,741千円	令和4年度決算額	262,097千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	児童扶養手当受給者数 令和2年度 587人 283,205,710円 令和3年度 577人 276,760,300円 令和4年度 527人 259,945,130円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	—
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	国の政策による、児童扶養手当法に基づく給付事業（国庫補助事業）。ひとり親家庭の生活の安定と自立の促進に寄与した。
課題	公的年金との併給が可能になるなど、制度が改正された。引き続き周知に取り組む必要がある。また、支給の資格があるかどうかの判断においてはプライベートな事情を確認する必要があるため、新規及び現況届の面談の際には受給者への対応に十分配慮するように職員が留意する必要がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）
	児童扶養手当法に基づき、国の方針に従って対応する。受給者数は減少傾向にあるが、今後もひとり親世帯等の生活の安定には欠かせない必要性・重要性が増している経済支援制度である。
令和6年度事業計画	国の制度に対応し、事業を実施する。
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	115	重要事業	総合戦略	担当部署	子育て支援課	子育て支援係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
3・2・1	児童手当支給事業			1,044,355 千円	1,008,291 千円	992,413千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_子どもの健全育成を促進する学びの機会の提供

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	子育て家庭等の生活の安定に寄与し、次世代の社会を担う児童の健やかな成長に資する。 保護者の経済的不安を解消するとともに、今後、出産等を迎える若い世代に対し、子育てに関する安心感を与えた。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

児童手当法に基づき、中学校終了前の児童を養育する世帯に対し、児童手当を支給する。（6月、10月、2月）

- ・3歳未満月額一律 15,000円
- ・3歳以上小学校修了前（第1子・第2子）月額一律10,000円、（第3子以降）月額一律15,000円
- ・中学生 月額一律10,000円
- ・所得制限限度額以上である者 月額一律5,000円

制度改正について

改正法は特例給付に所得制限を設け高所得者を除外する。
受給者の年収が1,200万円を超えた場合、特例給付を支給しない。
年収960万円以上1,200万円未満は特例給付の月5,000円を維持する。

扶助費※国庫補助事業（国4/6、一部37/45）県（1/6、一部4/45）

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	児童手当支給事業 （制度改正あり）			
	事業費	1,008,291	1,008,291	1,008,291
財源	国庫	695,408	695,408	695,408
	県費	155,107	155,107	155,107
	市債			
	その他			
	一般財源	157,776	157,776	157,776

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	児童手当受給者延数	102,131	目標値	95,447	89,200	83,362	77,906	72,807
		単位：人	実績値	95,826	91,040			
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	1,008,291千円	令和4年度決算額	992,413千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	児童手当受給者数延数 令和2年度 延 98,732人 1,064,275,000円 令和3年度 延 95,826人 1,034,330,000円 令和4年度 延 91,040人 989,700,000円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	-
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	国の政策による、児童手当法に基づく全国一律の給付事業（国庫及び県費補助事業）。子育て世帯の経済的負担を軽減することにより、子どもの生活環境に大きく寄与した。
課題	令和4年6月からの制度改革により、現況届の手続が大幅に省略となり、年金変更時の届出等必要な手続が増加した。受給者に通知を送付して改正点の周知を図ったものの、理解が十分に行き届いていないため、引き続き周知に取り組む必要がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止） 児童手当法に基づき、国の方針に従って対応する。また、令和5年度よりマイナポータルでの申請受付を本格的に開始することで利便性向上に努める。
令和6年度事業計画	国の制度に対応し、事業を実施する。
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	116	重要事業	○	総合戦略	○	担当部署	子育て支援課	子育て支援係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)		
3・2・1	地域子ども・子育て支援事業 (ファミリー・サポート・センター事業)			5,110 千円	450 千円	34千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	子ども・子育て支援新制度のもと、地域の実情に応じて市が策定した「館林市子ども・子育て支援事業計画」に従って事業を計画的に実施することで、教育・保育・子育て支援の充実を図る。 【ファミリー・サポート・センター事業】館林市社会福祉協議会へ委託（平成25年度より）
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

ファミリー・サポート・センター事業【重要事業】	令和4年度からは、委託料でなく、館林市総合福祉センター指定管理者の中の委託事業の中に取り込むこととなったため、予算としては、利用者負担軽減の補助金のみとなった（市単独補助）※就労のみに係るファミサポ利用に対する補助仕事と子育ての両立支援及び就労支援をより拡充するため、料金の一部助成を行い、利用料金の軽減を図る。「育児の援助を受けたい人」と「育児の援助を行いたい人」で構成される会員組織で、アドバイザーが育児に関する相互援助活動の調整を行う事業 (相互援助活動の内容) ・ 保育施設等の開始前、終了後に児童を預かること（児童の送迎含む） ・ 病児・病後児を預かること（医療機関に受診） ・ 冠婚葬祭、病気、外出の際の預かり ・ お願い会員のため、その他必要と認められる育児援助を行う
-------------------------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		・ 総合福祉センター指定管理事業の一環（社会福祉課と連携）となった初年度 ・ 利用料補助	・ 総合福祉センター指定管理事業の一環 ・ 利用料補助	・ 総合福祉センター指定管理事業の一環 ・ 利用料補助
	事業費	450	450	450
財源	国庫			
	県費			
	市債			
	その他			
	一般財源	450	450	450

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合戦略 KPI	ファミリー・サポート・センターの延べ登録者数	345	目標値	405	465	525	585	645
		単位：件	実績値	401	416			
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	450千円	令和4年度決算額	34千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	活動件数	令和2年度 941件 令和3年度 774件 令和4年度 1,149件		
	延べ登録者数	令和2年度 373人 令和3年度 401人 令和4年度 416人		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進におい て不可欠な事業で ある	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与し ている事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有 無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られ ている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水 準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が 得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	令和4年度からは、委託料でなく、館林市総合福祉センター指定管理者の中の委託事業の中に取り込まれることとなった。前年と比較して活動件数が増加し、子育て世帯の負担軽減へと繋がったと考えられる。しかし、登録者数が伸び悩み、市利用料補助の申請者数も少ないため、市社会福祉協議会とともにさらに本事業の周知に取り組む必要があると考えられる。					
課題	市利用料補助の申請者数が少ない現状を鑑み、館林市社会福祉協議会とも連携しながら事業の更なる周知を図る。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	令和5年度より就労を理由としない利用についても、低所得世帯であれば市利用料補助の対象とすることで、子育て世帯への支援を拡充する。					
令和6年度 事業計画	継続実施。令和5年度より、ファミリー・サポート・センター利用料補助について、就労の条件とせず低所得世帯であれば補助対象とする。					
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	117	重要事業	○	総合戦略	○	担当部署	こども課 幼保支援係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
3・2・1	地域子ども・子育て支援事業 (地域子育て支援拠点事業) (病児・病後児事業)			38,783 千円	38,866 千円	35,262千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	子ども・子育て支援新制度のもと、地域の実情に応じて市が策定した「館林市子ども・子育て支援事業計画」に従って事業を計画的に実施することで、教育・保育・子育て支援の充実を図る。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①地域子育て支援拠点事業【重要事業】
- ・地域子育て支援拠点事業委託料
- 乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談や情報の提供、助言その他の援助を行う。
- ②病児・病後児保育事業
- ・病児・病後児保育事業委託料
- 多様な保育需要に対応するために、集団保育が不可能な病児・病後児の保育を委託により実施する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール		・総合福祉センター指定管理事業の一環（社会福祉課と連携）となった初年度 ・利用料補助	①地域子育て支援拠点事業【重】 ・地域子育て支援拠点事業委託料 ②病児・病後児保育事業 ・病児・病後児保育事業委託料	①地域子育て支援拠点事業【重】 ・地域子育て支援拠点事業委託料 ②病児・病後児保育事業 ・病児・病後児保育事業委託料	
	事業費	38,866	38,866	38,866	
	財源	国庫	12,955	12,955	12,955
		県費	12,955	12,955	12,955
		市債			
その他		1,234	1,234	1,234	
	一般財源	11,722	11,722	11,722	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標	市内5か所の地域子育て支援センターの利用登録率	79.4	目標値	81.3	82.2	83.1	84.1	85
		単位：%	実績値	66.4	70.3			
総合戦略KPI	病児・病後児保育事業の登録者数	227	目標値	286	315	344	374	403
		単位：人	実績値	336	166			
総合計画指標	子育て環境（保育施設、相談、交流の場など）の充実度の満足度	30.1	目標値	-	-	34.1	-	36.1
		単位：%	実績値	-	-			
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	38,866千円	令和4年度決算額	35,262千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■市内5か所の地域子育て支援センターの利用登録率 ・令和4年度までの3か年平均 69.9% 内訳(令和2年度: 72.9% 令和3年度: 66.4% 令和4年度: 70.3%) ■病児・病後児保育事業の登録者数 ・令和4年度までの3か年累計 877人 内訳(令和2年度: 375人 令和3年度: 336人 令和4年度: 166人)			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	指標については、市内5か所の「地域子育て支援センターの利用登録率」及び「病児・病後児保育事業の登録者数」は目標に達しなかったが、「地域子育て支援センターの利用登録率」は利用者がコロナ禍の活動に慣れたことに加え、転入者による利用が多かったことで昨年度より数値が向上した。一方、「病児・病後児保育事業の登録者」については利用制限の対象となる新型コロナウイルス陽性者が見なし陽性者も含め爆発的に増加したことに加え、国の事業である”新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金制度”が浸透し、急病時に休暇を取りやすくなったことに伴い、「病児・病後児保育事業の登録者」も減少したと考えている。					
課題	■地域子育て支援センター 新型コロナウイルス感染症の扱いが変更となったため、状況を見極めながら、可能な限り講座を開催するとともに、受け入れ人数の制限を緩和させていく必要がある。 ■病児・病後児保育事業 簡単に登録及び利用ができる環境を整備する必要がある。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	■地域子育て支援センター 子育て中の方が孤立することがないよう、利用者同士がつながり合う場を引き続き提供するとともに、寄り添った支援を行っていく。 ■病児・病後児保育事業 病児保育が必要な方がスムーズに利用できるよう今後も努めていく。					
令和5年度事業計画	■地域子育て支援センター 地域子育て支援センター連絡会議で関係機関と連携を図る。 支援センター室と園庭を開放する。 講座やイベント、サークル活動を実施する。 ■病児・病後児保育事業 病児保育事業を継続的に実施する。					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	118	重要事業	○	総合戦略		担当部署	子育て支援課	こども相談係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)		
3・2・1	地域で子どもを支えるネットワーク事業			2,200 千円	2,200 千円	2,200千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11 社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2 地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	子どもの居場所づくり支援事業 子どもの貧困対策・虐待防止策として地域における子どもの居場所の確保や地域の中で子どもたちを支える体制整備をすすめていく。令和元（H31）年度より館林市社会福祉協議会に子どもに関わる相談と居場所づくりの立ち上げを担う『子どもの総合相談窓口事業』を委託している。 ※※社会福祉課保護係が中心となって進めている【重層的支援体制整備事業】が立ち上がる際には取り込み事業になると想定しており、関係各課はもちろん社協とも連携して進めて行く必要がある（令和4年度～）
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
子どもの総合相談窓口事業委託 ①子どもに関わる相談を専用電話・メール・対面等で受け、解決できない場合は関係機関につなぐなど断らない窓口の役割を強化する。 場合によっては、社協の【ふくしの総合相談窓口】とも連携し、子どもだけにとどまらない、その家庭の問題を総合的にアセスメントし必要な支援につなげ解決を図る。 ②子どもの居場所づくり支援事業 子どもの居場所を立ち上げたい地域住民やボランティア団体に対して、必要な情報提供等を行い、市内の子どもの居場所の立ち上げにつなげる。 ※コロナ禍により思うように進まないが、諦めず長い目で見て、根気強く、最低でも1つ子どもの居場所の立ち上げにつなげる。 スケジュール 令和4年4月 委託契約締結（4年目継続事業）『子どもの総合相談窓口』、人材バンク、随時相談受付 10月 子どもの居場所づくり立ち上げに対する支援関係者会議（ネットワーク会議） 令和5年3月 新規子どもの居場所立ち上げスタート（2022計画） ※重要※令和4年度の課題=【重層的支援体制整備事業】の状況を社会福祉課連携し注視するとともに、一体的事業として見込む。	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	子どもの総合相談窓口事業委託		子どもの総合相談窓口事業委託 （重層的支援体制整備事業）	子どもの総合相談窓口事業委託 （重層的支援体制整備事業）	
	事業費	2,200	2,200	2,200	
	財源	国庫	1,100	1,100	1,100
		県費			
		市債			
その他					
	一般財源	1,100	1,100	1,100	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	子どもの居場所の数	2	目標値	2	2	3	3	4
		単位：件	実績値	2	2			
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	2,200千円	令和4年度決算額	2,200千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	子どもの居場所づくり支援事業 ・新規子どもの居場所立ち上げ 令和2年度 0件 令和3年度 0件 令和4年度 0件			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	子どもの総合相談窓口事業を通じ、相談を受けた子どもがいる世帯に対し、行政をはじめとした適切な機関・支援につなぐことができた。しかし、子どもの居場所づくり支援としては、新規に居場所を立ち上げることはできなかったが、居場所立ち上げ相談支援により、令和5年度居場所（こども食堂）開設に向けて準備している市民団体が発足しているため。					
課題	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人の動きに制限がかかり、居場所づくりネットワーク会議や新規の居場所づくりの立ち上げ支援が予定通り進めることができなかった。今後、ネットワーク会議を開催し、情報交換や人材確保のための検討を行う。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	コロナ禍の影響もあり、子どもの居場所を作る体制整備が進まない部分はあったが、子どもの居場所（こども食堂）を立ち上げたいというボランティア団体の動きがあり、令和5年度に設置できそうである。この動きを進めるためにも、情報交換や相互支援を行えるよう事業を実施していく必要がある。					
令和6年度事業計画	地域でこどもを支えるネットワーク事業（子どもの居場所づくり支援事業）					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	119	重要事業	○	総合戦略		担当部署	子育て支援課	子育て支援係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)		
3・2・1	少子化対策事業（結婚新生活支援事業）			7,213 千円	7,213 千円	5,012千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	本市においても少子化が急加速で進んでいる（平成24年に595人⇒令和元年には392人）。 「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」基本目標の「結婚を希望する人への支援」の取り組みの一つとして婚姻に伴う経済的負担軽減を減らし、結婚しやすい環境づくりを整備するもの。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- 新婚世帯に対し、結婚に伴う新生活のスタートアップに係るコストを支援する。
- ・補助対象：婚姻に伴う住宅取得費用又は、住宅賃借費用、引越費用、家具家電の購入費
- ・対象世帯：夫婦共に婚姻日における年齢が39歳以下かつ世帯所得400万円未満（世帯年収約540万円未満相当）の新規に婚姻した世帯
- ・補助額：1世帯当たり30万円

特定財源：県支出金の地域少子化対策重点推進交付金（国庫補助事業であるが、県の間接補助）補助率1/2

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	事業費	7,213	7,213	7,213	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	3,600	3,600	3,600
		市債	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		3,613	3,613	3,613	

【関連する指標】

活動指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
結婚新生活支援事業申請件数		R3新規	目標値	10	19	29	38	48
		単位：件	実績値	18	25			
		単位：	目標値					
			実績値					
		単位：	目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	7,213千円	令和4年度決算額	5,012千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	結婚新生活支援事業申請件数・補助金額 令和3年度 18件 4,678,000円 令和4年度 25件 5,004,000円 (前年対比) 件数 139% 補助金額 107% ※令和3年度新規事業			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	申請数が目標値よりも6件上回った（補助金額は当初予算の範囲内）。 また、補助金申請時のアンケートにおいても、この制度に対する満足度が非常に高かった。					
課題	制度の周知を引き続き様々な手法で行っていく必要がある。また、この事業は少子化対策事業であるため、庁内関係各課との連携により進めていく必要がある。					
	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
【Action】 今後の方向性・内容	本事業は国の実施要領に基づいて事業を実施している。 令和5年度は、令和4年度より所得要件が400万円未満から500万円未満に緩和し、また、補助金額についても29歳以下の夫婦の場合は上限30万円から上限60万円に拡充となる。 また、「こども誕生祝金支給事業」と抱き合わせの少子化対策事業として、事業を実施していく必要がある。					
令和6年度事業計画	新婚世帯に対し、結婚に伴う新生活のスタートアップに係るコストを支援する。 ・補助対象：婚姻に伴う住宅取得費用又は、住宅賃借費用、引越費用、住宅リフォーム費用 ・対象世帯：夫婦共に婚姻日における年齢が39歳以下かつ世帯所得500万円未満の新規に婚姻した世帯 ・補助額：夫婦ともに29歳以下の場合 1世帯当たり上限60万円 上記以外の場合 1世帯当たり上限30万円					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	120	重要事業	総合戦略	担当部署	子育て支援課	子育て支援係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
3・2・1	少子化対策事業（こども誕生祝金支給事業）			千円	12,113 千円	8,993千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11 社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2 地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	少子化対策事業 【令和4年度からの新規事業】こども誕生祝金～かがやく次代お祝い金～ 次代を担う子どもの誕生に祝意を示し、健やかな成長を願うとともに、子育て家庭を応援するため、お祝い金を支給する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

令和4年度新規政策 こども誕生祝金 （概要）2段階のお祝い金とする事業計画	<p>①出生届後にその保護者を対象に新生児1人当たり1万円の金券（ぽんちゃん券）を窓口即日交付。 こどもが誕生したことを祝福する。</p> <p>②新生児が第3子以降の場合、調査確認後、さらに10万円を現金納付。 少子化対策及び子育て家庭の負担軽減のため第3子以降を手厚く給付する。</p> <p>祝金=第1子（金券1万円分）、第2子（金券1万円分）、第3子以降（金券1万円分と現金10万円） 積算 出生数は多く見積もっても400人（令和4年度）と想定される。 第1子200人×1万円=200万円、第2子120人×1万円=120万円、第3子以降80人×11万円=880万円 祝金総額=1,200万円</p>
---	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	制度周知（要綱確定）	制度周知	制度周知	制度周知	
	申請受付・審査 補助決定及び振込	申請受付・審査 補助決定及び振込	申請受付・審査 補助決定及び振込	申請受付・審査 補助決定及び振込	
	事業費	12,113	12,113	12,113	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
市債		0	0	0	
その他		0	0	0	
	一般財源	12,113	12,113	12,113	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	こども誕生祝金給付件数（全出生数）	R4新規	目標値	/	400	400	400	400
		単位：件	実績値	/	335			
活動指標	こども誕生祝金給付件数（第三子以降）	R4新規	目標値	/	80	80	80	80
		単位：件	実績値	/	56			
			目標値					
			単位：					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	12,113千円	令和4年度決算額	8,993千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	こども誕生祝金支給件数・支給金額 令和4年度 合計 335人 8,950,000円 内訳 第1子・第2子 279人 2,790,000円 第3子以降 56人 6,160,000円 ※令和4年度新規事業			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	目標値/実績値が76.9%と、想定よりも出生数(申請数)が少なかったが、事業開始初年度のため、事業の効果が出生数には現れていないものとする。こども誕生祝金の支給対象者からは、有難いという声をいただいている。
課題	本事業を出生数の増加につなげるためには、妊娠・出産前の夫婦に本事業を知っていただく必要があるため、今後も引き続き様々な手法で周知を行っていく必要がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	「結婚新生活支援事業」と抱き合わせの少子化対策事業として、事業を行っていく必要がある。
令和6年度事業計画	①出生届後にその保護者を対象に新生児1人当たり1万円のぽんちゃんPay(ポイントで付与)を窓口即日交付。 →こどもが誕生したことを祝福する。 ②新生児が第3子以降の場合、調査確認後、さらに10万円分のぽんちゃんPayを後日交付。 →少子化対策及び子育て家庭の負担軽減のため、第3子以降に手厚く給付する。 ○祝金：令和5年度よりお祝い金をすべてぽんちゃんPayとする 第1子(ぽんちゃんPay1万円分)、第2子(ぽんちゃんPay1万円分)、第3子以降(ぽんちゃんPay11万円分)
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	121	重要事業	総合戦略	担当部署	子育て支援課	こども相談係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
3・2・5	子ども家庭総合支援拠点事業			0 千円	7,775 千円	7,873千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	※令和4年度より『子ども家庭総合支援拠点』設置にともなう今までの2事業を集約しつつ新規事業 児童の発達、心配ごと、児童虐待などの児童に関する相談を受け付け改善を図る。 家庭児童相談員を設置 要保護児童対策地域協議会（調整機関）との連携※子どもを守る
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
子ども家庭総合支援拠点設置 令和4年度の機構改革に足並みをそろえるかたちで、子ども家庭総合支援拠点が設置されることになった（係新設） ⇒そのため、相談室及び親子の交流スペース（101AB会議室）を共用整備し、家庭児童相談室を充て令和4年4月より事業開始。 （主な業務） 家庭児童相談 児童虐待対応 家庭支援に関すること。 児童相談所からの通告に基づく市町村送致案件を取り扱う件数も急増することが予想されるため、専門性を高める。 要保護児童対策地域協議会（調整機関）に関すること。 児童相談所の巡回相談に関すること。 居所不明児童及び入所措置児童に関すること。 児童虐待の早期発見・早期対応のための啓発（市民の通告義務の周知・啓発に努める） 子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業を子ども家庭総合支援拠点事業と同一にし、同じ事業内において、要保護児童対策地域協議会の調整機関の役目も拠点のなかに含める。 子ども家庭総合支援拠点=国庫補助事業（児童虐待・DV対策等総合支援事業費補助金）を活用することが可能※補助率1/2	

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	家庭児童相談事業 子ども家庭総合支援拠点設置開始		子ども家庭総合支援拠点 家庭児童相談事業	子ども家庭総合支援拠点 家庭児童相談事業
	事業費	7,775	7,775	7,775
財源	国庫	2,299	2,299	2,299
	県費	300	300	300
	市債			
	その他	13	13	13
	一般財源	5,163	5,163	5,163

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	家庭児童相談件数	860	目標値	907	930	953	977	1,000
		単位：件	実績値	1,569	2,603			
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	7,775千円	令和4年度決算額	7,873千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	①家庭児童相談件数 令和2年度 1,821件 令和3年度 1,569件 令和4年度 2,603件 ②要保護児童対策地域協議会 令和2年度 代表者会議 1回 / 実務者会議 6回 / 個別ケース会議 18回 / 研修会 0回 令和3年度 代表者会議 1回 / 実務者会議 6回 / 個別ケース会議 10回 / 研修会 0回 令和4年度 代表者会議 1回 / 実務者会議 6回 / 個別ケース会議 26回 / 研修会 1回 ③婦人相談件数 令和4年度 102件			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	平成28年児童福祉法の改正により、児童虐待防止に係る市の役割・責務が明確化され、相談体制と虐待対応への整備が求められ、令和2年度より本格的に市町村送致も開始された。 令和4年度より要保護児童対策地域協議会は、子ども家庭総合支援拠点事業の子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業へ移行。要保護児童対策地域協議会調整機関の役割を子ども家庭総合支援拠点事業に統合し一体となって支援を行っていく体制となった。 年1回の代表者会議及び実務者会議を6回、研修1回を開催し、個別ケース検討会議は随時実施。ケースの情報やリスク管理を関係機関と共有することで、ケースの重症化やリスクの見落としを防ぎ、また児童虐待の予防、早期発見につながり、児童虐待の防止策として効果的な対応が図れている。					
課題	相談件数は増加しており、児童虐待通報による24時間以内の安全確認や要保護児童等とその家庭への支援検討及び相談において、関係機関との連携を強化するとともに、相談及び虐待等対応力の更なる向上が必要。					
	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	令和4年度に子ども家庭総合支援拠点を設置。家庭児童相談事業は、子ども家庭総合支援拠点事業と要保護児童対策地域協議会調整機関を担う子どもを守る地域ネットワーク事業の2事業体制。 ・家庭児童相談のみならず、子どもの相談には母が関係している事が多いため、婦人相談、女性DV相談も統合して効果的な相談体制となった。また、令和5年度からは、館林市配偶者暴力相談支援センターを設置。 ・虐待対応・学校や児童相談所（市町村送致）と連携した支援 ・関係各機関との連絡調整体制の推進 令和4年度からは、ヤングケアラーについて、早期発見・把握、相談支援など支援策の推進、社会的認知度の向上などに取り組んでいる（庁内関係各課及び他機関との連携体制整備）。					
令和6年度 事業計画	令和4年度より子ども家庭総合支援拠点を設置し、家庭児童相談と婦人相談と統合。事業として、子どもとその家庭等を対象に、実情の把握、子ども等に関する相談全般から住宅支援を中心とした、より専門的な相談対応や必要な調査、訪問等による継続的な支援までをチームで実施するとともに、児童相談所等との総合調整体制を推進。（社会福祉士、保健師、教員等の有資格者を配置）。					
予算規模 見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	122	重要事業	○	総合戦略		担当部署	こども課	幼保支援係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)		
3・2・1	地域子ども・子育て支援事業 (放課後児童健全育成事業)			187,794千円	184,322千円	212,240千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	子ども・子育て支援新制度のもと、地域の実情に応じて市が策定した「館林市子ども・子育て支援事業計画」に従って事業を計画的に実施することで、教育・保育・子育て支援の充実を図る。 共働き・一人親の小学生の放課後(土曜日、春・夏・冬休み等の学校休業中は一日)の生活を継続的に保障することを通して、親の仕事と子育ての両立支援を保障すること。核家族化、ひとり親家庭及び共働き家庭の増加、祖父母の就労継続延長等により、留守家庭児童の放課後の居場所確保毎年利用ニーズが高まっており、全学年利用可能になったことから定員超過が問題となっており、質の向上とともに適正な施設整備を計画的に行う必要がある。
----------------	---

令和4年度事業計画 (主要な事業とその取組内容)	
放課後児童健全育成事業 小学校の子どもが過ごす生活の場として、おやつ提供や宿題の見守り、遊びや大人との会話の時間といった、家庭で当たり前のようになっているものを行う場とすることを目的としている。 市内全小学校区に設置しており、令和3年4月より1クラブ1支援増え、17クラブ21支援となる。市の放課後児童健全育成事業を社会福祉法人、NPO法人、運営委員会、保護者会に委託している。(1支援はおおむね40人程度) 放課後児童クラブ支援員は群馬県等が開催する認定資格研修を修了し、1支援あたり2名以上配置しなければならない。その他、支援員の資格は有していないが、補助員と呼ばれる支援員も配置し、各種研修等も受講し放課後児童クラブの質の向上を図っている。 委託料(子ども・子育て支援交付金交付要綱に基づき決定している; 国1/3・県1/3・市1/3) 開所時間は学童により異なるが、18時～19時半まで開所し、長期休暇中は早朝より開所して、保護者の就労を支援している。	

【事業スケジュール】

(単位: 千円)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	事業	・全小学校区に設置済 17クラブ21支援 (公設民営12、民設民営5) ・風の子クラブの移転準備 令和6年4月からのこども園開園のため、準備を開始する。 (定期的な調整会議開催) (予算確保・令和5年度予算)	・全小学校区に設置済 17クラブ21支援 (公設民営12、民設民営5) ・風の子クラブの移転に伴う具体的な準備開始→スムーズな移行	・全小学校区に設置済 17クラブ21支援 (公設民営12、民設民営5) ・大手町の風の子クラブから旧南保育園の園舎を学童施設として利用開始 (4/1より使用したい旨要望書あり)	
	事業費	184,322	184,322	184,322	
	財源	国庫	63,930	63,930	63,930
		県費	58,518	58,518	58,518
		市債	0	0	0
その他		204	204	204	
	一般財源	61,670	61,670	61,670	

【関連する指標】

活動指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	放課後児童クラブ利用児童数	925	目標値	927	928	929	931	932
		単位: 人	実績値	844	810			
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	213,315千円	令和4年度決算額	212,240千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・放課後児童クラブ利用児童数 令和2年度 932人 令和3年度 844人 令和4年度 810人 ・17クラブ21支援（公設民営12、民設民営5）			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	全小学校区に学童が設置され、平日18時～19時半頃までの開所と、長期休暇中の早朝からの開所により、保護者の就労を支援している。					
課題	第二小学校区放課後児童クラブ（風の子クラブ）の定員超過に伴う専用施設について改善を図ることが求められている。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	風の子クラブの専用施設の改善について風の子クラブとの連携・情報共有を図り進めていく。指導員等の資質向上のための研修を行い、施設関係は計画的に整備し、放課後児童健全育成事業の継続・円滑な実施を図る。					
令和6年度事業計画	継続 ・全小学校区に設置 17クラブ20支援 ※1支援休止中 （公設民営12、民設民営5） ・風の子クラブと連携をしながら設計業務を行う（令和7年度着工予定）					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	123	重要事業	○	総合戦略	担当部署	こども課	幼保運営係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
3・2・2	子どものための教育・保育施設運営			871,480千円	872,348千円	991,236千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶3_質の高い保育サービスの充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	児童福祉法第45条の最低基準を維持するために委託料及び施設型給付費を支弁するとともに、幼児教育・保育の無償化への対応や多子世帯における保護者の保育料等の負担軽減を図る。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①子どものための教育・保育施設運営	<ul style="list-style-type: none"> ・民間保育所保育委託料 ・施設型給付費 保育実施委託児童の入園後の保護について、児童福祉法第45条の最低基準を維持するために委託料及び施設型給付費を支弁する。
②子育てのための施設等利用給付	<ul style="list-style-type: none"> ・施設等利用給付費 教育・保育給付の対象外である施設等の利用に対する負担金を給付する。
③子どものための教育・保育施設運営保育園一般経費【重要事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・第3子以降保育料・副食費無償化 特定教育・保育施設（子ども・子育て支援新制度に移行した保育園や認定こども園等）を利用する第3子以降の児童の保育料や副食費を無料化し、保護者の負担軽減の拡大を図る。 ※歳入の減少（影響額：24,965千円　うち保育料：17,941千円、副食費：7,024千円）

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①子どものための教育・保育施設運営	<ul style="list-style-type: none"> ・民間保育所保育委託料 ・施設型給付費 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間保育所保育委託料 ・施設型給付費 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間保育所保育委託料 ・施設型給付費
	②子育てのための施設等利用給付	<ul style="list-style-type: none"> ・施設等利用給付費 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設等利用給付費 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設等利用給付費
	③子どものための教育・保育施設運営保育園一般経費【重】	<ul style="list-style-type: none"> ・第3子以降保育料・副食費無償化 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3子以降保育料・副食費無償化 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3子以降保育料・副食費無償化
	事業費	872,348	872,348	872,348
	財源			
	国庫	389,195	389,195	389,195
	県費	190,186	190,186	190,186
	市債	0	0	0
	その他	39,682	39,682	39,682
	一般財源	253,285	253,285	253,285

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 子育て環境（保育施設、相談、交流の場など）の充実度の満足度	30.1	目標値	-	-	34.1	-	36.1
	単位：%	実績値	-	-			
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	872,348千円	令和4年度決算額	991,236千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■民間保育所保育委託料 ・令和4年度までの累計実績 1,679,486,720円 内訳(令和2年度 548,767,500円 令和3年度 549,018,780円 令和4年度 581,700,440円) ■施設型給付費 ・令和4年度までの累計実績 1,208,735,288円 内訳(令和2年度 399,314,671円 令和3年度 401,610,380円 令和4年度 407,810,237円) ■施設等利用給付費 ※対象者(延) ・令和4年度までの累計実績 459人 3,600,700円 内訳(令和2年度:142人 846,500円 令和3年度:153人 1,029,250円 令和4年度:164人 1,724,950円) ■第3子以降保育料・副食費無償化 ※対象者(延) ・令和4年度までの累計実績 2,806人 56,149,790円 内訳(令和2年度 952人 18,283,530円 令和3年度 898人 18,225,150円 令和4年度 956人 19,641,110円)			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	民間保育施設の運営費や人件費に充てられる民間保育所保育委託料や施設型給付費をスムーズかつ適切に支給することができた。また、第3子以降保育料・副食費無償化により、多くの多子世帯に支援を行うことができた。					
課題	民間保育施設の設備及び運営についての水準の向上に貢献できるよう委託料及び施設型給付費の支弁を行う。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	引き続き、園児や保護者が安心して利用できるように委託料及び施設型給付費の支弁で民間保育施設のサポートを行う。					
令和6年度事業計画	①子どものための教育・保育施設運営 ・民間保育所保育委託料 ・施設型給付費 保育実施委託児童の入園後の保護について、児童福祉法第45条の最低基準を維持するために委託料及び施設型給付費を支弁する。 ②子育てのための施設等利用給付 ・施設等利用給付費 教育・保育給付の対象外である施設等の利用に対する負担金を給付する。 ③子どものための教育・保育施設運営保育園一般経費【重要事業】 ・第3子以降保育料・副食費無償化 特定教育・保育施設(子ども・子育て支援新制度に移行した保育園や認定こども園等)を利用する第3子以降の児童の保育料や副食費を無料化し、保護者の負担軽減の拡大を図る。 ※歳入の減少(影響額:24,965千円 うち保育料:17,941千円、副食費:7,024千円)					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	124	重要事業	総合戦略	担当部署	こども課 幼保運営係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
3・2・2	保育充実事業		58,142千円	70,831千円	61,146千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶3_質の高い保育サービスの充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・民間保育所が実施する各種事業に対し補助することで、安定的な事業運営を実現し、児童福祉の向上を図る。 ・民間保育所で実施する低年齢児保育、アレルギー児への対応に対して補助し、入所児童の処遇改善を図る。 ・社会福祉法人等が施設整備のために融資機関から借り入れた資金につき支払う利子を補給する。 ・民間保育所が行う施設整備に対して一部を補助することで、保育環境の充実を図る。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①保育充実促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・保育研究事業や子育て支援活動事業の委託 ・民間保育所補助金の支給 <p>入所児童処遇改善費として運営費の一部を補助するとともに、乳児や障がい児の受入れに対して補助する。</p>
②保育所特別保育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・低年齢児やアレルギー児への対応を円滑にするために、補助金を支出する。
③民間保育所施設整備補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人等が施設整備のために融資機関から借り入れた資金について、支払う利子を補給する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①保育充実促進事業		①保育充実促進事業	①保育充実促進事業
	②保育所特別保育事業		②保育所特別保育事業	②保育所特別保育事業
	③民間保育所施設整備補助金		③民間保育所施設整備補助金	③民間保育所施設整備補助金
事業費		70,831	70,831	70,831
財源	国庫	8,300	8,300	8,300
	県費	8,659	8,659	8,659
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	53,872	53,872	53,872

【関連する指標】

総合計画指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
	子育て環境（保育施設、相談、交流の場など）の充実度の満足度	30.1	目標値	-	-	34.1	-	36.1
		単位：%	実績値	-	-			
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	70,831 千円	令和4年度決算額	61,146 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ 館林市民間保育所補助金 (障害児保育事業) ※対象者 (延) ・ 令和4年度までの累計実績 920人 内訳 (令和2年度: 326人 令和3年度: 347人 令和4年度: 247人) ■ 保育充実促進費補助 (低年齢児保育) ※対象者 (延) ・ 令和4年度までの累計実績 4,306人 内訳 (令和2年度: 1,426人 令和3年度: 1,438人 令和4年度: 1,442人) ■ 民間保育所施設整備補助金 ・ 令和4年度までの累計 3園 内訳 (令和2年度: 1園 令和3年度: 1園 令和4年度: 1園)			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	女性の社会進出による低年齢児の保育ニーズや、障害児保育の需要が高まっていることから、民間保育所を補助することで保育内容の充実と入所児童の処遇改善を図ることができた。					
課題	予算額の縮小					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	出生数は減少しているが低年齢児保育や発達障害児保育の需要は高まっているので、引き続き、補助を行うことでの保育内容の充実を図っていく。					
令和6年度事業計画	■ 館林市民間保育所補助金 ・ 保育所運営費補助事業、諸行事記念品代補助事業、長時間保育奨励事業、保育所乳児受入支援事業、障害児保育事業 ■ 保育充実促進費補助 ・ 低年齢児保育事業、食物アレルギー対策事業 ■ 民間保育所施設整備補助金 ・ 館林市民間社会福祉施設整備借入資金利子補助					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	125	重要事業	総合戦略	担当部署	こども課 幼保運営係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
3・2・3	保育園運営		504,660千円	510,957千円	464,017千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶3_質の高い保育サービスの充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	子どもたちが健やかに育ち、人間形成の基礎が培われる就学前の乳幼児期に、より良い教育・保育の提供ができるよう充実した公立保育園の運営体制や施設の維持管理の推進を図る。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

公立保育園9園を運営するために必要な会計年度任用保育士賃金や保育士の質の向上のための研修費、給食業務委託料、施設の修繕等の施設維持管理費等を支出する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	保育園を運営するために必要な経費の支出			
	事業費	510,957	510,957	510,957
	財源			
	国庫	4,249	0	0
	県費	4,936	4,936	4,936
	市債	0	0	0
	その他	93,931	93,244	93,244
	一般財源	407,841	412,777	412,777

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 子育て環境（保育施設、相談、交流の場など）の充実度の満足度	30.1	目標値	-	-	34.1	-	36.1
	単位：%	実績値	-	-			
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	510,957千円	令和4年度決算額	464,017千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■会計年度任用職員賃金 ・令和4年度までの累計実績 524,958,559円 内訳(令和2年度:168,819,996円 令和3年度:177,019,967円 令和4年度:179,118,596円) ■研修参加負担金 ・令和4年度までの累計実績 1,302,925円 内訳(令和2年度:407,975円 令和3年度:455,975円 令和4年度:438,975円) ■給食業務委託料 令和4年度までの累計実績 374,790,728円 令和2年度:業務委託料 74,563,500円 賄材料費 49,731,673円 令和3年度:業務委託料 75,834,000円 賄材料費 50,026,972円 令和4年度:業務委託料 75,834,000円 賄材料費 48,800,583円 ■修繕件数(R4 3,015千円) ・令和4年度までの累計実績 45件 内訳(令和2年度:16件 令和3年度:14件 令和4年度:15件) ■工事件数(R4 2,778千円) ・令和4年度までの累計実績 19件 内訳(令和2年度:7件 令和3年度:5件 令和4年度:7件) ■備品購入件数(R4 2,378千円) ・令和4年度までの累計実績 34件 内訳(令和2年度:7件 令和3年度:14件 令和4年度:13件)			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	令和4年度では実施できなかった施設整備もあった。また保育士研修では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になることもあったが、ZOOM会議での研修に積極的に参加した。					
課題	予算額の縮小。縮小した中でもよりよい保育園運営を行っていく。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	園児が安全に利用できるよう施設整備計画を進めること、保育士の確保、保育士の質の向上のための研修に積極的に参加し、引き続き保育内容の充実を図っていく。					
令和6年度事業計画	公立保育園8園を運営するために必要な会計年度任用保育士賃金や保育士の質の向上のための研修費、給食業務委託料、施設の修繕等の施設維持管理費等を支出する。					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	126	重要事業	総合戦略	担当部署	こども課 幼保支援係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
3・2・3	保育園施設整備事業		12,052千円	17,563千円	19,253千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶3_質の高い保育サービスの充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	保育需要への対応や子育て支援の拡充を図るために、その基盤となる公立保育園9園の保育施設を整備し、保育環境の維持向上を図る。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①保育園施設整備事業
・遊具の修繕や大規模な工事、調理器具等の備品購入を行う。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	①保育園施設整備事業 ・修繕、工事、備品購入		①保育園施設整備事業 ・修繕、工事、備品購入	①保育園施設整備事業 ・修繕、工事、備品購入	
	事業費	17,563	17,563	17,563	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	17,563	17,563	17,563	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 子育て環境（保育施設、相談、交流の場など）の充実度の満足度	30.1	目標値	-	-	34.1	-	36.1
	単位：%	実績値	-	-			
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	17,563 千円	令和4年度決算額	19,253 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■修繕件数 ・令和4年度までの累計実績 6件 内訳(令和2年度:1件 令和3年度:2件 令和4年度:3件) ■委託件数 ・令和4年度までの累計実績 2件 内訳(令和2年度:0件 令和3年度:0件 令和4年度:2件) ■工事件数 ・令和4年度までの累計実績 6件 内訳(令和2年度:1件 令和3年度:2件 令和4年度:3件) ■備品購入件数 ・令和4年度までの累計実績 11件 内訳(令和2年度:3件 令和3年度:5件 令和4年度:3件)		

【事業の評価】

【Check】 指標評価			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	施設、遊具、備品ともに経年劣化により修繕や工事、買い替えなどが必要となる。限られた予算の中で優先順位を考え、保育業務に支障が出ないようにする。		
課題	・予算額の縮小 ・施設整備計画の再検討		
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)		
	限られた予算の中で、優先順位を考えつつ、修繕や工事に対応すべきか、入替が必要なものか検討しながら施設整備を進めていかなければならない。		
令和6年度事業計画	施設、遊具、備品の修繕、大規模な工事、購入 南幼稚園解体・(仮称)南こども園新築工事、放課後児童クラブ設計委託		
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較		
備考			

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	127	重要事業	総合戦略	担当部署	こども課 児童館
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
3・2・6	児童館運営		34,902 千円	17,207 千円	20,264千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶11_社会全体で健やかな子どもの成長を支え、子育ての喜びを感じられるまちになる
施策の方向	▶2_地域子育て支援の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	健全な様々な遊びを提供し、豊かな心を育む子どもを増やすようにする
----------------	----------------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①児童館運営事業（3館共通）	安心・安全な施設の維持管理
②活動事業	<p>児童センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の協調性や連帯感の育成、体力の増進を図る 小学生事業の開催－わんぱくあそび隊、ホビキッズ、稲作&花栽培、あそびの広場 幼児～小学生対象－今月のあそび 親子対象－親子でアート、お楽しみ会 一般事業－親子deデイキャンプ、スノーシューハイキング など ・中高生の健全な居場所づくり 中高生事業の開催－冬休みスペシャル、春休みスペシャル など いつでも来れる居場所づくり、楽しく勉強できる環境づくり ・地域・世代間の交流（コロナで休止） 秋まつり、伝統芸能・獅子舞 <p>西児童館活動事業</p> <p>【小学生対象事業】※児童の協調性や連帯感の育成、体力の増進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室事業 なんでもチャレンジ隊（定員・通年） ・一般事業 みんなで遊ぼう作ろう（月2回）、いちご狩り、サッカー遊び など ・今月のあそび（毎日）※幼児～小学生対象 ・3館合同事業（休止） <p>【乳幼児親子対象事業】※親子の交流と子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室事業 1歳児親子（定員・通年）、2歳児親子（定員・通年） ・一般事業 なかよしひろば（月2～3回） <p>【その他の一般事業】※地域・世代間交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もちつき、獅子舞、ウインターコンサート など <p>赤羽児童館活動事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生対象事業 年度継続教室事業「わくわくクラブ」 定例事業「とにかく遊ぼう」 一般事業「不思議なおもちゃラボ」、「ハンドメイド工作」など小学生に向けた活動による 児童の協調性や連帯感の育成及び体力の増進 ・親子対象事業 年度継続教室事業 「ぴよぴよクラブ（0歳児）」、「トコトコクラブ（1歳児）」 定例事業「ともだちあつまれ」 一般事業「パトカー見学」「工事の車を見に行こう」「避難訓練&消防車見学」等による親子の交流や地域と連携した子育て支援の実施。 その他の一般事業 「夏祭り」「ハロハロ・ハロウィン」「焼いも大会」「春のレク大会」等、季節に合わせた事業の実施 「赤羽公民館夕涼み会」「赤羽公民館まつり」等地域行事への参画

【事業スケジュール】

(単位：千円)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		①運営事業 ・施設維持管理 ・感染症対策、衛生管理 ②活動事業 ・乳幼児親子教室 ・小学生対象事業 ・親子対象事業 ・中高生事業 ・その他の一般事業 ③整備事業 ・施設管理・設備更新事業 センター5,942千円、西2,529千円、赤羽2,553千円	①運営事業 ・施設維持管理 ・感染症対策、衛生管理 ②活動事業 ・乳幼児親子教室 ・小学生対象事業 ・親子対象事業 ・中高生事業 ・その他の一般事業 ③整備事業 ・施設管理・設備更新事業 (西トイレ洋式化2,000+センターエアコン6,000)	①運営事業 ・施設維持管理 ・感染症対策、衛生管理 ②活動事業 ・乳幼児親子教室 ・小学生対象事業 ・親子対象事業 ・中高生事業 ・その他の一般事業 ③整備事業 ・施設管理・設備更新事業
	事業費	17,207	25,207	25,207
財源	国庫	0	2,000	
	県費	0	2,000	
	市債	0		
	その他	132	132	132
	一般財源	17,075	21,075	25,075

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	総来館者数	85,506	目標値	86,337	86,753	87,169	87,584	88,000
		単位：人	実績値	21,534	36,648			
活動指標	一般事業参加者	9,795	目標値	9,863	9,898	9,932	9,966	10,000
		単位：人	実績値	3,474	5,937			
活動指標	乳幼児親子対象教室参加者	1,780	目標値	1,853	1,890	1,927	1,963	2,000
		単位：人	実績値	210	310			
活動指標	小中学生対象教室参加者	855	目標値	903	928	952	976	1,000
		単位：人	実績値	301	564			

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	17,207 千円	令和4年度決算額	20,264 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ 運営事業 ・ 利用状況（総来館者数） 令和2年度：12,593人、令和3年度：21,534人、令和4年度：36,648人 ■ 活動事業 ・ 一般事業参加延人数 令和2年度：1,899人、令和3年度：3,474人、令和4年度：5,937人 ・ 乳幼児親子対象教室参加延人数 令和2年度：304人、令和3年度：210人、令和4年度：310人 ・ 小学生対象教室参加延人数 令和2年度：166人、令和3年度：301人、令和4年度：564人		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である ■ 中 政策の推進に寄与している事業である □ 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある ■ 中 適切な成果が得られている □ 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある ■ 中 適切な費用対効果が得られている □ 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	指標については、総来館者数・事業参加者数ともに年度目標を下回っている。各指標の未達成の要因は、新型コロナウイルスの影響である。
課題	これまで児童館が果たしてきた機能・役割に加え、中・高校生世代への支援「居場所づくり」が課題となっている。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）
	今後、児童館が地域における「こどもの居場所」として、その機能・役割を十分に発揮し、子どもや保護者に寄り添い、誰もが安全・安心して利用できる場所を目指す。
令和6年度事業計画	① 運営事業 ・ 施設維持管理（安心・安全な施設の維持管理） ② 活動事業 ・ 一般事業 乳幼児親子対象事業（親子の交流と子育て支援の実施） 小学生事業（児童の協調性や連帯感の育成及び体力の増進を図る） 中高生事業（中高生の健全な居場所づくり） その他一般事業（地域・世代間の交流） ・ 年度継続教室活動 乳幼児親子対象教室（親子の交流と子育て支援の実施） 小中学生対象教室（児童の協調性や連帯感の育成及び体力の増進を図る）
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	128	重要事業	総合戦略	担当部署	こども課	幼保運営係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・4・1	幼稚園運営			58,051千円	78,509千円	66,087千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	給食用食材の購入や災害共済給付等により幼稚園の円滑な運営を進めるほか、幼稚園保育料の無償化により子育て世帯の経済的負担軽減を図る。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①幼稚園運営	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー教室及びラグビー教室の実施 幼児向けのサッカーやラグビーを体験させ、協調性を養うとともに健康な体づくりを目指す。 ・給食用食材等の購入 公立幼稚園の給食で使用する食材、調理用の白衣、食器や調理器具などを購入する。 ・幼稚園型一時預かり事業委託の実施 館林市子ども・子育て支援事業計画に基づき、家庭での保育が一時的にできなくなった在園児を一時的に預かる事業。委託先は常楽幼稚園（私立）。 ・施設型給付費 幼稚園の運営に係る費用を公定価格に基づき算出し補填するもの。園児数等により額の変動がある。 ・施設等利用給付費 子ども・子育て新制度に移行していない幼稚園に通う園児の利用料を上限内で支給するもの。また幼稚園に通う保護者が就労等の条件を満たした場合、保育料を上限内で補填するもの。 ・実費徴収に係る補足給付費 幼稚園に通う経済的な支援を必要とする世帯に対し、教材費や園行事に係る費用、給食費（副食費）等を一定額援助するもの。 ・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業費補助金 私立幼稚園職員の賃上げ効果が継続される取組を行うことを前提に、収入を引き上げるための措置を行う（令和4年10月以降は交付税措置の予定）。
--------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	事業費	66,087	66,087	66,087
	国庫	16,163	16,163	16,163
	県費	11,878	11,878	11,878
	市債	0	0	0
	その他	793	793	793
一般財源		37,253	37,253	37,253

【関連する指標】

活動指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	幼稚園への指導回数	15	目標値	15	15	15	15	15
		単位：回	実績値	15	-			
活動指標	園長会議の開催数	5	目標値	5	5	5	5	5
		単位：回	実績値	5	24			
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	78,509千円	令和4年度決算額	66,087千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<ul style="list-style-type: none"> ■ サッカー教室及びラグビー教室講師謝礼 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度までの3か年累計 405,000円 内訳 (令和2年度 135,000円 令和3年度 135,000円 令和4年度 135,000円) ■ 給食用賄材料費 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度までの3か年累計 35,175,613円 内訳 (令和2年度 11,170,191円 令和3年度 12,641,395円 令和4年度 11,364,027円) ■ 幼稚園型一時預かり事業委託費 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度までの3か年累計 2,715,000円 内訳 (令和2年度 973,000円 令和3年度 983,000円 令和4年度 759,000円) ■ 施設型給付費 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度までの3か年累計 86,566,179円 内訳 (令和2年度 24,766,120円 令和3年度 33,214,468円 令和4年度 28,585,591円) ■ 施設等利用給付費 ※対象者(延) <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度までの3か年累計 511人 5,104,120円 内訳 (令和2年度: 163人 1,842,270円 令和3年度: 187人 1,914,400円 令和4年度: 161人 1,347,450円) ■ 実費徴収に係る補足給付費 ※対象者(延) <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度までの3か年累計 75人 182,979円 内訳 (令和2年度: 31人 68,445円 令和3年度: 33人 83,045円 令和4年度: 11人 31,489円) 		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	令和4年度より幼稚園の所管が教育委員会から市長部局に移管。これに伴い教育長が出席する園長会議は廃止され、従来の自主園長会議と、保育園との合同園長会議を園長会議として位置付け、幼保の共通理解を深めることができた。
課題	公立幼稚園の認定こども園化に向け、保育園との共通理解や共通認識を図りスムーズに移行できるようにする。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	今後も幼稚園の運営が円滑に運ぶよう事業を行うとともに、こども園化後も運営が円滑に運ぶよう尽力する。
令和6年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ サッカー教室及びラグビー教室の実施：幼児向けのサッカーやラグビーの体験を通じ、協調性を養うとともに健康な体づくりを目指す。 ・ 給食用食材等の購入：公立幼稚園の給食で使用する食材等を購入する。 ・ 幼稚園型一時預かり事業の実施：市子ども・子育て支援事業計画に基づき、家庭保育が一時的にできなくなった在園児を預かる。私立常楽幼稚園に委託。 ・ 施設型給付費：幼稚園の運営費用を公定価格に基づき算出・交付する。園児数等により額が変動。 ・ 施設等利用給付費：新制度未移行幼稚園への利用料や保育の必要性が認められる幼稚園利用者の利用料を一定基準内で補填するもの。 ・ 実費徴収に係る補足給付費：幼稚園を利用する経済的支援が必要な世帯に教材費や給食費等を一定額援助するもの。
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	129	重要事業	○	総合戦略	担当部署	こども課 教育総務課	幼保支援係 施設整備係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・4・1	幼稚園認定こども園化事業			千円	55,200 千円	82,247千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	子どもに質の高い教育・保育を提供することを目的として策定された「公立幼稚園・保育園就学前教育・保育のあり方に関する方針」に基づき、少子化による園児の減少や共働き世帯の増加に対応するとともに、子育て環境のさらなる充実を図るため、効率幼稚園の認定こども園化を推進する。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

幼稚園認定こども園化事業【重要事業】【新規】	<ul style="list-style-type: none"> ○北幼稚園認定こども園化の準備 法適合改修(建築、都市計画、消防) 床暖房設置、調理室改修 調乳室設置、その他改修 ○東幼稚園認定こども園化の準備 法適合改修(建築、都市計画、消防) 床暖房設置、調理室改修 調乳室設置、その他改修 ○公立幼稚園の認定こども園移行準備 認定こども園移行のための各種調整、県への申請手続き等。 幼稚園教諭と保育士を対象とした認定こども園移行に際しての研修会の実施
------------------------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	幼稚園認定こども園化事業【重】 【新】	幼稚園認定こども園化事業【重】 【新】	幼稚園認定こども園化事業【重】 【新】	幼稚園認定こども園化事業【重】 【新】	
		○北幼稚園認定こども園化の準備 ○東幼稚園認定こども園化の準備 ○公立幼稚園の認定こども園移行準備	○南幼稚園認定こども園化の準備 ○公立幼稚園の認定こども園移行準備	○杉並・西幼稚園認定こども園化の準備 ○公立幼稚園の認定こども園移行準備	
	事業費	55,200	33,050	66,050	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
市債		18,800	0	0	
その他		0	0	0	
	一般財源	36,400	33,050	66,050	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	認定こども園移行に伴う会議・打合せの回数	9	目標値	9	9	10	10	/
		単位：回	実績値	51	87	/	/	/
活動指標	認定こども園移行に伴う研修会の回数	1	目標値	1	1	1	1	/
		単位：回	実績値	19	15	/	/	/
			目標値					/
			単位：	実績値				/
			目標値					/
			単位：	実績値				/

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	55,200千円	令和4年度決算額	82,247千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【こども課】 北幼稚園認定こども園化のための物品（備品、消耗品）購入等 東幼稚園認定こども園化のための物品（備品、消耗品）購入等 北幼稚園認定こども園化のためのソフト事業（打合せ、説明会、研修会等） 東幼稚園認定こども園化のためのソフト事業（打合せ、説明会、研修会等） 【教育総務課】 北幼稚園認定こども園化改修工事 東幼稚園認定こども園化改修工事 南幼稚園認定こども園化改修工事設計業務委託			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	認定こども園化事業は市長公約であるとともに総合計画重要事業に位置付けられており、少子化等を背景とした多様な子育てニーズに応えるためには必要不可欠な事業である。また令和5年4月1日から開園するための施設改修や物品購入、その他交換保育体験や勉強会の実施など、ハード面の準備だけでなくこども園開園に向けたソフト事業も実施した。			
課題	改修には多くの経費が必要なため、国庫補助金等を活用しながら実施していく必要がある。またこども園は厚生労働省管轄であった保育士と文部科学省管轄である幼稚園教諭という全く保育に対する考え方や教え方が異なる職員と一緒に働く場であるため、「こどものため」という大義名分のもと、歩み寄る気持ちを持ちつつ協力して同じ方向を向いて保育をしていけるよう環境整備をする必要がある。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）			
	「公立幼稚園・保育園 就学前の教育・保育のあり方に関する方針」や令和5年度に作成した実施計画に基づき、民営化も検討しながらハード面だけでなく、ソフト面も考慮した認定こども園化事業を推進していく。			
令和6年度事業計画	・南幼稚園の解体工事の実施 ・（仮称）南こども園の新築工事の実施 ・（仮称）南こども園化に向けたソフト事業の実施 ・公立幼稚園（杉並、西）の認定こども園化検討・準備 ・民営化の推進			
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	130	重要事業		総合戦略		担当部署	教育総務課 総括係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・1・2	奨学資金貸付事業			86,027千円	93,994千円	75,643千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	進学の意欲と能力を有する者で、経済的理由により進学することが困難な者に対し必要な資金を貸与し、有為の人材を育成する。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

【主要な事業】奨学資金貸付事業

○内容：奨学資金の貸与

○令和4年度貸与計画（対象・金額・人数）

- ・高等学校又は専修学校の高等課程に在学する者 月額9,000円以内（新規2人・継続1人）
 - ・高等専門学校に在学する者 月額17,500円以内（新規1人・継続0人）
 - ・専修学校の専門課程又は大学に在学する者 月額39,900円以内（新規55人・継続118人）
- ※新規には追加募集分を含む

○貸与期間：在学する学校の正規の修業期間

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	奨学資金の貸与	○新規分 58人 （高校1人、専修高等1人、高専1人、専修専門5人、大学50人）	奨学資金の貸与	奨学資金の貸与
	○継続分 119人 （高校1人、専修高等0人、高専0人、専修専門12人、大学106人）	○新規分 58人 （高校1人、専修高等1人、高専1人、専修専門5人、大学50人）	○継続分 99人 （高校1人、専修高等0人、高専0人、専修専門6人、大学92人）	○新規分 58人 （高校1人、専修高等1人、高専1人、専修専門5人、大学50人）
	奨学資金管理システム導入【新】 ・10,065千円			○継続分 113人 （高校1人、専修高等1人、高専1人、専修専門9人、大学101人）
事業費		93,994	74,640	80,703
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	85,429	73,982	73,928
	一般財源	8,565	658	6,775

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
		単位：					
		実績値					
		単位：					
		目標値					
		単位：					
		実績値					
		単位：					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	76,010千円	令和4年度決算額	75,643千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■貸与者数 ・令和2年度：167名（内訳 高校3名、専修学校専門課程14名、大学150名） ・令和3年度：152名（内訳 高校3名、専修学校専門課程16名、大学133名） ・令和4年度：142名（内訳 高校1名、専修学校専門課程15名、大学126名） ■貸与額（決算額） ・令和2年度：78,408,300円 ・令和3年度：70,947,000円 ・令和4年度：67,259,700円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価				
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	本市奨学金の貸与者については、少子化とともに減少傾向が見られるものの、引き続き希望者は少なくない状況である。また、家計の急変に備え、必要とする学生が必要な支援を受けられる奨学金制度は、有為な人材育成とともに社会安定のためにも極めて重要であり、当該制度の継続は妥当と考える。			
課題	給付型奨学金を含む国による就学支援が進む中、本市奨学金についても、国や他市の状況等を踏まえ、よりよい制度となるよう検討する必要がある。また、貸付金の財源に充当される返済金については、制度の安定運営のためにも滞納整理に引き続き取り組む必要がある。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）			
	奨学金制度について国や他市の状況を見極めながら、よりよい制度となるよう検討を進めるとともに、滞納整理に継続的に取り組み、経済的な理由で進学を断念する者が生じないよう当該事業の安定的な運営を継続する。			
令和6年度事業計画	奨学資金の貸与 ○新規分 56人（高校1人、専修高等1人、高専1人、専修専門3人、大学50人） ○継続分 85人（高校0人、専修高等0人、高専0人、専修専門9人、大学76人）			
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	131	重要事業	総合戦略	担当部署	教育総務課	施設整備係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・2・1	小学校施設維持管理		64,064千円	67,107千円	67,071千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12 自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1 学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	施設の維持修繕工事、消防設備・自家用電気工作物・コンピューターの管理業務委託、プール設備・昇降機の点検管理委託、機械警備委託、害虫駆除委託等を行い、小学校施設を適切に維持管理する。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

維持修繕工事 全校校舎・屋内運動場等設備改修工事・遊具改修工事 一小高圧気中開閉器交換工事 二小プール底上げ工事 六小手摺取付工事 八小キュービクル更新工事 ワイヤレスマイク交換工事（一、七、美園小以外）	施設保守点検業務委託 機械警備委託 給食用昇降機保守管理委託（四・七小除く9校） 浄化槽保守点検委託（四・五・七・九・十・ことば） 自家用電気工作物保守管理委託 プールろ過機関係設備保守点検委託 消防設備保守点検委託 遊具保守点検委託 一般廃棄物収集運搬委託 大型廃棄物処理委託 受水槽高架水槽清掃業務委託 校務システム・教育ネットワーク関係業務委託 樹木伐採・剪定業務委託 建築基準法第12条に係る定期点検報告書作成業務委託
---	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	維持修繕工事（全校） 施設保守管理業務委託（全校）		維持修繕工事（全校） 施設保守管理業務委託（全校）	維持修繕工事（全校） 施設保守管理業務委託（全校）	
	事業費	67,107	67,107	67,107	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		1	0	0	
	一般財源	67,106	67,107	67,107	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	67,107 千円	令和4年度決算額	67,071 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	維持修繕工事 令和2年度：十小高圧気中開閉器改修工事他48件 令和3年度：三小屋内運動場軒樋改修工事他67件 令和4年度：八小キュービクル改修工事他58件 施設保守管理業務委託 消防・自家用電気工作物・コンピューター・プール設備・昇降機・機械警備他 令和2年度：43件 令和3年度：37件 令和4年度：57件			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	小学校の施設を教育の場として常に好ましい状態に維持するために施設の維持管理を行うことは重要である。また、施設管理を計画的に行うことにより長寿命化を図ることができる。					
課題	施設の老朽化に伴い、各学校から修繕等の要望が増加しているが、全てに対応ができない。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	施設の維持管理に努めるとともに、限られた予算を有効に活用できるよう、施設の老朽度や要望等を踏まえながら事業の優先順位を考慮の上事業を執行していく。					
令和6年度事業計画	小学校11校の施設維持管理を行う。					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	132	重要事業	○	総合戦略	担当部署	教育総務課	施設整備係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・2・3	小学校施設整備事業			120,717千円	40,430千円	199,628千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12 自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1 学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	良好な教育環境を確保するため老朽化した施設・設備の改修を行う。
----------------	---------------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

小学校施設整備事業【重要事業】 二小管理教室棟防水改修工事 八小トイレ改修工事 特別教室空調設備設置工事 九小トイレ改修工事設計業務委託	良好な教育環境を確保するため、老朽化した屋上の改修、トイレ改修、特別教室の空調設備設置、トイレ改修工事の設計を実施する。
---	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	小学校施設整備事業【重】 二小屋上防水改修工事 八小トイレ改修工事（R3繰越事業） 二小屋上防水改修工事 特別教室空調設備設置工事（R3繰越事業） 九小トイレ改修工事設計業務委託		小学校施設整備事業【重】 九小トイレ改修工事 三小トイレ改修工事設計業務委託 特別教室空調設備設置工事	小学校施設整備事業【重】 三小トイレ改修工事 美園小トイレ改修工事設計業務委託 図書室空調設備更新工事	
	事業費	40,340	72,321	108,768	
	財源	国庫	0	22,530	22,072
		県費	0	0	0
		市債	33,500	43,800	43,400
その他		0	0	0	
一般財源	6,840	5,991	43,296		

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	トイレの洋式化率	44.05	目標値	55.85	61.75	67.65	73.55	80.00
		単位：%	実績値	53.32	59.00			
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	40,340千円	令和4年度決算額	199,628千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和2年度：校内LAN改修工事 八小屋上防水改修工事 職員室等空調設備更新工事（R元繰越事業） 二小トイレ改修工事（R元繰越事業） 令和3年度：特別教室空調設備設置工事 五小屋内運動場大規模改修工事（R2繰越事業） 七小トイレ改修工事（R2繰越事業） 令和4年度：二小屋上防水改修工事 特別教室空調設備設置工事（R3繰越事業） 八小トイレ改修工事（R3繰越事業）			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	学校施設は児童・生徒が一日の大半を過ごす学習の場であり、生きる力を育むための教育環境として重要な施設であるとともに地域の防災拠点（避難場所）であることから、トイレの洋式化、施設の老朽化対策事業を今後も実施していく必要がある。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進み、改修に必要な経費が増加している。 ・財政状況が厳しいため施設の状況に応じ優先順位を付けながら計画を見直す必要がある。 					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	良好な教育環境とするため、また避難施設としての機能を維持するため、トイレの洋式化、施設の老朽化対策事業を実施していく。					
令和6年度事業計画	美園小学校トイレ改修工事 第三小学校トイレ改修工事 図書室空調設備改修工事					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	133	重要事業	総合戦略	担当部署	教育総務課	施設整備係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・3・1	中学校施設維持管理			23,508千円	34,320千円	34,247千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12 自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1 学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	施設の維持修繕工事、消防設備・自家用電気工作物・コンピューターの管理業務委託、プール設備・昇降機の点検管理委託、機械警備委託、害虫駆除委託等を行い、中学校施設を適切に維持管理する。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

維持修繕工事 全校校舎・屋内運動場等設備改修工事 一中1階教室空調設備設置工事 二中柔剣道場雨漏解消工事 四中プール塗装改修工事 四中放送設備改修工事 ワイヤレスマイク交換工事(二、三、多中)	施設保守点検業務委託 機械警備委託 給食用昇降機保守管理委託 浄化槽保守点検委託(三中) 自家用電気工作物保守管理委託 プールろ過機関係設備保守点検委託 消防設備保守点検委託 一般廃棄物収集運搬委託 大型廃棄物処理委託 受水槽高架水槽清掃業務委託 校務システム・教育ネットワーク関係業務委託 樹木伐採・剪定業務委託 建築基準法第12条に係る定期点検報告書作成業務委託
---	--

【事業スケジュール】

(単位：千円)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	維持修繕工事(全校)	維持修繕工事(全校)	維持修繕工事(全校)	維持修繕工事(全校)
	施設保守管理業務委託(全校)	施設保守管理業務委託(全校)	施設保守管理業務委託(全校)	施設保守管理業務委託(全校)
	事業費	34,320	34,320	34,320
	財源			
	国庫	0	0	0
県費	0	0	0	
市債	0	0	0	
その他	361	0	0	
一般財源	33,959	34,320	34,320	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	34,320 千円	令和4年度決算額	34,247 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	維持修繕工事 令和2年度：三中高圧気中開閉器交換工事他29件 令和3年度：一中プール給水設備改修工事他26件 令和4年度：四中プール塗装工事他36件 施設保守管理業務委託 消防・自家用電気工作物・コンピューター・プール設備・昇降機・機械警備他 令和2年度：23件 令和3年度：25件 令和4年度：38件			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	中学校の施設を教育の場として常に好ましい状態に維持するために施設の維持管理を行うことは重要である。また、施設管理を計画的に行うことにより長寿命化を図る事ができる。					
課題	施設の老朽化に伴い、各学校から修繕等の要望が増加しているが全てに対応ができない。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	施設の維持管理に努めるとともに、限られた予算を有効に活用できるよう、施設の老朽度や要望等を踏まえながら事業の優先順位を考慮の上事業を執行していく。					
令和6年度事業計画	中学校5校の施設維持管理を行う。					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	134	重要事業	○	総合戦略		担当部署	教育総務課	施設整備係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)		
10・3・3	中学校施設整備事業			58,014千円	83,900千円	214,906千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	良好な教育環境を確保するため老朽化した施設・設備の改修を行う。
----------------	---------------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

中学校施設整備事業【重要事業】 三中管理・特別教室棟外壁改修工事 特別教室空調設備設置工事(三・四・多中) 四中トイレ改修工事 二中特別教室等空調設備改修工事 良好な教育環境を確保するため、老朽化した校舎の外壁改修、特別教室等の空調設備設置を実施する。
--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		中学校施設整備事業【重】 三中管理・特別教室棟外壁改修工事 特別教室空調設備設置工事(三・四・多中) 四中トイレ改修工事 (R3 繰越事業) 二中特別教室等空調設備改修工事 (R3 繰越事業)	中学校施設整備事業【重】 図書室空調設備改修工事	
事業費		83,900	7,788	
財源	国庫	15,642	0	0
	県費	0	0	0
	市債	51,100	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	17,158	7,788	0

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
活動指標	トイレの洋式化率	70.34	目標値	73.56	75.17	76.78	78.39	80.00
		単位：%	実績値	70.79	81.85			
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	83,900 千円	令和4年度決算額	214,906 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和2年度：特別教室空調設備設置工事 校内LAN改修工事 四中屋内運動場大規模改修工事（R元繰越事業） 職員室等空調設備更新工事（R元繰越事業） 令和3年度：三中普通教室棟外壁改修工事 特別教室空調設備設置工事（R2繰越事業） 令和4年度：三中管理特別教室棟外壁改修工事 特別教室空調設備設置工事 二中職員室他5室空調設備改修等工事（R3繰越事業） 四中トイレ改修工事（R3繰越事業）		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A		
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	学校施設は児童・生徒が一日の大半を過ごす学習の場であり、生きる力を育むための教育環境として重要な施設であるとともに地域の防災拠点(避難場所)であることから、トイレの洋式化、施設の老朽化対策事業を今後も実施していく必要がある。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進み、改修に必要な経費が増加している。 ・財政状況が厳しいため施設の状況に応じ優先順位を付けながら計画を見直す必要がある。 		
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）		
	良好な教育環境とするため、また避難施設としての機能を維持するため、施設の老朽化対策事業を実施していく。		
令和6年度事業計画	図書室空調設備改修工事(三中・四中)		
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較		
備考			

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	135	重要事業		総合戦略		担当部署	教育総務課	施設整備係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)		
10・4・1	幼稚園施設維持管理			14,282千円	11,877千円	11,299千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	施設の維持修繕工事を行い、幼稚園施設を適切に維持管理する。
----------------	-------------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

維持修繕工事	園舎等設備改修工事、遊具改修工事 ワイヤレスマイク交換工事（西幼稚園以外） ガスヒートポンプエアコン改修工事（東幼稚園以外） 南幼稚園放送設備改修工事
--------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業スケジュール	維持修繕工事（全園）	維持修繕工事（全園）	維持修繕工事（全園）
事業費	11,877	11,877	11,877
財源	国庫	0	0
	県費	0	0
	市債	0	0
	その他	0	0
	一般財源	11,877	11,877

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	11,877千円	令和4年度決算額	11,299千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	維持修繕工事 令和2年度：西幼稚園排水管改修工事他8件 令和3年度：南幼稚園庇改修工事他11件 令和4年度：幼稚園ガスヒートポンプエアコン改修工事他14件 施設保守管理業務委託 消防・昇降機・機械警備他 令和2年度：18件 令和3年度：25件 令和4年度：15件			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	幼稚園の施設を教育の場として常に好ましい状態に維持するために施設の維持管理を行うことは重要である。また、施設管理を計画的に行うことにより長寿命化を図ることができる。					
課題	施設の老朽化に伴い、各園から修繕等の要望が増加しているが全てに対応ができない。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	施設の維持管理に努めるとともに、限られた予算を有効に活用できるよう、施設の老朽度や要望等を踏まえながら、事業の優先順位を考慮の上事業を執行していく。					
令和6年度事業計画	幼稚園3園の施設維持管理を行う。					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	136	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・1・3	学校教育総務		9,428千円	14,383千円	15,539千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	学校教育運営に必要な事業（事務費等の経常的経費のほか、各種システムの運用、健診及び検査の実施、ICTの活用等）を行う。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①学校教育運営（経常）	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ問題調査委員会の運営 いじめ対策に関し必要な助言を行う。法律や医療等の専門家5名で組織され、年3回程度実施（報酬あり）。 ・ 「ロイロノート・スクール」の活用【新規】 授業支援ソフトを導入し、思考ツールや共有ファイルを活用しながら、児童生徒の情報活用能力を育成するとともに、教職員の教材研究の負担軽減など業務改善を図っていく。
②学校教育運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学時健診の実施 小学校入学予定者の健康診断を行うことで、疾病の早期発見と早期治療による入学までの健康回復、知能検査結果による適切な教育の提供などを目指す。市内小学校11校で実施。 ・ ICT活用支援業務委託 学校でのICT機器の効果的な活用や児童生徒の能力に応じた学びを進めるとともに、教職員の能力向上や負担軽減のためのサポートを行うためICT支援員を配置し、必要な学校へ巡回してもらう。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①学校教育運営（経常）	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ問題調査委員会の運営 ・ 「ロイロノート・スクール」の活用【新】 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校教育運営（経常） ・ いじめ問題調査委員会の運営 ・ 「ロイロノート・スクール」の活用【新】 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校教育運営（経常） ・ いじめ問題調査委員会の運営 ・ 「ロイロノート・スクール」の活用【新】
	②学校教育運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学時健診の実施 ・ ICT活用支援業務委託 	<ul style="list-style-type: none"> ②学校教育運営 ・ 就学時健診の実施 ・ ICT活用支援業務委託 	<ul style="list-style-type: none"> ②学校教育運営 ・ 就学時健診の実施 ・ ICT活用支援業務委託
事業費		14,383	14,383	14,383
財源	国庫	10,031	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	4,352	14,383	14,383

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画指標	学校における教育の情報化（統合型校務支援システム整備率）	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100	100			
総合計画指標	学校における教育の情報化（教員のICT活用指導力）	82.9	目標値	88.6	91.5	94.3	97.2	100
		単位：%	実績値	84.9	84.8			
活動指標	就学時健康診断の受診率	96.1	目標値	97.4	98.05	98.7	99.35	100
		単位：%	実績値	98.3	99.0			

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	14,383千円	令和4年度決算額	15,539千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■いじめ問題調査委員会実施回数 令和2年度 3回 令和3年度 1回 令和4年度 7回 ■就学時健診の実施数 令和2年度 小学校11校 (受診者533人/対象者540人) 令和3年度 小学校11校 (受診者530人/対象者539人) 令和4年度 小学校11校 (受診者517人/対象者522人) ■ICT活用支援業務委託 令和3年度 巡回校数 延べ237校 " ICT支援員数 5人 令和4年度 巡回校数 延べ248校 " ICT支援員数 5人			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	就学時健診では、次年度就学予定の子どもの健康状態や学習能力を把握し、適切な就学先の判断や入学後の適切な支援を進めることができた。またICT活用支援業務委託では、民間活力を得て学校におけるICT教育の推進や教職員へのサポートに資することができた。			
課題	・多岐にわたる学校でのいじめ問題に対して、有識者からの指導助言を得ることのできる機会を充実させる必要がある。 ・ICT教育の更なる推進を図るとともに、学校間での学力格差が生じないようにサポートを継続していく必要がある。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	児童生徒が安全安心な学校生活を送るための施策を充実させるとともに、ICTを効果的に活用した授業運営や教職員への適切なサポートを継続して実施していく。			
令和6年度事業計画	・いじめ問題調査委員会の適宜開催 ・校務支援システム、授業支援アプリ等ICTの効果的な活用 ・就学時健診の実施 ・ICT活用支援業務委託の継続実施			
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	137	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・1・3	学校教育指導事業		2,933千円	3,191千円	2,886千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	社会の変化に主体的に対応できる心豊かでたくましい児童・生徒の育成や学校教育の課題解決を目指し、指導体制の充実を図る。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①学校教育指導事業	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導助手の配置 日本語学級に在籍する外国籍の児童生徒に対し、日本語教育を充実させるための教員を臨時的に任用する（第十小学校、第三中学校に計3名配置）。 ・美術展及び書道展等の委託 <ul style="list-style-type: none"> <小中学生美術展> 小中学校長会主催で、児童生徒の造形作品を広く鑑賞する機会を設けるとともに、児童生徒の表現力や造形的な見方を伸ばし、図工美術教育の充実を図る。 <小中学生書道展> 小中学校長会主催で、児童生徒が文字を正しく整えて書く書写能力と心構えを養うため、広く作品鑑賞の機会を設けるもの。 <小中学生読書感想文編集事業> 優れた読書感想文集を作成し、国語の学習への活用や読書への興味関心を高める。 ・教職員研修会の実施 教職員の資質向上を目的に、テーマに合わせた講師を招聘し講演会を開催する（人権教育研修会と合同開催）。
-----------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①学校教育指導事業 ・日本語指導助手の配置 ・美術展及び書道展等の委託 ・教職員研修会の実施	①学校教育指導事業 ・日本語指導助手の配置 ・美術展及び書道展等の委託 ・教職員研修会の実施	①学校教育指導事業 ・日本語指導助手の配置 ・美術展及び書道展等の委託 ・教職員研修会の実施	①学校教育指導事業 ・日本語指導助手の配置 ・美術展及び書道展等の委託 ・教職員研修会の実施
事業費		3,191	3,191	3,191
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	3,191	3,191	3,191

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	指導主事による学校訪問の回数	145	目標値	145	145	145	145	145
		単位：回	実績値	148	129			
活動指標	日本語指導を必要とする児童生徒数	39	目標値	39	40	40	40	40
		単位：人	実績値	41	40			
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	3,191千円	令和4年度決算額	2,886千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【日本語指導助手】 令和2年度～令和4年度 第十小学校と第三小学校に各1名配置 【美術展・書道展】 令和2年度 中止（学校にて開催） 令和3年度 中止（学校にて開催） 令和4年度 共に市内展示施設で開催 【教職員研修会】 令和2年度 中止 令和3年度 テーマ「防災教育の新たな潮流」 受講者数約400名（オンライン） 令和4年度 テーマ「地域とともにある学校づくり」 受講者数約400名			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事による学校訪問を例年より多く実施し、学校での教育活動に対して指導助言を行う機会をつくることのできた。 ・外国籍の児童生徒の増加に伴い、日本語指導が必要な子どもの人数も増加が見られる。 ・美術展や書道展は、感染症の流行が落ち着いてきたことから予定どおりの開催となった。 ・教職員研修（全教職員対象）では、令和4年度に3年ぶりとなる対面での開催ができた。 			
課題	外国籍の児童・生徒が増加しており、日本語指導助手や日本語学級数に不足が生じている。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）			
	日本語指導に関しては、近年の外国籍児童生徒への対応が増加傾向であることから、現在の十小と三中だけでなく他校へも日本語指導助手の配置や日本語学級の新規開設などを考えていく必要がある。			
令和6年度事業計画	日本語指導助手の増員と、日本語学級の新規開設			
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	138	重要事業	○	総合戦略	担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・1・3	学力向上対策事業			14,124千円	14,594千円	13,548千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12 自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4 確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	基礎学力の向上を目指し、教育方法の改善・充実を図る。また学力診断を通じて児童生徒の学力を把握し、実践指導に活かす。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①児童生徒学力向上対策事業【重要事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・学力診断の実施 学力診断を実施して児童生徒の学力を把握し、実践指導に生かす。 小学校(CRT) 3～6年(国語・算数) 小学校(CRT) 5～6年(社会・理科) 中学校(CRT) 1～2年(国語・社会・数学・理科・英語) 中学校(NRT) 1年(国語・社会・数学・理科・英語) 知能検査 中学1年 生徒の学習基礎能力を把握し、NRTの結果と組み合わせることで、実践指導や支援に生かす。 ・オンライン学習「スタディサプリ」の実施 家庭学習の一助として小学3年生から中学3年生を対象にオンライン学習サービス「スタディサプリ」を実施する。 ・要保護・準要保護児童生徒へのタブレット貸与 家庭でオンライン学習を行うにあたり、経済的な支援を必要とする要保護・準要保護世帯へタブレット端末を貸与する。
②校内・園内研修事業	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修及び園内研修の充実を図る。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①児童生徒学力向上対策事業【重】	<ul style="list-style-type: none"> ・学力診断の実施 ・オンライン学習「スタディサプリ」の実施 ・要保護・準要保護児童生徒へのタブレット貸与 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒学力向上対策事業【重】 ・学力診断の実施 ・オンライン学習「スタディサプリ」の実施 ・要保護・準要保護児童生徒へのタブレット貸与 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒学力向上対策事業【重】 ・学力診断の実施 ・オンライン学習「スタディサプリ」の実施 ・要保護・準要保護児童生徒へのタブレット貸与
	②校内・園内研修事業	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修及び園内研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ②校内・園内研修事業 ・校内研修及び園内研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ②校内・園内研修事業 ・校内研修及び園内研修の実施
事業費		14,594	14,594	14,594
財源	国庫	2,317	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	12,277	14,594	14,594

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 標準学力テストで全国平均を上回る学校数（小学校）	11 単位：校	目標値	11	11	11	11	11
		実績値	7	4			
総合計画指標 標準学力テストで全国平均を上回る学校数（中学校）	3 単位：校	目標値	4	4	4	5	5
		実績値	4	2			
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	14,594千円	令和4年度決算額	13,548千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<CRT> 令和2年度 小学生3～6年生 (3～4年：2教科、5～6年：4教科) 延べ7,395人 中学生1～2年生 (5教科) 延べ6,011人 令和3年度 小学生3～6年生 (3～4年：2教科、5～6年：4教科) 延べ7,395人 中学生1～2年生 (5教科) 延べ6,011人 令和4年度 小学生3～6年生 (3～4年：2教科、5～6年：4教科) 延べ7,080人 中学生1～2年生 (5教科) 延べ5,714人		
	<NRT> 令和2年度 中学生1年生 (4教科) 延べ2,444人 令和3年度 中学生1年生 (4教科) 延べ2,444人 令和4年度 中学生1年生 (4教科) 延べ2,894人		
	<提案授業公開> 令和2年度 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施せず。 令和3年度 小学校算数(第四小)、中学校英語(多中) ※縮小開催 令和4年度 小学校社会(第八小)、中学校国語(第三中) ※縮小開催		
	<スタディサプリ> 令和3年度 スタディサプリ登録率98.5% 児童生徒アクティブ率33.4% 令和4年度 スタディサプリ登録率98.3% 児童生徒アクティブ率41.8%		
	※過去3カ年		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	指標については、標準学力テストで全国平均を上回る学校数が、年度目標に比べ、小学校も中学校も下回っている。小中学校ともに、結果を基に児童生徒の実態を把握し、個に応じた支援や授業改善に生かすことができている。
課題	標準学力テストの結果を分析し、学習指導要領に則した授業改善により、児童生徒の学力向上をさらに図る必要がある。 スタディサプリについては、児童生徒の個別最適な学習に向けて有効な活用をさらに図り、児童生徒の学力向上につなげる必要がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止) ・児童生徒の学力向上と教師の授業改善を図るためには、成果と課題について数値データに基づく客観的な評価を継続していく必要がある。 ・CRTを小学校3年生以上での実施から、小学校1年生からの実施とし、低学年からの適切な指導や個に応じた支援を行い、基礎・基本の定着を図る。 ・スタディサプリについては、個別最適な学びを実現していくために、各単元の確認のために活用し、フォローアップ配信をするなど、児童生徒のつまづきに応じた学習に取り組めるようにし、基礎・基本の確実な定着を図る。 ・学校と家庭の学びをつなぎ、個別最適な学びを実現していくために、要保護・準要保護児童生徒へのタブレット貸与も継続していく必要がある。
令和6年度 事業計画	①児童生徒学力向上対策事業 ・学力診断の実施 ・オンライン学習「スタディサプリ」の実施 ・要保護・準要保護児童生徒へのタブレット貸与 ※希望者のみ ②校内・園内研修事業 ・校内研修及び園内研修の実施
予算規模 見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	139	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・1・3	英語教育推進事業			68,115千円	75,186千円	69,533千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	児童生徒の英語力や学習意欲の向上を図るとともに、国際化社会に対応するため英語指導助手を配置し、国際理解教育を推進する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①英語教育推進事業【重要事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・館林版「英語村」の開催 ALTとの交流を豊かに体験できる機会を子ども達の身近な環境に設定し、英語でコミュニケーションを図る力を育成するために、4つの柱でプログラムを実施する。 ・英語検定料補助金 館林市内在住または市内の小中学校に在籍し、英検3級以上を受検した児童生徒の保護者を対象に、検定料の半額を助成する。ただし、4,000円を上限とし、申請は1人につき年度内に1回とする。
②小学校英語指導助手配置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT（直接任用）の配置 ・ALT（派遣）の配置 1校1名配置し、小学校における英語活動・英語科の全授業で日本人教師とのチームティーチングを行うとともに、教材作成や日本人教師の指導力向上を図るための研修を行う。また、館林版英語村プロジェクトにおいて活用する。
③中学校英語指導助手配置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT（JET）の配置 1校1名配置し、英語によるコミュニケーション力を育成するとともに、国際社会で活躍できる子どもの育成のために活用する。また、館林版英語村プロジェクトにおいて活用する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度			
事業 スケジュール	①英語教育推進事業【重】	<ul style="list-style-type: none"> ・館林版「英語村」の開催 ・英語検定料補助金 	<ul style="list-style-type: none"> ・館林版「英語村」の開催 ・英語検定料補助金 	<ul style="list-style-type: none"> ・館林版「英語村」の開催 ・英語検定料補助金 			
	②小学校英語指導助手配置事業				②小学校英語指導助手配置事業	②小学校英語指導助手配置事業	
	③中学校英語指導助手配置事業				③中学校英語指導助手配置事業	③中学校英語指導助手配置事業	
	事業費				75,186	75,186	75,186
	財源						
	国庫	0	0	0			
	県費	0	0	0			
	市債	0	0	0			
	その他	0	0	0			
	一般財源	75,186	75,186	75,186			

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
活動指標	A L T の配置校数（置籍校）	目標値	10	12	13	14	15	16
		実績値	10	15	16			
活動指標	英語検定料補助金交付者数（市内学校）	目標値	0	100	150	200	250	300
		実績値	0	245	359			
		目標値						
		実績値						

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	75,186千円	令和4年度決算額	69,533千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	英語教育推進事業【令和3年度より開始】 (1) 館林版「英語村」として以下の4つの事業を行った。 ①夏休み英語イベント(小・中)：小学校では2日間延べ98名、中学校では2日間延べ18名の参加があった。 ②授業時間以外での英語にふれる活動：全小中学校において、掲示物の作成や活動を行っている様子が見られた。 ③オンライン英会話：年間3回実施、計19名の参加があった。 ④All English Day：4～10名のALTが全小中学校を訪問し、子どもたちと英語でふれあう活動を実施した。 (2) 英語検定料補助金 館林市内在住または在学の児童生徒延べ360名の保護者に交付を行った。 (3) 市内全校へのALTの配置 全校配置を行うことにより、各校での英語にふれる環境整備を推進できた。また、授業における担当教員との打合せをしやすくなった。		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	(1) 英語村事業では、参加者への各種アンケートで高評価が得られた。①夏休み英語イベントのアンケートにおいて、64名の回答数のうち「とても満足・やや満足」が100%であった。④All English Dayのアンケートでは、小中学生1,609名の回答数のうち、「楽しかった、とても楽しかった」が98%であった。 (2) 英語検定料補助金では、前年度よりも100名以上の申請数の増加が見られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に向けたイベントの参加者数が少なかった。単に「楽しい」というだけではなく「参加するとどのようなことが学べるか」ということについて、様々な方法で周知すべきであった。 ・オンライン英会話講座では、定員を満たすことが出来ず、周知や講座の魅力発信が不徹底であった。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	<ul style="list-style-type: none"> ・英語のイベントを行う際、「何を学べるか、得られるか」を明確にし、それをチラシ等に掲載する。 ・チラシ配布だけでなく、スマートフォンアプリ「Home&School」を用いて、イベント内容を配信する。 ・各校英語主任に働きかけ、迷っている児童生徒に声をかけてもらえるよう依頼する。
令和6年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・館林版「英語村」4事業の実施 ・英語検定料補助 ・市内全校へのALTの配置
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	140	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・1・3	現職教育研究事業		580千円	575千円	483千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	知・徳・体の調和の取れた、たくましく人間性豊かな児童生徒の育成を図るため、小・中学校長会へ研究事業を委託し、各領域に沿った研究実践を推進する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①現職教育研究事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校長会委託事業 教科研究事業（合同研修、理科、事務、新聞等）、体育実技研究事業の実施 ・ 中学校長会委託事業 教科等研究事業（教科研究、美術科研究、理科実験研究等）、体験学習・進路対策調査事業の実施
-----------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①現職教育研究事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校長会委託事業 ・ 中学校長会委託事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校長会委託事業 ・ 中学校長会委託事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校長会委託事業 ・ 中学校長会委託事業
	事業費	575	575	575
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	575	575	575

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	校長会委託事業の実施率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	87.5	87.5			
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	575千円	令和4年度決算額	483千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■委託の発注状況 【令和2年度】 ・小学校長会への委託 2事業（教科研究、体育実技研究） ・中学校長会への委託 5事業（教科等研究、美術科研究、理科実験研究、体験学習、進路対策調査） ※技術家庭研究は感染防止の観点から中止 【令和3年度】 ・小学校長会への委託 2事業（教科研究、体育実技研究） ・中学校長会への委託 5事業（教科研究、美術科研究、理科実験研究、体験学習、進路対策調査） ※技術家庭研究は感染防止の観点から中止 【令和4年度】 ・小学校長会への委託 2事業（教科研究、体育実技研究） ・中学校長会への委託 5事業（教科等研究、理科実験研究、技術・家庭科研究、体験学習、進路対策調査） ※美術科研究は感染防止の観点から中止			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B					
事業の 必要性	■ 高	政策の推進におい て不可欠な事業で ある	□ 中	政策の推進に寄与し ている事業である	□ 低	目的をある程度達成し、実施の有 無について検討の余地がある
事業の 有効性	□ 高	成果が高水準にある	■ 中	適切な成果が得られ ている	□ 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	□ 高	費用対効果が高水 準にある	■ 中	適切な費用対効果が 得られている	□ 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	新型コロナウイルス感染症防止のため一部事業が中止あるいは縮小実施となったが、多くの事業では感染流行下での実施方法を検討し、教職員の資質向上や授業運営等の改善等に十分な成果を得ることができていた。					
課題	教職員の研究事業も多くあり、市の委託という形態にそぐわない部分がある。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	□ 継続 □ 拡大 ■ 改善 □ 代替 □ 統合 □ 縮小 □ 休止 □ 廃止 (□ 一部廃止)					
	現在業務委託の形態をとっているが、実際の内容から考えると補助事業的な要素が強いことから、次年度以降は補助事業としての実施を検討する。					
令和6年度 事業計画	小学校長会事業 2事業 中学校長会事業 6事業					
予算規模 見込み	■ 同規模 □ 拡大 □ 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	141	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・1・3	学校体育事業		875千円	1,044千円	927千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	各小学校から選抜された児童が、走る・跳ぶ・投げる・泳ぐの各領域で自己記録の更新等を目指し、向上していくことを促進する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①学校体育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市水泳記録会及び市陸上記録会の開催 水泳及び陸上記録会の賞品購入、記録証の作成、大会送迎用バスの手配。 ・県水泳記録会及び県陸上記録会への派遣 代表児童用ユニフォーム作成、大会送迎用バスの手配。
---------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①学校体育事業 ・市水泳記録会及び市陸上記録会の開催 ・県水泳記録会及び県陸上記録会への派遣	①学校体育事業 ・市水泳記録会及び市陸上記録会の開催 ・県水泳記録会及び県陸上記録会への派遣	①学校体育事業 ・市水泳記録会及び市陸上記録会の開催 ・県水泳記録会及び県陸上記録会への派遣	①学校体育事業 ・市水泳記録会及び市陸上記録会の開催 ・県水泳記録会及び県陸上記録会への派遣
事業費		1,044	1,044	1,044
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,044	1,044	1,044

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 新体力テストで全国平均を上回る学校数	男6・女5	目標値	男8・女7	男8・女8	男9・女10	男10・女10	男11・女11
	単位：校	実績値	男6・女5	男5・女4			
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	1,044 千円	令和4年度決算額	927 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和2年度 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市水泳記録会及び県水泳記録会中止 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市陸上記録会及び県陸上記録会中止 令和3年度 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市水泳記録会及び県水泳記録会中止 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市陸上記録会及び県陸上記録会中止 令和4年度 ・市水泳記録会開催、県水泳記録会選手派遣 ・市陸上記録会開催、県陸上記録会選手派遣		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	小学校水泳記録会及び陸上記録会をとおして、児童の基礎体力及び基礎技能の向上を目指し、館林市教育大綱施策目的である、「自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身に付けた未来を担う子どもが育つまち」の実現を目指すために、今年度と同等の規模で継続する必要があると考える。 ※令和元年度から3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から事業が中止となった。
課題	新型コロナウイルス感染症拡大に伴う児童の運動機会の減少は否めない。感染症対策を講じながら、児童の運動機会の確保及び体力向上を目指していく必要がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童の運動機会の減少及びそれに伴う基礎体力の低下の改善を図るためには、児童が意欲をもって体を動かす機会を設定することが不可欠である。本事業は、児童が自己記録の更新を目指し、意欲的に体を動かす機会と言える。今後も、児童の体力向上を図るための機会として、本事業の継続は意義深いと考える。
令和6年度事業計画	・市水泳記録会及び市陸上記録会の開催 ・県水泳記録会及び県陸上記録会への派遣
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	142	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 指導係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・1・3	人権教育推進事業			118千円	148千円	42千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	各教科・道徳・学級活動等の全教育活動を通じた人権教育の推進及び人権に視点を当てた年間指導計画の改善と充実を図る。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①学校人権教育の推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育研修会の開催 群馬県が掲げる人権教育に関わる重要課題について教職員の見識を高めるとともに、児童生徒への指導力向上を図る。 ＜対象＞市立幼稚園、小中学校教職員、社会教育委員、人権擁護委員 等 ・人権週間ポスター等コンクールの開催 幼児児童生徒の人権への理解と意識の向上を図るため、人権教育に関する内容の作文、標語、ポスター（図画）の募集を行う。
＜募集点数＞	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校（各校） 作文・標語・ポスター 各3点 ・小学校（各校） 作文・標語・ポスター（低学年は図画） 各3点 ・幼稚園（各園） 図画 3点
※作品は市役所市民ホールに展示。応募者には参加賞を贈呈。	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①学校人権教育の推進事業 ・人権教育研修会の開催 ・人権週間ポスター等コンクールの開催		①学校人権教育の推進事業 ・人権教育研修会の開催 ・人権週間ポスター等コンクールの開催	①学校人権教育の推進事業 ・人権教育研修会の開催 ・人権週間ポスター等コンクールの開催
	事業費	148	148	148
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	148	148	148

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	人権教育研修の参加率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100	100			
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	148千円	令和4年度決算額	42千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	○学校人権教育推進委員会 年2回 ○人権擁護作品展の賞状・応募賞品の配付 ○教職員人権全体研修会の開催 ・令和2年度【⑥ 外国籍の人たち】 「海外にルーツを持つ子どもたちの現状と人権課題～立ちはだかる言葉、制度、心の壁とは～」 講師：特定非営利活動法人 青少年自立援助センター 定住外国人支援事業部 田中 宝紀 様 →令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ・令和3年度【⑥ 外国籍の人たち】 「海外にルーツを持つ子どもたちの現状と人権課題～立ちはだかる言葉、制度、心の壁とは～」 講師：特定非営利活動法人 青少年自立援助センター 定住外国人支援事業部 田中 宝紀 様 ・令和4年度【⑤ 同和問題】 「同和問題から人権を考えよう」 講師：群馬県生活こども部生活こども課 人権啓発専門員 久保 敏 様			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	学校人権教育推進委員会や教職員人権全体研修会の開催をとおして、11項目の重要課題についての教職員の見識を高めるとともに、幼児児童生徒への指導力向上を図った。					
課題	様々な人権課題に対する教職員の見識の高め方や、幼児児童生徒への指導力向上を図る方策。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	継続して教職員の人権意識を高め、人権教育に関わる資質能力の育成を図り、指導力向上を目指していく必要がある。					
令和6年度事業計画	・人権教育研修会の開催 ・人権週間に関する作品募集・展示 ・人権教育だよりの発行					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	143	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 指導係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・1・3	特別支援教育指導事業			571千円	576千円	447千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶5_「自助」や「共助」の意識を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	児童生徒にとって望ましい学びの場を判断し、特別支援教育活動を推進するため、市教育支援委員会活動を実施する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①特別支援教育活動の推進事業
- ・教育支援委員会の開催
小中学校在籍児童生徒の就学や支援に関わる判断を行う。年2回程度実施。委員数：20名（特別支援学級設置校長、養護教諭、家庭児童相談員、医師等で構成）
 - ・特別支援教育啓発紙の作成
特別支援教育の啓発を図るため、館林市特別支援教育推進委員会啓発部において啓発紙「ちから」を作成し毎戸配布を行う。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		①特別支援教育活動の推進事業 ・教育支援委員会の開催 ・特別支援教育啓発紙の作成	①特別支援教育活動の推進事業 ・教育支援委員会の開催 ・特別支援教育啓発紙の作成	①特別支援教育活動の推進事業 ・教育支援委員会の開催 ・特別支援教育啓発紙の作成
事業費		576	576	576
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	576	576	576

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	特別支援教育及び教育支援等会議の実施数	10	目標値	10	10	10	10	10
			実績値	9	9			
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	576千円	令和4年度決算額	447千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和2年度 教育支援委員会2回、教育支援小委員会1回 開催 →令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、回数を減らして開催 令和3年度 教育支援委員会3回、教育支援小委員会2回 開催 →令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、規模を縮小して開催 令和4年度 教育支援委員会3回、教育支援小委員会2回 開催 →令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、規模を縮小して開催 令和2～令和4年度 特別支援教育啓発紙「ちから」の発行（毎戸配布）		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B		
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	個別の教育支援計画、指導計画の整備と活用を推進し、一人一人の教育的ニーズに応じた相談、支援を行った。ただし、令和4年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から規模を縮小した。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援を必要とする幼児・児童・生徒が増加している。 ・障害や特性の多様化に伴い、他課との連携が必要である。 ・課題に対応するため、新しい検査用紙等（WISC-4やS-M社会生活能力検査第三版等）や手引書を購入していく必要がある。 		
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）		
	教育的ニーズや幼児児童生徒の実態に応じた多様な学びの場の柔軟な検討を行うため、継続した取組が必要である。		
令和6年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援委員会の開催 ・特別支援教育啓発紙「ちから」の発行 		
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較		
備考			

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	144	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・1・3	生き方教育推進事業		48千円	48千円	7千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	人間としての生き方の自覚を深める進路指導のあり方について研究・実践を行う。
----------------	---------------------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①生き方教育推進事業
- ・生き方教育講演会の開催（各中学校）
 - ・進路指針表（夢カード）の作成（小学1年生に配布）

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①生き方教育推進事業 ・生き方教育講演会の開催（各中学校） ・進路指針表（夢カード）の作成（小学1年生に配布）		①生き方教育推進事業 ・生き方教育講演会の開催（各中学校） ・進路指針表（夢カード）の作成（小学1年生に配布）	①生き方教育推進事業 ・生き方教育講演会の開催（各中学校） ・進路指針表（夢カード）の作成（小学1年生に配布）
	事業費	48	48	48
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	48	48	48

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	学校評価 目の評価	7	目標値	10	12	13	15	16
			実績値	10	10			
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	48千円	令和4年度決算額	7千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【進路指針表（夢カード）の作成】 令和2年度 小学1年生520名 令和3年度 小学1年生497名 令和4年度 小学1年生519名 【進路案内の作成】 令和2年度 中学3年生635名 令和3年度 中学3年生662名 令和4年度 中学3年生634名			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	学校評価アンケートの結果より、多くの児童生徒に対し、社会的・職業的自立に向け、基盤となる必要な能力や態度を育てる教育を推進することができている。 職場体験学習は中止となっているが、代替のキャリア教育に関する講演会を実施している学校が増えている。			
課題	夢カードは市内全校で使用されているが、年度当初と年度末の使用にとどまっている学校もあり、使用方法に課題が見られる。 職場体験学習は、コロナ禍のこともあり、令和4年度は実施できていない。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	キャリア教育担当者会議を通じ、「夢カード」の活用方法と意義を伝えていく。 職場体験学習は、令和5年度は実施予定である。各学校に情報提供を行っていく。			
令和6年度事業計画	①デジタル版の進路指針表（夢カード）の作成 ②キャリア教育担当者会議を年2回開催 ③職場体験学習の充実のための館林商工会議所や各種事業所との連携			
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	145	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・1・3	自然学習教室事業		1,384千円	1,205千円	686千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	各種自然学習教室を実施し、貴重な自然の大切さや保護の意識を育むとともに、環境問題等への関心を高める。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①自然学習教室事業	<ul style="list-style-type: none"> ・足尾フィールドワークの実施 社会科副読本「のびゆく館林」で学習する足尾鉍毒事件関連施設等を見学し、自然の大切さや環境問題を学ぶ。 8月中実施。対象：市内小学5・6年生30名程度（公募） ・尾瀬ネイチャーラーニング事業の実施 尾瀬の自然環境や観光資源の魅力を生かした学びと体験によるSTEAM教育を実践することを目的として、ガイドを伴った体験活動を行う。ガイド料とバス借上げ料を補助対象として、「ぐんま5つのゼロ宣言」を行っている本市では補助率2/3。
-----------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業スケジュール		①自然学習教室事業 ・足尾フィールドワークの実施 ・尾瀬ネイチャーラーニング事業の実施	①自然学習教室事業 ・足尾フィールドワークの実施 ・尾瀬ネイチャーラーニング事業の実施	①自然学習教室事業 ・足尾フィールドワークの実施 ・尾瀬ネイチャーラーニング事業の実施
事業費		1,205	1,205	1,205
財源	国庫	0	0	0
	県費	828	828	828
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	377	377	377

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	尾瀬ネイチャーラーニング（尾瀬学校）の参加学校数	2	目標値	2	2	2	2	2
			実績値	1	2			
活動指標	足尾フィールドワークの参加者数	36	目標値	37	38	39	39	40
			実績値	0	0			
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	1,205千円	令和4年度決算額	686千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和2年度 尾瀬学校(2校) 足尾フィールドワーク→新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 令和3年度 尾瀬ネイチャーラーニング(1校) 足尾フィールドワーク→新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 令和4年度 尾瀬ネイチャーラーニング(2校) 足尾フィールドワーク→新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	足尾フィールドワークについては、令和2年度以降新型コロナウイルス感染防止の観点から事業中止となっている。また、この足尾フィールドワークは同様の事業が他課でも実施されているので、事業の整理が必要と思われる。 尾瀬ネイチャーラーニングについては毎年2校が実施しており、今後も継続していく予定である。
課題	足尾フィールドワークについては、児童の実態や健康・安全面を考慮し、改善を図る必要がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	足尾フィールドワークに関しては、同様の事業が他課で実施されていることを踏まえ、内容の見直しを検討する。 尾瀬ネイチャーラーニングについては継続実施。
令和6年度事業計画	尾瀬ネイチャーラーニング(希望校)
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	146	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・1・3	看護師設置事業		5,376千円	5,390千円	2,684千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	小中学校において、障害等により医療行為を要する児童生徒が、安全安心に学校生活を送るため、日常生活の介助や教育活動上の支援を行う看護師を臨時的に配置する。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①看護師設置事業 ・看護師の配置	小学校において、障害等により医療行為を必要とする児童が安全安心な学校生活を送れるよう、教育活動上の支援を行う看護師を配置する（小学校2名予定）。
---------------------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	①看護師設置事業 ・看護師の配置		①看護師設置事業 ・看護師の配置	①看護師設置事業 ・看護師の配置	
	事業費	5,390	5,390	5,390	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	5,390	5,390	5,390	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	医療的ケアの看護師の充足率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100	100			
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	5,390千円	令和4年度決算額	2,684千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■看護師の配置数 令和2年度 小学校1校1人 令和3年度 小学校1校1人 令和4年度 小学校1校1人 ※令和3年度中に医療的ケアを必要とする児童の転入があったが、自宅療養のため引き続き配置なし。			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	配置数は少ないものの、医療的ケアを必要とする児童生徒が安心して学校生活を送るために不可欠な事業である。これまででも必要な児童生徒に配置することで安全安心に学校生活を送るための一助とすることができた。			
課題	医療的ケアの必要な児童生徒の転入学に合わせて、看護師資格を有する人材の確保ができるかが課題となっている。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	引き続き、安全な学校生活を送るうえで医療的ケアを必要としている児童生徒に看護師の配置を行っていく。			
令和6年度事業計画	小学校2校に計2名配置予定			
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	147	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・1・3	学校運営協議会事業			3,571千円	7,211千円	5,353千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶3_地域の教育力を生かした学校運営

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	地域の教育力を学校運営に活かしていくため、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、学校が地域住民や保護者と教育目標を共有し、組織的・継続的な連携を図れるようにする。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①学校運営協議会事業【重要事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置 令和4年度より小中学校全校をコミュニティ・スクール化する。 ・CSディレクターの配置 学校運営協議会の運営や関係者との連絡調整を円滑に進めるため、CSディレクターを5名配置する。
------------------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業スケジュール	①学校運営協議会事業 ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を全校指定 ・CSディレクターの配置	①学校運営協議会事業 ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を全校指定 ・CSディレクターの配置	①学校運営協議会事業 ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を全校指定 ・CSディレクターの配置
事業費	7,211	7,211	7,211
財源	国庫	0	0
	県費	0	0
	市債	0	0
	その他	0	0
	一般財源	7,211	7,211

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 小中学生の豊かな心の育成の達成度	5	目標値	9	10	12	14	16
	単位：校	実績値	6	6			
活動指標 各校での学校運営協議会の実施（年間）	4	目標値	4	4	4	4	4
	単位：回	実績値	4	4			
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	7,211 千円	令和4年度決算額	5,353 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和2年度 第四小学校、第十小学校に加え、新たに第九小学校に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置し、コミュニティ・スクールを3校とした。第四小に1名、第九小・第十小兼任で1名、計2名のCSディレクターを配置した。 令和3年度 第四小学校、第十小学校、第九小学校に加え、新たに第五小学校、第七小学校に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置し、コミュニティ・スクールを5校とした。第四小・第五小兼任で1名、第九小・第十小兼任で1名、第七小学校に1名、計3名のCSディレクターを配置した。 令和4年度 市内全小中学校に学校運営協議会制度を導入し、全16校をコミュニティ・スクールとした。CSディレクターを4名配置し、各CSディレクターが4校を担当することで、コミュニティ・スクールの円滑な導入及び推進を図ることができた。		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	市内小中全16校に学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）を導入し、各校の実態に応じて学校運営協議会を実施することができた。学校運営協議会での熟議や熟議を基にした地域学校協働活動（学校地域合同防災訓練、学習支援、登下校の見守りなど）の実施や、「コミュニティ・スクールだより」、「学校通信」等で取組を発信することを通して、地域住民や保護者との連携を図ることができた。今後も、学校と地域で目標を共有し、特色ある活動を進めていく。
課題	「学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）」の目的が、「地域とともにある学校づくり」や「学校を核とした地域づくり」であることを、今後も地域へ啓発していく必要がある。その上で、「豊かな心の育成」に向け、児童生徒と地域の方々との温かな人間関係づくりをさらに推進し、自己有用感の向上や自他を大切にすることの育成に繋げていく。 また、CSディレクターの任用・配置から、国が示す「地域学校協働活動推進員」の発掘に努める必要がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）
	今後も、市内小中全16校が各校の実態に応じて熟議を行い、地域住民や保護者と「地域とともにある学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」という目標を共有しながら、持続可能な取組を計画的・組織的に行っていく。
令和6年度事業計画	市内小中全16校において、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）を継続する。そうした中、「地域とともにある学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」という目標や各校の取組を、より一層地域へ啓発していく。 また、国が示す「地域学校協働活動推進員」の任用について、研究を進めていく。
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	148	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課	教育研究所
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・1・4	研究所運営		9,314千円	9,280千円	9,070千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	教育研究所の運営に必要な相談、教職員研修、班別研究といった事業を行う。
----------------	-------------------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①研究所運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員、事務員の雇用 研究所運営に必要な相談員・事務員、一般（相談員3人、事務員1人）4人、短時間（相談員）1人の雇用 ・教育研究事業 班別研究や教職員の研修（教育相談初級研修講座・特別支援教育研修講座）を行う。 ・教育相談事業 子ども相談室や適応指導教室「ふれあい学級」の運営を行う。 群馬県教育研究所連盟、群馬県市町村適応指導教室連絡協議会に加盟する。
----------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	事業費	9,280	9,280	9,280	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	9,280	9,280	9,280	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	研修における教職員等の満足度（4段階：-2～+2）	目標値	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9
		実績値	1.9	1.9			
活動指標	相談事業における相談件数	目標値	476	484	488	492	496
		実績値	476	447	551		
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	9,280千円	令和4年度決算額	9,070千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和2年度 名	月給制会計年度任用職員4名(相談員3名、事務員1名)、時給制会計年度任用職員(相談員)1名 (子ども相談室) 電話相談143件 来所相談248件 訪問相談71件 メール相談4件 適応指導教室 在籍児童生徒11名		
	令和3年度 名	月給制会計年度任用職員4名(相談員3名、事務員1名)、時給制会計年度任用職員(相談員)1名 (子ども相談室) 電話相談54件 来所相談243件 訪問相談143件 メール相談7件 適応指導教室 在籍児童生徒9名		
	令和4年度 名	月給制会計年度任用職員4名(相談員3名、事務員1名)、時給制会計年度任用職員(相談員)1名 (子ども相談室) 電話相談68件 来所相談360件 訪問相談118件 メール相談5件 適応指導教室 在籍児童生徒9名		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	相談事業の1つである、来所相談における相談件数は、昨年度に比べ1.4倍の件数であった。他に訪問相談では、学校が抱えている教育相談に関する問題に相談員を派遣し、ニーズに合わせた児童生徒支援を行った。また、適応指導教室においては、9名の児童生徒が在籍し、登所児童生徒の意思に合わせつつ、社会的自立に向けて、個に応じた支援を行うことができた。			
課題	不登校等に悩む児童生徒やその保護者が増加する中で、児童生徒理解をもとに、個に応じたきめ細かな支援や相談環境の充実を図ることが必要となっている。また、不登校児童生徒の社会的自立に向けて、児童生徒の意思を丁寧に確認しつつ、どのような支援ができるのか、また、他関係機関との連携した支援も必要である。併せて、不登校児童生徒の保護者支援も必要である。 不登校対策等、研究所から学校に発信していくことも必要である。			
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	教育相談事業の充実のため、学校ごとの課題を把握し、学校と連携して、適切な支援ができるようにしていく。不登校対策、支援に向けて他市町村の取組を収集しつつ、個に応じた効果的な支援を行っていく。教育研究事業では、職員のニーズを把握し、必要感に応じた内容を企画していく。			
令和6年度 事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・会計年度任用職員を任用し、効果的な教育相談事業の実施(時給制でない月給制会計年度任用職員の任用) ・教職員対象の効果的な研修講座の実施 ・還元性のある班別研究の実施 			
予算規模 見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	149	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課	教育研究所
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・1・4	教育相談事業			645千円	655千円	568千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	子どもの不登校や心の問題に関し、適応指導教室やコンサルテーション、オンラインフリースクール委託事業を行う。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①教育相談事業（継続的適応指導）	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談 適応指導教室「ふれあい学級」や子ども相談室の運営 ・学校教育相談（コンサルテーション） 不登校問題に関心がある保護者の集い「明日へのいっぽ」 ・オンラインフリースクール委託事業 オンラインフリースクール「風のがっこう」、保護者相談事業スピーカ
------------------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業スケジュール		①教育相談事業（継続的適応指導） ・教育相談 ・オンラインフリースクール委託事業	①教育相談事業（継続的適応指導） ・教育相談 ・オンラインフリースクール委託事業	①教育相談事業（継続的適応指導） ・教育相談 ・オンラインフリースクール委託事業
事業費		655	655	655
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	655	655	655

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	適応指導や相談事業における保護者アンケートの満足度（4段階：-2~+2）	1.75	目標値	1.77	1.77	1.78	1.79	1.8
		単位：	実績値	1.67	1.77			
活動指標	不登校問題に関心がある保護者の集い「明日へのいっぽ」の実施回数	3	目標値	3	3	3	3	3
		単位：回	実績値	2	3			
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	655千円	令和4年度決算額	568千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和2年度	適応指導教室 在籍児童生徒11名 (子ども相談室) 電話相談143件 来所相談248件 訪問相談71件 メール相談4件 学校教育相談(コンサルテーション) 小学校69件 中学校61件 不登校問題に関心がある保護者の集い 3回実施 19名参加		
	令和3年度	適応指導教室 在籍児童生徒9名 (子ども相談室) 電話相談54件 来所相談243件 訪問相談143件 メール相談7件 学校教育相談(コンサルテーション) 小学校180件 中学校100件 不登校問題に関心がある保護者の集い 2回実施 14名参加		
	令和4年度	適応指導教室 在籍児童生徒9名 (子ども相談室) 電話相談68件 来所相談360件 訪問相談118件 メール相談5件 学校教育相談(コンサルテーション) 小学校90件 中学校58件 不登校問題に関心がある保護者の集い 3回実施 15名参加		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	来所相談件数や不登校問題に関心がある保護者の集いの参加者は増加している。不登校の実態を考慮しても、教育相談事業は、必要不可欠となっている。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学校と連携し、実態や実情に合わせた教育相談体制の充実を図る。 ・不登校問題に関心がある保護者の集い「明日へのいっぽ」を活性化していく。 ・適応指導教室やオンラインフリースクール等の居場所づくり支援や学習機会の確保を図る。 					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	コンサルテーションにより、学校の実態や実情に合わせた教育相談体制の充実を図るほか、相談環境の充実のため、児童生徒、保護者それぞれのニーズに応じた相談支援を行っていく。 また、オンラインフリースクールなど、他機関と連携し、学びの場の提供を行っていく。					
令和6年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談 適応指導教室「ふれあい学級」や子ども相談室の運営 学校教育相談(コンサルテーション) 不登校問題に関心がある保護者の集い「明日へのいっぽ」 ・オンラインフリースクール委託事業 					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	150	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課	教育研究所
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・1・4	「心の教室相談員」配置事業			4,748千円	4,748千円	4,649千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	中学生が抱える悩み等を気軽に話せる「心の教室相談員」を中学校に配置し、その活用と効果に関する調査研究を行う。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①「心の教室相談員」配置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校全校配置による学校相談室の機能の充実 心の教室相談員：原則として月～金曜日の勤務（一日5時間、年間200日） 生徒指導担当嘱託員（県費）の配置校以外の学校に配置する。 ・ 相談室訪問による機能の充実 研究所指導主事が市内中学校相談室を定期的に訪問し、実態把握をもとに、課題について指導助言していく。 ・ 学校相談員連絡協議会（年5回） 各中学校の学校相談員（生徒指導担当嘱託員・心の教室相談員）と研究所相談員が定期的に研修を行い、事例検討や情報交換、資質向上の講義を行う場として設営。
----------------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	①「心の教室相談員」配置事業 ・ 中学校全校配置による学校相談室の機能の充実 ・ 相談室訪問による機能の充実 ・ 学校相談員連絡協議会（年間5回）		①「心の教室相談員」配置事業 ・ 中学校全校配置による学校相談室の機能の充実 ・ 相談室訪問による機能の充実 ・ 学校相談員連絡協議会（年間5回）	①「心の教室相談員」配置事業 ・ 中学校全校配置による学校相談室の機能の充実 ・ 相談室訪問による機能の充実 ・ 学校相談員連絡協議会（年間5回）	
	事業費	4,748	4,748	4,748	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	4,748	4,748	4,748	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標 連絡会議等の実施回数	5	目標値	5	5	5	5	5
	単位：回	実績値	3	5			
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	4,748千円	令和4年度決算額	4,649千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	令和2年度 心の教室相談員の中学校4校配置（※生徒指導担当嘱託員配置校は除く） ・学校相談員連絡協議会の実施（4回） ・中学校相談室訪問（1・2学期各1回実施） ・相談件数 生徒4,309件 保護者256件 教員2348件 計6,913件		
	令和3年度 心の教室相談員の中学校4校配置（※生徒指導担当嘱託員配置校は除く） ・学校相談員連絡協議会の実施（3回） ・中学校相談室訪問（1学期各1回実施） ・相談件数 生徒3,428件 保護者136件 教員1701件 計5,265件		
	令和4年度 心の教室相談員の中学校4校配置（※生徒指導担当嘱託員配置校は除く） ・学校相談員連絡協議会の実施（5回） ・中学校相談室訪問（1学期各1回実施） ・相談件数 生徒2,763件 保護者235件 教員875件 計3,873件		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	相談室における相談件数は多く、教育相談主任と連携した支援を行っていく。
課題	相談室利用の生徒に対し、引き続き組織的な支援が求められる。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）
	相談室利用の生徒に対しての支援を継続し、居場所づくり支援を継続していく。 小学校の不登校児童数の増加を受け、小学校における別室対応の支援を充実させていく。
令和6年度事業計画	生徒指導担当嘱託員配置中学校以外、各中学校に心の教室相談員を配置する。 小学校に心の教室支援員を増員していく。
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	151	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・2・1	小学校運営		7,119千円	6,972千円	19,955千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	小学校の運営を円滑に行うため、病休補助教員の配置や学校評議員の委嘱、新入学児童への祝い品及び卒業記念品購入、災害共済給付等の事業を行う。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①小学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・病休補助教員の配置 小学校の教員が病気やけがで長期の療養が必要となった場合に、補助教員を臨時的に任用する。 ・卒業記念品の購入 6年生（卒業生）への卒業祝品として英語辞書を購入する。 ・日本スポーツ振興センター負担金 学校での事故等に対し医療費や見舞金等の災害共済給付を行うための掛金。歳入に保護者負担金あり。全児童加入。
--------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	①小学校運営 ・病休補助教員の配置 ・卒業記念品の購入 ・日本スポーツ振興センター負担金		①小学校運営 ・病休補助教員の配置 ・卒業記念品の購入 ・日本スポーツ振興センター負担金	①小学校運営 ・病休補助教員の配置 ・卒業記念品の購入 ・日本スポーツ振興センター負担金	
	事業費	6,972	6,972	6,972	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		1,237	1,237	1,237	
一般財源	5,735	5,735	5,735		

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	12	目標値	11	11	11	11	11
		実績値	11	12			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	6,972千円	令和4年度決算額	19,955千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ 病休補助教員配置数 【令和2年度】 2人 【令和3年度】 0人 【令和4年度】 2人 ■ 卒業記念品購入数（卒業生数） 【令和2年度】 662個 【令和3年度】 619個 【令和4年度】 672個 ■ 日本スポーツ振興センター加入状況 【令和2年度】 3,679人（一般3,663人、要保護9人、途中加入7人） 【令和3年度】 3,573人（一般3,551人、要保護8人、途中加入14人） 【令和4年度】 3,486人（一般3,475人、要保護5人、途中加入6人） ■ 新型コロナウイルス感染対策事業（小学校） 【令和2年度】 第一小学校～美園小学校 11校 【令和3年度】 第一小学校～美園小学校 11校 【令和4年度】 第一中学校～美園小学校 11校			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	校長会議を月1回程度開催することで、学校教育課と学校との連携や情報共有、学校への各種依頼などを円滑に行うことができた。また、本事業は小学校の運営に関する経常的経費であり、必要不可欠なものとなっている。			
課題	会計年度任用職員（病休補助教員）の任用は、教員の傷病休に伴うものであり緊急に必要となった場合に生じるため、予算執行の有無や支出額の算定が難しい。 学校における感染症対策事業にあたる学校配当予算の施行を各校で行っており、予算執行事務に不慣れな学校職員による誤りが多い。			
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）			
令和6年度 事業計画	小学校における経常的経費が多くを占めるため、今後も継続の必要がある。 新型コロナウイルス感染症対策経費については、感染流行の状況や国の動向等を見ながら予算化していく。			
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	152	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 学事係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・2・1	児童・教職員健康管理対策事業			5,458千円	5,447千円	4,966千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	児童及び教職員の健康管理のため、各種検査・健診等を委託実施する。
----------------	----------------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①児童及び教職員健康管理対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の健康事業 尿検査（全員）、心臓疾患X線検査（1年）、心臓検診（1・4年）、結核精密検査（該当者） ・教職員の健康事業 定期健康診断（人間ドック未受診者）、胃がん検診（35歳以上の希望者）、HBワクチン（劇症肝炎）接種、ストレスチェック（全員）
------------------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業スケジュール		①児童及び教職員健康管理対策事業 ・児童の健康事業 ・教職員の健康事業	①児童及び教職員健康管理対策事業 ・児童の健康事業 ・教職員の健康事業	①児童及び教職員健康管理対策事業 ・児童の健康事業 ・教職員の健康事業
事業費		5,447	5,447	5,447
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	5,447	5,447	5,447

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	児童への健康事業の充足率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100	100			
活動指標	教職員への健康事業の充足率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100	100			
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	5,447千円	令和4年度決算額	4,966千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<児童> ・令和2年度：尿検査（全学年）3,666人、心臓検診（1・4年）1,191人、胸部エックス線撮影（1年）475人、結核精密検査（該当者）14人 ・令和3年度：尿検査（全学年）3,544人、心臓検診（1・4年）1,111人、胸部エックス線撮影（1年）476人、結核精密検査（該当者）7人 ・令和4年度：尿検査（全学年）3,457人、心臓検診（1・4年）1,134人、胸部エックス線撮影（1年）467人、結核精密検査（該当者）4人 <教職員> ・令和2年度：定期健診（人間ドック受診者以外）97人、胃がん検診（希望者）11人、B型肝炎ワクチン（養護教諭の希望者）3人、ストレスチェック（全員）252人 ・令和3年度：定期健診（人間ドック受診者以外）91人、胃がん検診（希望者）7人、B型肝炎ワクチン（養護教諭の希望者）1人、ストレスチェック（全員）253人 ・令和4年度：定期健診（人間ドック受診者以外）102人、胃がん検診（希望者）7人、B型肝炎ワクチン（養護教諭の希望者）1人、ストレスチェック（全員）255人			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	児童が健康に学校生活を送るため、また教職員が健康に勤務できるよう児童・教職員自身の健康状態を把握・維持するために必要な事業である。			
課題	・学校行事等が組まれている中、限られた日程・期間で各種検査日や会場を調整しなければならない。 ・外国籍、特に日本語の会話が難しい児童全員を受診させるのが難しい。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）			
	児童及び教職員の健康管理のため、必要となる検査等を継続して実施していく。			
令和6年度事業計画	・児童の健康管理に伴う各種検査の実施 ・教職員の健康管理に伴う各種検査の実施			
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	153	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・2・1	教諭補助員設置事業			9,177千円	9,064千円	7,402千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	きめ細やかな学習指導や生活指導を行い、児童一人一人が確かな学力を身に付け、心身ともに健やかな学校生活を送れるようにする。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①教諭補助員設置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校への教諭補助員の配置 教諭補助員 3名
------------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	①教諭補助員設置事業 ・ 小学校への教諭補助員の配置		①教諭補助員設置事業 ・ 小学校への教諭補助員の配置	①教諭補助員設置事業 ・ 小学校への教諭補助員の配置	
	事業費	9,064	9,064	9,064	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	9,064	9,064	9,064	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指 標	標準学力テストで全国平均を上回る学校数	11	目標値	11	11	11	11	11
			実績値	7	4			
活動指標	教諭補助員の充足率（人数）	100	目標値	100	100	100	100	100
			実績値	100	100			
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	9,064 千円	令和4年度決算額	7,402 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【配置数】 令和2年度 3名配置 令和3年度 3名配置 令和4年度 3名配置			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	県費負担の教員だけでは賄いきれない部分を補うため配置するものであり、適切な学校運営と子どもたちの学習の保障の観点から配置は必要である。					
課題	任用にあたって条件があるため、求人を行っても応募者数は少ない、あるいは全くないといった状況が多々見られる。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	県費負担の教員をサポートし、子どもたちの学習の保障や学力の向上を推進していくため、最低でも現在の配置数は確保する必要がある。					
令和6年度事業計画	必要な小学校への教諭補助員の配置					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	154	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・2・1	特別支援教育介助員設置事業			47,343千円	49,837千円	47,282千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	小学校において障がい等により配慮を要する児童が、安全安心な学校生活を送れるよう、日常生活の介助や教育活動上の支援を行うため臨時的に配置する。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①特別支援教育介助員設置事業	・小学校への特別支援教育介助員の配置 特別支援教育介助員25名
----------------	------------------------------------

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業スケジュール		①特別支援教育介助員設置事業 ・小学校への特別支援教育介助員の配置	①特別支援教育介助員設置事業 ・小学校への特別支援教育介助員の配置	①特別支援教育介助員設置事業 ・小学校への特別支援教育介助員の配置
	事業費	49,837	49,837	49,837
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	49,837	49,837	49,837

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標	小中学生の豊かな心の育成の達成度	2	目標値	3	4	4	5	5
			実績値	3	4			
活動指標	特別支援教育介助員の充足率（人数）	100	目標値	100	100	100	100	100
			実績値	100	100			
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	49,837千円	令和4年度決算額	47,282千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【配置数】 令和2年度 24名配置 令和3年度 24名配置 令和4年度 25名配置			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	各校で配慮を要する児童に配置することで、安全安心な学校生活を確保することができた。			
課題	発達障がい等の理由から特別な配慮を必要とする児童は多く、現状配置している人数でも不足している状況がある。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	各校から出されている介助員配置要望は、現在配置している人数の2倍程度あり、どの学校も校内での支援に苦慮しているところである。学校だけでなく子どもを預ける保護者にとっても安心感を得られるよう事業の拡大（増員）が必要である。			
令和6年度事業計画	特別な支援が必要な児童への介助員の配置			
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	155	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・2・1	ICT学習指導員設置事業		0千円	6,727千円	5,971千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	学校での1人1台端末をはじめとするICTを活用した授業を円滑に進めるため必要な人員を配置する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ICT学習指導員の配置
 ・ICT学習指導員を配置し、授業等で学習支援を行う。
 小学校8校

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	○ICT学習指導員の配置 8校に配置		○ICT学習指導員の配置 8校に配置	○ICT学習指導員の配置 8校に配置
	事業費	6,727	6,727	6,727
財源	国庫	6,727	6,727	6,727
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	0	0	0

【関連する指標】

指標	現状値 (H30年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 学校における教育の情報化（教員のICT活用指導力）	82.9	目標値	88.6	91.5	94.3	97.2	100.0
	単位：%	実績値	84.9	84.8			
	単位：	目標値					
		実績値					
	単位：	目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	6,727千円	令和4年度決算額	5,971千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・ICT学習指導員配置校 【令和3年度】 7校 7名 【令和4年度】 7校 7名			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の 必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	1人1台端末の導入による児童及び教職員へのサポートに資することができた。					
課題	指導員によってICTの技術力に差があり、研修会等の実施により全体の能力の底上げ等を図る必要がある。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	1人1台端末の導入から2年が経過し、学校中でも十分に活用が図られてきていることから、今後はICT活用支援業務委託によりサポートしていく方向とする。					
令和6年度 事業計画	なし					
予算規模 見込み	<input type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input checked="" type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	156	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・2・2	教育振興事業			1,119千円	4,506千円	4,257千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶5_「自助」や「共助」の意識を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	指導用の教科書や副読本等を活用して教育の振興を図る。
----------------	----------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①教育振興事業（一般経費）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師用教科書及び指導書の購入 各校にて不足する分の教師用教科書及び指導書を購入する
---------------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①教育振興事業（一般経費） ・ 教師用教科書及び指導書の購入		①教育振興事業（一般経費） ・ 教師用教科書及び指導書の購入	①教育振興事業（一般経費） ・ 教師用教科書及び指導書の購入 ※採択替え
	事業費	4,506	4,506	24,000
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	4,506	4,506	24,000

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	教師用教科書及び指導書の配付率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100	100			
活動指標	副読本の配付率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100	100			
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	4,506千円	令和4年度決算額	4,257千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【令和2年度】 教師用教科書及び指導書購入（全面改訂） 【令和3年度】 教師用教科書及び指導書購入 【令和4年度】 教師用教科書及び指導書購入、社会科副読本「のびゆく館林」編集委託及び作製委託（小改訂）			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	教職員が児童へ適切な指導を行うため、また児童の学習のために必要である。					
課題	教科書や指導書の給与・購入のための事務が煩雑である。また学習指導要領の改訂ごとに予算の支出が大きくなる。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	学校での授業において必要不可欠であり、今後も継続していく必要がある。					
令和6年度事業計画	教師用教科書及び指導書の購入（改訂版）					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	157	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・2・2	就学奨励(援助)事業		24,141千円	24,188千円	23,236千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	経済的な理由により就学が困難な児童の保護者に対し、学校生活に必要な費用を援助する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

児童の就学奨励事業 ※特別支援教育就学奨励費を含む

- ・要保護及び準要保護児童援助費
 <内容>
 「学校教育法」の規定に基づき、経済的理由のため就学困難と認められる市内に在住する児童の保護者に対し、申請方式により、以下の品目を支給することで援助を行う。
- <支給品目>
 学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費、新入学児童生徒学用品費、通学費、医療費、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費
- ・特別支援教育就学奨励費
 <内容>
 「特別支援学校への就学奨励に関する法律」の規定に基づき、障害のある児童生徒等への経済的負担を軽減するため、市内に在住する児童の保護者に対し、申請方式により、以下の品目を支給することで援助を行う。
- <支給品目>
 学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費、新入学児童生徒学用品費、通学費

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	児童の就学奨励事業	児童の就学奨励事業	児童の就学奨励事業	児童の就学奨励事業
	・要保護及び準要保護児童援助費 ・特別支援教育就学奨励費	・要保護及び準要保護児童援助費 ・特別支援教育就学奨励費	・要保護及び準要保護児童援助費 ・特別支援教育就学奨励費	・要保護及び準要保護児童援助費 ・特別支援教育就学奨励費
事業費		24,188	24,188	24,188
財源	国庫	2,297	2,297	2,297
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	21,891	21,891	21,891

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	小学生保護者に対する制度周知回数	2	目標値	2	2	2	2	2
		単位：件	実績値	2	3			
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	24,188千円	令和4年度決算額	23,236千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【要保護及び準要保護児童援助費】 令和2年度 対象者258名 給付額15,901,963円 令和3年度 対象者268名 給付額18,664,601円 令和4年度 対象者267名 給付額19,616,868円 【特別支援就学奨励費】 令和2年度 対象者99名 2,861,032円 令和3年度 対象者114名 3,696,737円 令和4年度 対象者119名 3,595,351円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	経済的な理由により就学が厳しい世帯や特別支援学級に在籍する児童の世帯に給付を行うことで、児童の就学機会の確保に資することができた。					
課題	準要保護就学援助費及び特別支援就学奨励費支給対象者の緩やかな増加が見られる。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	経済的に苦しい世帯や配慮を要する児童の世帯に対して、学習の保障と就学機会を確保するため、引き続き必要な世帯に支援を行っていく。					
令和6年度 事業計画	・要保護・準要保護児童への就学援助費の支給 ・特別支援学級通学者への就学奨励費の支給 ・市外特別支援学校へ通学する児童への就学助成費の支給					
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	158	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 学事係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・2・2	被災児童就学援助事業			204千円	103千円	0千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	東日本大震災により被災し、経済的理由から就学等が困難となった児童に対し、交付金として経費の全額（10/10）を支援する。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

被災児童就学援助事業

<内容>

東日本大震災により被災し、経済的理由から就学困難となった市内に在住する児童の保護者に対し、申請方式により、以下の品目を支給することで家庭の教育負担の軽減を行う。

<支給品目>

学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費、新入学児童生徒学用品費、通学費、医療費、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	被災児童就学援助事業 ・被災児童就学援助費		被災児童就学援助事業 ・被災児童就学援助費	被災児童就学援助事業 ・被災児童就学援助費
	事業費	103	103	103
	財源			
	国庫	103	103	103
	県費	0	0	0
市債	0	0	0	
その他	0	0	0	
一般財源	0	0	0	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	援助者に対する充足率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	-	-			
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	103千円	令和4年度決算額	0千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【被災児童就学援助費】 令和2年度 対象者2名 給付額121,000円 令和3年度 対象者0名 給付額0円 令和4年度 対象者0名 給付額0円 ※令和3・4年度は対象者が認定要件に該当しなかった。		

【事業の評価】

【Check】 指標評価			
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	震災や原発事故により館林市に避難している世帯に必要な就学支援を行うことができた。令和3年度は申請はあったものの認定要件を満たしていなかったため否認定、令和4年度は申請なしだった。		
課題	避難者の転出入の時期や、現在市内に在住の避難者がいつ認定になるかといった不確定要素が多くある中で、結果的に予算執行されない状況もあり得る。		
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)		
	避難者の転入や市内在住の避難者が今後認定となる可能性もあることから、最小限の予算は確保しておく必要がある。		
令和6年度事業計画	東日本大震災で被災した児童への就学援助費の支給		
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較		
備考			

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	159	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・3・1	中学校運営		3,965千円	3,948千円	9,092千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	中学校の円滑な運営のため、病休補助教員の配置や学校評議員の委嘱、卒業記念品の購入、災害共済給付等必要な事業を行う。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①中学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・病休補助教員の配置 中学校の教員が病気やけがで長期の療養が必要となった場合に、補助教員を臨時的に任用する。 ・卒業記念品の購入 3年生（卒業生）への卒業祝品として印鑑を購入する。 ・日本スポーツ振興センター負担金 学校での事故等に対し医療費や見舞金等の災害共済給付を行うための掛金。歳入に保護者負担金あり。全生徒加入。
--------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	①中学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・病休補助教員の配置 ・卒業記念品の購入 ・日本スポーツ振興センター負担金 	<ul style="list-style-type: none"> ・病休補助教員の配置 ・卒業記念品の購入 ・日本スポーツ振興センター負担金 	<ul style="list-style-type: none"> ・病休補助教員の配置 ・卒業記念品の購入 ・日本スポーツ振興センター負担金 	
	事業費	3,948	3,948	3,948	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		662	662	662	
一般財源	3,286	3,286	3,286		

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	校長会議の開催数	目標値	11	11	11	11	11
		実績値	11	12			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	3,948千円	令和4年度決算額	9,092千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ 病休補助教員配置数 【令和2年度】 0人 【令和3年度】 0人 【令和4年度】 0人 ■ 卒業記念品購入数（卒業生数） 【令和2年度】 635個 【令和3年度】 664個 【令和4年度】 634個 ■ 日本スポーツ振興センター加入状況 【令和2年度】 1,918人（一般1,913人、要保護4人、途中加入1人） 【令和3年度】 1,928人（一般1,920人、要保護4人、途中加入4人） 【令和4年度】 1,873人（一般1,864人、要保護6人、途中加入3人） ■ 新型コロナウイルス感染対策事業（中学校） 【令和2年度】 第一中学校～多々良中学校 5校 【令和3年度】 第一中学校～多々良中学校 5校 【令和4年度】 第一中学校～多々良中学校 5校			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	校長会議を月1回程度開催することで、学校教育課と学校との連携や情報共有、学校への各種依頼などを円滑に行うことができた。また、本事業は中学校の運営に関する経常的経費であり、必要不可欠なものとなっている。			
課題	会計年度任用職員（病休補助教員）の任用は、教員の傷病休に伴うものであり緊急に必要となった場合に生じるため、予算執行の有無や支出額の算定が難しい。 学校における感染症対策事業にあたる学校配当予算の施行を各校で行っており、予算執行事務に不慣れな学校職員による誤りが多い。			
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）			
令和6年度 事業計画	中学校における経常的経費が多くを占めるため、今後も継続の必要がある。 新型コロナウイルス感染症対策経費については、感染流行の状況や国の動向等を見ながら予算化していく。			
令和6年度 事業計画	・会計年度任用職員（病休補助教員）の必要に応じた任用 ・卒業記念品の購入 ・日本スポーツ振興センター負担金等事務 ・新型コロナウイルス感染症対策（学校配当予算） ※必要に応じて			
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	160	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 学事係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・3・1	生徒・教職員健康管理対策事業			3,077千円	2,957千円	2,591千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	生徒及び教職員の健康管理のため、各種検査・健診等を委託実施する。
----------------	----------------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①生徒及び教職員健康管理対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康事業 尿検査（全員）、心臓検診（1年）、貧血検査（2年）、結核精密検査（該当者） ・教職員の健康事業 定期健康診断（人間ドック未受診者）、胃がん検診（35歳以上の希望者）、HBワクチン（劇症肝炎）接種、ストレスチェック（全員）
------------------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業スケジュール	①生徒及び教職員健康管理対策事業 ・生徒の健康事業 ・教職員の健康事業	①生徒及び教職員健康管理対策事業 ・生徒の健康事業 ・教職員の健康事業	①生徒及び教職員健康管理対策事業 ・生徒の健康事業 ・教職員の健康事業	①生徒及び教職員健康管理対策事業 ・生徒の健康事業 ・教職員の健康事業
事業費		2,957	2,957	2,957
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	2,957	2,957	2,957

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	生徒への健康事業の充足率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100	100			
活動指標	教職員への健康事業の充足率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100	100			
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	2,957千円	令和4年度決算額	2,591千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<生徒> ・令和2年度：尿検査（全学年）1,856人、心臓検診（1年）618人、貧血検査（2年）578人、結核精密検査（該当者）3人 ・令和3年度：尿検査（全学年）1,873人、心臓検診（1年）630人、貧血検査（2年）567人、結核精密検査（該当者）1人 ・令和4年度：尿検査（全学年）1,819人、心臓検診（1年）599人、貧血検査（2年）567人、結核精密検査（該当者）2人 <教職員> ・令和2年度：定期健診（人間ドック受診者以外）49人、胃がん検診（希望者）1人、ストレスチェック（全員）142人 ・令和3年度：定期健診（人間ドック受診者以外）44人、ストレスチェック（全員）142人 ・令和4年度：定期健診（人間ドック受診者以外）46人、胃がん検診（希望者）1人、ストレスチェック（全員）141人			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	生徒が健康に学校生活を送るため、また教職員が健康に勤務できるよう生徒・教職員自身の健康状態を把握・維持するために必要な事業である。					
課題	・学校行事等が組まれている中、限られた日程・期間で各種検査日や会場を調整しなければならない。 ・外国籍、特に日本語の会話が難しい生徒全員を受診させるのが難しい。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	生徒及び教職員の健康管理のため、必要となる検査等を継続して実施していく。					
令和6年度事業計画	・生徒の健康管理に伴う各種検査の実施 ・教職員の健康管理に伴う各種検査の実施					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	161	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・3・1	中学校学習等支援教諭補助員設置事業			15,143千円	15,200千円	12,160千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	きめ細やかな学習指導や生活指導を行い、生徒一人一人が確かな学力を身に付け、心身ともに健やかな学校生活を送れるようにする。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①中学校学習等支援教諭補助員設置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校への教諭補助員の配置 教諭補助員 5名
--------------------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
		①中学校学習等支援教諭補助員設置事業 ・中学校への教諭補助員の配置	①中学校学習等支援教諭補助員設置事業 ・中学校への教諭補助員の配置	①中学校学習等支援教諭補助員設置事業 ・中学校への教諭補助員の配置
事業スケジュール				
事業費		15,200	15,200	15,200
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	15,200	15,200	15,200

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 標準学力テストで全国平均を上回る学校数	3	目標値	4	4	4	5	5
		実績値	4	2			
活動指標 教諭補助員の充足率（人数）	100	目標値	100	100	100	100	100
		実績値	100	100			
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	15,200千円	令和4年度決算額	12,160千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【配置数】 令和2年度 5名配置 令和3年度 5名配置 令和4年度 5名配置			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	県費負担の教員だけでは賄いきれない部分を補うため配置するものであり、適切な学校運営と子どもたちの学習の保障の観点から配置は必要である。			
課題	任用にあたって条件があるため、求人を行っても応募者数は少ない、あるいは全くないといった状況が多々見られる。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	県費負担の教員をサポートし、子どもたちの学習の保障や学力の向上を推進していくため、最低でも現在の配置数は確保する必要がある。			
令和6年度事業計画	必要な中学校への教諭補助員の配置			
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	162	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・3・1	特別支援教育介助員設置事業			10,162千円	10,116千円	8,661千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	中学校において障がい等により配慮を要する児童が、安全安心な学校生活を送れるよう、日常生活の介助や教育活動上の支援を行うため臨時的に配置する。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①特別支援教育介助員設置事業
 ・中学校への特別支援教育介助員の配置
 特別支援教育介助員 5名

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		①特別支援教育介助員設置事業 ・中学校への特別支援教育介助員の配置	①特別支援教育介助員設置事業 ・中学校への特別支援教育介助員の配置	①特別支援教育介助員設置事業 ・中学校への特別支援教育介助員の配置
事業費		10,116	10,116	10,116
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	10,116	10,116	10,116

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標	小中学生の豊かな心の育成の達成度	2	目標値	3	4	4	5	5
		単位：校	実績値	3	2			
活動指標	特別支援教育介助員の充足率（人数）	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100	100			
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	10,116千円	令和4年度決算額	8,661千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【介助員配置数】 令和2年度 4名 令和3年度 5名 令和4年度 5名			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	各校で配慮を要する生徒に配置することで、安全安心な学校生活を確保することができた。			
課題	発達障がい等の理由から特別な配慮を必要とする生徒は多く、現状配置している人数でも不足している状況がある。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	各校から出されている介助員配置要望は、現在配置している人数の2倍程度あり、どの学校も校内での支援に苦慮しているところである。学校だけでなく子どもを預ける保護者にとっても安心感を得られるよう事業の拡大（増員）が必要である。			
令和6年度事業計画	特別な支援が必要な生徒への介助員の配置			
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	163	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・3・1	ICT学習指導員設置事業			0千円	4,204千円	2,878千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶1_学習環境や生活環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	学校での1人1台端末をはじめとするICTを活用した授業を円滑に進めるため必要な人員を配置する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ICT学習指導員の配置
 ・ICT学習指導員を配置し、授業等で学習支援を行う。
 中学校5校

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	事業費	4,204	4,204	4,204	
	財源	国庫	4,204	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	0	4,204	4,204	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 学校における教育の情報化（教員のICT活用指導力）	82.9	目標値	88.6	91.5	94.3	97.2	100
	単位：%	実績値	84.9	84.8			
	単位：	目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	4,204千円	令和4年度決算額	2,878千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・ICT学習指導員配置校 【令和3年度】 2校 2名 【令和4年度】 4校 4名			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の 必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	1人1台端末の導入による児童及び教職員へのサポートに資することができた。					
課題	指導員によってICTの技術力に差があり、研修会等の実施により全体の能力の底上げ等を図る必要がある。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	1人1台端末の導入から2年が経過し、学校中でも十分に活用が図られてきていることから、今後はICT活用支援業務委託によりサポートしていく方向とする。					
令和6年度 事業計画	なし					
予算規模 見込み	<input type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input checked="" type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	164	重要事業		総合戦略		担当部署	学校教育課 学事係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・3・2	教育振興事業			9,642千円	1,200千円	299千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶5_「自助」や「共助」の意識を育む教育の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	指導用の教科書や特活副読本等を活用して教育の振興を図る。
----------------	------------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①教育振興事業

- ・ 教師用教科書及び指導書、特活副読本の購入
教科書の採択替えに伴い教師用教科書及び指導書を購入する。また特別活動副読本「明るい学級」を購入する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	事業費	1,200	1,200	1,200	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	1,200	1,200	1,200	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	教師用教科書及び指導書の配付率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100	100			
活動指標	副読本の配付率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100	0			
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	1,200千円	令和4年度決算額	299千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【令和2年度】 教師用教科書及び指導書購入、特別活動副読本「あかるい学級」購入 【令和3年度】 教師用教科書及び指導書購入（教科用図書の採択替え） 【令和4年度】 教師用教科書及び指導書購入			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	教職員が生徒へ適切な指導を行うため必要である。令和4年度においては副読本の活用がなかった（今後については中学校にて検討中）。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や指導書の給与・購入に関する事務が煩雑。 ・教科書改訂時ごとに予算額が大きくなる。 					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	学校の授業において必要不可欠なものであり、今後も継続していく必要がある。					
令和6年度事業計画	教師用教科書及び指導書の購入（特別活動副読本購入については学校と調整）					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	165	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・3・2	部活動振興事業		5,962千円	5,962千円	2,821千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	中学校における生徒の健全育成や体力向上のため、民間指導者を派遣し部活動の充実を図る。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①部活動の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員及び部活動外部指導者の配置 部活動を安全安心に実施することに加え、教職員の負担軽減のため部活動指導員及び部活動外部指導者を配置する。 ○部活動指導員 5名（必要校） ○部活動外部指導者 5校・計25名 <ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽の部活動に関する事業 吹奏楽講習会の開催や県内大会等への派遣（東部大会、県大会）
---------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①部活動の振興 ・部活動指導員及び部活動外部指導者の配置 ・吹奏楽の部活動に関する事業		①部活動の振興 ・部活動指導員及び部活動外部指導者の配置 ・吹奏楽の部活動に関する事業	①部活動の振興 ・部活動指導員及び部活動外部指導者の配置 ・吹奏楽の部活動に関する事業
	事業費	5,962	5,962	5,962
財源	国庫	579	579	579
	県費	579	579	579
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	4,804	4,804	4,804

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 新体力テストで全国平均を上回る学校数 (中学校)	男3・女2	目標値	男4・女3	男4・女4	男4・女4	男5・女5	男5・女5
	単位：校	実績値	男2・女3	男2・女3			
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	5,962千円	令和4年度決算額	2,821千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【部活動外部指導者数】 令和2年度 18名 令和3年度 17名 令和4年度 6名 【吹奏楽部の実績】 令和2年度 中止 令和3年度 東部地区大会、県大会 令和4年度 東部地区大会、県大会			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	民間指導者を派遣による部活動の充実から、生徒の健全育成や体力向上が図られている。併せて、安全な部活動運営も図られている。			
課題	生徒の健全育成や体力向上についての指導を担う、適切な人材の確保が困難である。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	生徒の健全育成や体力向上及び部活動の安全な運営を図るため、継続が必要な事業である。			
令和6年度事業計画	・部活動指導員の配置及び部活動外部指導者の派遣 ・吹奏楽コンクールへの生徒の派遣			
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	166	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 学事係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・3・2	就学奨励(援助)事業			28,419千円	29,805千円	25,425千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	経済的な理由により就学が困難な生徒の保護者に対し、学校生活に必要な費用を援助する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
生徒の就学奨励事業 ※特別支援教育就学奨励費を含む	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 要保護及び準要保護生徒援助費 ＜内容＞ 「学校教育法」の規定に基づき、経済的理由のため就学困難と認められる市内に在住する生徒の保護者に対し、申請方式により、以下の品目を支給することで援助を行う。 ＜支給品目＞ 学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費、新入学児童生徒学用品費、通学費、医療費、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費 ・ 特別支援教育就学奨励費 ＜内容＞ 「特別支援学校への就学奨励に関する法律」の規定に基づき、障害のある児童生徒等への経済的負担を軽減するため、市内に在住する生徒の保護者に対し、申請方式により、以下の品目を支給することで援助を行う。 ＜支給品目＞ 学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費、新入学児童生徒学用品費、通学費 	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	生徒の就学奨励事業	生徒の就学奨励事業	生徒の就学奨励事業	生徒の就学奨励事業
	・ 要保護及び準要保護生徒援助費	・ 要保護及び準要保護生徒援助費	・ 要保護及び準要保護生徒援助費	・ 要保護及び準要保護生徒援助費
	・ 特別支援教育就学奨励費	・ 特別支援教育就学奨励費	・ 特別支援教育就学奨励費	・ 特別支援教育就学奨励費
	事業費	29,805	29,805	29,805
	財源			
	国庫	1,369	1,369	1,369
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	28,436	28,436	28,436

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	中学生保護者に対する制度周知回数	目標値	2	2	2	2	2
		実績値	2	2			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	29,805千円	令和4年度決算額	25,425千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【要保護及び準要保護生徒援助費】 令和2年度 対象者168名 給付額17,332,102円 令和3年度 対象者170名 給付額19,972,956円 令和4年度 対象者170名 給付額23,474,270円 【特別支援教育就学奨励費】 令和2年度 対象者23名 給付額 656,688円 令和3年度 対象者35名 給付額1,694,485円 令和4年度 対象者38名 給付額1,926,944円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	経済的な理由により就学が厳しい世帯や特別支援学級に在籍する生徒の世帯に給付を行うことで、生徒の就学機会の確保に資することができた。			
課題	準要保護就学援助費及び特別支援就学奨励費支給対象者の緩やかな増加が見られる。			
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	経済的に苦しい世帯や配慮を要する生徒の世帯に対して、学習の保障と就学機会を確保するため、引き続き必要な世帯に支援を行っていく。			
令和6年度 事業計画	・要保護・準要保護生徒への就学援助費の支給 ・特別支援学級通学者への就学奨励費の支給 ・市外特別支援学校へ通学する生徒への就学助成費の支給			
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	167	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 学事係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・3・2	被災生徒就学援助事業			307千円	211千円	0千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	東日本大震災により被災し、経済的理由から就学等が困難となった生徒に対し、交付金として経費の全額（10/10）を支援する。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
被災児童生徒援助事業	
<p><内容> 東日本大震災により被災し、経済的理由から就学困難となった市内に在住する生徒の保護者に対し、申請方式により、以下の品目を支給することで家庭の教育負担の軽減を行う。</p> <p><支給品目> 学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費、新入学児童生徒学用品費、通学費、医療費、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費</p>	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	被災生徒就学援助事業	被災生徒就学援助事業	被災生徒就学援助事業	被災生徒就学援助事業
	・被災生徒就学援助費	・被災生徒就学援助費	・被災生徒就学援助費	・被災生徒就学援助費
	事業費	211	211	211
	財源			
	国庫	211	211	211
県費	0	0	0	
市債	0	0	0	
その他	0	0	0	
一般財源	0	0	0	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	援助者に対する充足率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	-	-			
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	211千円	令和4年度決算額	0千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【被災生徒就学援助費】 令和2年度 対象者0名 給付額0円 令和3年度 対象者0名 給付額0円 令和4年度 対象者0名 給付額0円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	東日本大震災や原発事故により館林市に避難している世帯に必要な就学支援を行うものだが、令和2年度と4年度は申請なし、令和3年度は申請はあったものの非該当だった。					
課題	避難者の転出入の時期や、現在市内に在住の避難者がいつ認定になるかといった不確定要素が多くある中で、結果的に予算執行されない状況もあり得る。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	避難者の転入や市内在住の避難者が今後認定となる可能性もあることから、最小限の予算は確保しておく必要がある。					
令和6年度事業計画	東日本大震災で被災した生徒への就学援助費の支給					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	168	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・6・1	保健体育総務		6,462千円	6,447千円	6,183千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	中学生にスポーツ実践の機会を与え、技能の向上とスポーツ精神の高揚を図り、心身ともに健全な中学生を育成するとともに、生徒相互の親睦とスポーツの振興を図る。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①学校体育スポーツ指導事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校体育連盟交付金 <p>中学校5校で組織され、各種大会の運営経費や県大会等への選手派遣に係る経費などを対象とし、交付要綱に基づき予算の範囲内で交付する。</p>
---------------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	事業費	6,447	6,447	6,447	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
		その他	0	0	0
		一般財源	6,447	6,447	6,447
	①学校体育スポーツ指導事業 ・ 中学校体育連盟交付金	①学校体育スポーツ指導事業 ・ 中学校体育連盟交付金	①学校体育スポーツ指導事業 ・ 中学校体育連盟交付金		

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	3	目標値	3	3	3	3	3
	単位：回	実績値	2	3			
	単位：	目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	6,447千円	令和4年度決算額	6,183千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<中体連> 令和2年度 交付金2,544,441円 令和3年度 交付金5,643,000円 令和4年度 交付金5,846,163円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	体育やスポーツの振興、生徒に実践する機会の提供などにより、技能向上やスポーツ精神の高揚を図るために必要である。					
課題	中体連の大会等が例年通りに実施された場合、バス賃借料が予算の中で大きなウェイトを占めることになり、結果的に予算を補正する必要が生じる。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	中学生にスポーツ実践の機会を与え、技能の向上とスポーツ精神の高揚を図り、心身ともに健全な中学生を育成するとともに、生徒相互の親睦とスポーツの振興を図るために継続が必要な事業である。					
令和6年度事業計画	・市中体連への交付金交付 ・県中体連大会出場に伴う参加費の負担					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	169	重要事業	総合戦略	担当部署	学校教育課 指導係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・6・1	体育・スポーツの振興		180千円	180千円	165千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	県大会を勝ち抜いた選手に広くスポーツの実践の機会を与えるとともに、保護者の負担軽減を図る。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①全国・関東・体育事業派遣 ・中学生ブロック大会参加補助金 関東大会や全国大会へ参加する中学生の経費（交通費、宿泊費等）のうち、県中体連派遣費助成金を差し引いた2/3を市が補助する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	事業費	180	180	180	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	180	180	180	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	学校別関東大会・全国大会等への出場総競技数	11	目標値	12	13	14	14	15
			実績値	7	3			
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	180千円	令和4年度決算額	165千円	
<p style="text-align: center;">【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度 新型コロナウイルス感染流行のため各種大会中止 ・令和3年度 水泳・陸上・柔道・体操・ソフトテニス 26名 225,000円 ・令和4年度 陸上・水泳 11名 165,300円 			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	県大会を勝ち抜き上位の大会へと進んだ生徒に一層のスポーツ実践の機会を与え、保護者の負担軽減を図る必要がある。 ※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催された大会が少なかった。					
課題	コロナ禍を除けば、年度ごとに上位大会に参加する種目や選手数、開催地が異なり、予算不足になることから補正予算で対応している。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
令和6年度 事業計画	コロナ禍を除き、過去の実績で毎年補正増しているため、事業の拡大が必要である。 ・令和元年度 418,000円 ・令和2年度 新型コロナウイルス感染流行のため中止 ・令和3年度 225,000円 ・令和4年度 165,300円					
令和6年度 事業計画	水泳、陸上等 30名程度 300,000円					
予算規模 見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	170	重要事業	○	総合戦略		担当部署	向井千秋記念子ども科学館 事業係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・5・10	向井千秋記念子ども科学館ROCKET事業			3,874 千円	1,308 千円	572千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進
施策の方向	▶1_生涯学習理念の普及啓発
施策の方向	▶4_多様化する学習ニーズへの対応と個性に応じた学びの場の創出

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	東京大学先端科学技術研究センターの助言を基に、現状の教育環境に馴染めずに悩みを抱えている子どもたちへの新しい学びの場を提供し、個性に合った支援を行うことにより、子どもたちのもつ能力を伸ばしたり、隠れた才能を見つけ出したりすることで、自立して生きていく力を養ったりする。 また、ROCKETの学びを活かした「里沼プログラム」を開発・実践し、子どもたちのシビックプライドの醸成、次世代の郷土の担い手の育成をめざす。
令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
○里沼（SATO-NUMA）プログラム ○タブレット等を活用した学習支援 ○ROCKET Lab ○トップランナートーク	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業スケジュール		○里沼（SATO-NUMA）プログラム ○タブレット等を活用した学習支援 ○ROCKET Lab ○トップランナートーク	○里沼（SATO-NUMA）プログラム ○タブレット等を活用した学習支援 ○ROCKET Lab ○トップランナートーク	○里沼（SATO-NUMA）プログラム ○タブレット等を活用した学習支援 ○ROCKET Lab ○トップランナートーク
	事業費	1,308	1,308	1,308
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,308	1,308	1,308

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標	向井千秋記念子ども科学館利用者数 (入館者)	62,812	目標値	63,875	64,406	64,937	65,469	66,000
			実績値	36,583	52,773			
総合計画指標	向井千秋記念子ども科学館利用者数 (観覧者)	25,006	目標値	25,671	26,003	26,335	26,668	27,000
			実績値	16,291	24,983			
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	1,308千円	令和4年度決算額	572千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・Submarineﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	R2: 77人 (3回)	R3: 35人 (2回)	R4: —
	・Balloonﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	R2: 24人 (3回)	R3: 50人 (3回)	R4: —
	・茂林寺沼ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	R2: —	R3: —	R4: 43人 (3回)
	・百年小麦ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	R2: —	R3: —	R4: 39人 (3回)
	・ICT等を活用した学習支援	R2: 63人	R3: 83人	R4: 73人
	・ROCKET Lab	R2: 153人 (13回)	R3: 153人 (17回)	R4: 171人 (17回)
	・トップランナートークin館林	R2: 15人	R3: 206人 (2回) (動画配信)	R4: 132人 (オンライン配信)

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	ROCKET Labにおいては、参加者のアンケートから、「ROCKETのなかまや大人たちと話ができるようになってきた」、「自分のできることが見つかった」との回答が多く、事業目的である「自己肯定感や自己有用感を高める」ことがおおむね達成できた。保護者・学校のアンケート結果からは、参加者と同様に活動への肯定的な回答のほか、「様々な人と話をする機会が増えた」という回答が多く、子どもの居場所としての安心感をえられている保護者も多くみられた。また、ICT等を活用した学習支援においては、通級指導教室に在籍となった児童生徒へのアセスメント実施により、読み書きに困難を抱えている児童生徒の個の特性や実態を担当教諭が知ることができ、適切な支援へとつながった。「里沼 (SATO-NUMA) プログラム」においては、館林への興味関心の高まりがみられ、新しい発見・さらなる魅力に気づいた子どもが多く見られた。
課題	学校との連携を図るうえで、参加者の担任だけでなく管理職にも校務支援システム等を用いて情報共有を行ってきたが、まだ本事業への周知が不十分である。また、通常学級での個別支援に関しては、実際の児童生徒の姿から支援方法を考えて実践を行ったため、アセスメントは実施せず、まだ科学的知見に基づいた実践とはなっていない。今後、通級指導教室等に在籍する児童生徒同様、アセスメントの実施とその結果に基づいた活用を図る必要がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	東京大学のROCKET事業と連携して行ってきたこれまでの実践を基に、本市の特色を生かしたROCKETプロジェクトの推進を図る。
令和6年度事業計画	・ROCKETの学びを活かした「里沼 (SATO-NUMA) プログラム」の実施 (茂林寺沼プログラム、百年小麦プログラム) ・ROCKETの学びを活かした個別支援の実施 (ICT等を活用した学習支援) ・学校 (相談室) と連携を密にしたROCKET Labの実施 (ROCKET Lab)
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	171	重要事業	○	総合戦略		担当部署	学校給食センター 給食係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・6・3	給食センター運営			335,449千円	335,080千円	337,226千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶6_教育活動における食育の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	児童生徒に対し、安全安心で栄養バランスのとれた給食を安定的に提供するとともに、食生活や生活環境の変化に伴い、学校給食の目的が「食生活の改善」から「食育の推進」を重視したものとなったことを受け、児童・生徒の食に対する偏りを修正し、保護者の食育への理解を深めるため、栄養教諭等による食に関する指導の一層の充実を図り、次世代を担う親子への望ましい食習慣づくりを推進する。 また、学校給食は食育の生きた教材であり、食育推進に取り組む環境を整備するため、子育て世代が抱えている経済的負担の軽減を図る。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

給食センター運営事業【重要事業】

①食育の推進

- ・学校、家庭及び学校給食センターの連携により、学校訪問による各教科等の中での食育の推進（栄養、食事マナー、食文化・伝統、食材流通の経路と労働への感謝、運動との関わり等）
- ・施設見学、調理実習等を通じた保護者（家庭）への食育の推進
- ・食育ブログ等による食育の推進及び学校給食の情報提供
- ・パネル展の実施

②アレルギー対応食の提供

- ・対象者：医師の診断・指示により、家庭でも除去を行っている児童生徒
- ・除去品目：卵
- ・提供開始：令和3年4月～
- ・アレルギー対応食の献立：通常食と同様の献立

③学校給食費の徴収管理

- ・学校と情報共有しながら学校給食費の適正賦課及び徴収
- ・第3子以降の学校給食費の無料化

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	事業	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での食育授業の実施 ・給食時訪問による食育の実施 ・施設見学、調理実習等の実施 ・食育ブログ、パネル展等による食育の推進及び学校給食の情報提供 ・学校給食費の徴収管理 ・通常食、アレルギー対応食の提供及びアレルギー対応品目の検討 ・第3子以降の学校給食費の無料化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での食育授業の実施 ・給食時訪問による食育の実施 ・施設見学、調理実習等の実施 ・食育ブログ、パネル展等による食育の推進及び学校給食の情報提供 ・学校給食費の徴収管理 ・通常食、アレルギー対応食の提供及びアレルギー対応品目の検討 ・第3子以降の学校給食費の無料化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での食育授業の実施 ・給食時訪問による食育の実施 ・施設見学、調理実習等の実施 ・食育ブログ、パネル展等による食育の推進及び学校給食の情報提供 ・学校給食費の徴収管理 ・通常食、アレルギー対応食の提供及びアレルギー対応品目の検討 ・第3子以降の学校給食費の無料化 	
	事業費	335,080	335,080	335,080	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		311,340	311,340	311,340	
	一般財源	23,740	23,740	23,740	

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	学校訪問の訪問率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	43.3	19.9			
活動指標	施設見学回数	21	目標値	24	26	27	29	30
		単位：回	実績値	13	21			
活動指標	地場産農作物使用率（使用農作物全体に占める地場産の割合：重量）	38.9	目標値	39.3	39.4	39.6	39.8	40.0
		単位：%	実績値	38.2	38.1			

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	346,480千円	令和4年度決算額	337,226千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校訪問の訪問率 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度実績 19.9% 内訳 (令和2年度: 59.8%、令和3年度: 43.3%、令和4年度: 19.9%) ※新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、学校訪問未実施期間あり ■ 施設見学回数 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度実績 21回 内訳 (令和2年度: 13回、令和3年度: 13回、令和4年度: 21回) ■ 地場産農作物利用率 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度実績 38.1% 内訳 (令和2年度: 38.8%、令和3年度: 38.2%、令和4年度: 38.1%) 			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	指標の「学校訪問の訪問率」については、マスクをとる食事中に訪問することになるため、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る措置として長期間訪問できなかったことが年度目標を下回った要因である。一方、施設見学についてはマスク着用にて対応可能なため、対前年度を上回ることができた。			
課題	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、食育活動は上昇に転じる見込みであるが、食育の推進やアレルギー対応食の提供においては、通常食の提供に影響を及ぼさないためにも、栄養士のさらなる配置が必要である。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	学校給食センターにおける調理及び施設の維持管理運営に関しては、SPC（特別目的会社）が行うこととなっているが、献立の作成、使用食材の発注及び検収、学校給食費実費徴収金の徴収管理、各学校への訪問を通じた食育への働きかけ等、学校給食の根幹をなす部分については引き続き市が実施するとともに、安心安全な給食を今後も提供していかなければならない。			
令和6年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校に対する食育活動の実施 ・ 通常食及び食物アレルギー対応食の提供 ・ アレルギー対応食の対応品目拡大 ・ 学校給食実費徴収金の徴収管理 ・ 第3子以降学校給食費無料化 			
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	172	重要事業	総合戦略	担当部署	学校給食センター 給食係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)
10・6・3	給食センターPFI運営事業			419,770千円	414,613千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策の方向	▶6_教育活動における食育の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	平成30年度2学期より施設の供用を開始したPFI法に基づき整備された学校給食センターにおいて、令和15年8月までの15年間当該施設の維持管理、調理業務等の運営をSPCに業務委託し、安全安心な給食を安定的に提供する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①市が提示した要求水準書の履行確認のためのモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・SPCによるセルフモニタリング報告書の確認 ・日常における維持管理業務及び運営業務のモニタリング ・PFI事業協議会の開催
②SPCが提示した提案書の履行確認のためのモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・SPCによるセルフモニタリング報告書の確認 ・日常における維持管理業務及び運営業務のモニタリング ・PFI事業協議会の開催
③SPCの財務モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・年度明けに提出されたSPCの財務諸表のモニタリング及び市ホームページへのモニタリング結果の公表

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール		①市の要求の水準書のモニタリング ②SPCの提案書のモニタリング (①②共通) ・SPCによるセルフモニタリング報告書の確認 ・日常における維持管理業務及び運営業務のモニタリング ・PFI事業協議会の開催 ③SPCの財務モニタリング ・年度明けに提出されたSPCの財務諸表のモニタリング及び市ホームページへのモニタリング結果の公表	①市の要求の水準書のモニタリング ②SPCの提案書のモニタリング (①②共通) ・SPCによるセルフモニタリング報告書の確認 ・日常における維持管理業務及び運営業務のモニタリング ・PFI事業協議会の開催 ③SPCの財務モニタリング ・年度明けに提出されたSPCの財務諸表のモニタリング及び市ホームページへのモニタリング結果の公表	①市の要求の水準書のモニタリング ②SPCの提案書のモニタリング (①②共通) ・SPCによるセルフモニタリング報告書の確認 ・日常における維持管理業務及び運営業務のモニタリング ・PFI事業協議会の開催 ③SPCの財務モニタリング ・年度明けに提出されたSPCの財務諸表のモニタリング及び市ホームページへのモニタリング結果の公表	
	事業費	414,613	414,695	414,782	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	414,613	414,695	414,782	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	414,613千円	令和4年度決算額	413,261千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ H30年度～ ・維持管理業務・運営業務・事業契約・財務書類に係るモニタリングの実施 ・SPCによる施設の適正な維持管理、保守点検及び不具合箇所の修繕及びセルフモニタリングの実施			

【事業の評価】

【Check】 指標評価				
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	本事業は、安全安心な給食を継続的に提供するために不可欠であり、その実現に向け市側におけるモニタリングは適正に実施されていると考える。			
課題	安全安心な給食の継続的な提供を脅かす要因を排除するため、引き続きモニタリングを強化していく必要がある。			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
令和6年度事業計画	安全安心な給食の継続的な提供のため、モニタリングを適正に実施していく。 ・市が提示した要求水準書の履行確認のためのモニタリング ・SPCが提示した提案書の履行確認のためのモニタリング ・新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症陽性者や災害等発生時の対応			
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	173	重要事業	総合戦略	担当部署	生涯学習課 青少年係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
2・1・7	国際都市間交流事業		2,449 千円	245 千円	85 千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13 心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
施策の方向	▶2 子どもの健全育成を促進する学びの機会の提供

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	小学生・中学生を対象に、異なる地域の文化や歴史、風土を学ぶ貴重な体験機会として、友好都市である沖縄県名護市と交流を行う。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

青少年健全育成四団体（PTA、青少推、補導員会、市子連）が連携して実施する。

互いの市へ隔年で訪問し、令和4年度は名護市児童生徒を受け入れ、交流会を実施する予定である。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		名護市より受入れ ①事前研修 ②事業実施	名護市へ訪問 ①事前研修 ②事業実施 ③事後研修	名護市より受入れ ①事前研修 ②事業実施
	事業費	245	2,500	245
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	245	2,500	245

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	名護市館林市児童交流事業参加人数	53 (H30)	目標値	50	50	50	50	50
		単位：人	実績値	0	26			
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	245千円	令和4年度決算額	85千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	●名護市館林市児童交流事業 平成29年度（名護市へ訪問）：33名参加（児童のみ、館林市19名・名護市14名） 平成30年度（館林市へ来訪）：53名参加（児童のみ、館林市29名・名護市24名） 令和元年度（名護市へ訪問）：台風接近のため、中止 令和2年度（リモートにて実施）：32名参加（児童のみ、館林市20名・名護市12名） 令和3年度（名護市へ訪問）：コロナウイルス感染拡大防止のため、中止 令和4年度（館林市へ来訪）：26名参加（児童のみ、館林市10名・名護市16名） ※隔年で訪問、隔年で来訪		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input checked="" type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	小学生・中学生が異なる地域の文化、歴史及び風土を学び、またはその体験の機会を得ることができる事業である。友好都市である沖縄県名護市においては、風土や文化の特色が強く、青少年への良好な学習効果が期待できる。一方、費用面においては、名護市への訪問時に遠方がゆえ、約280万円の費用を要する。
課題	青少年の学習意欲の向上が期待できる一方、訪問時には多額の費用を要する。また、事業実施においては、新型コロナウイルス感染症の拡大状況や台風等の天候に左右されるため、中止になる可能性がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	友好都市との交流事業であり、本事業においては青少年を対象としているが、遠方がゆえに参加児童・生徒並びに引率者の負担も大きく、継続することが困難な事業のため、他の交流事業との統合の検討を要する。
令和6年度事業計画	青少年健全育成四団体（PTA、青少推、補導員会、市子連）が連携して実施する。 互いの市へ隔年で訪問し、令和6年度は館林市が名護市の児童・生徒を迎える。 ※参考（令和5年度は名護市を訪問） 児童生徒20名、引率者7名（団体5名、職員2名）の計27名が参加予定。
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	※令和6年度は館林市が名護市の児童・生徒を迎える年度のため予算額減

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	174	重要事業	総合戦略	担当部署	生涯学習課	生涯学習係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・2	社会教育活動促進事業 (学級講座)			713千円	691千円	373千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13_心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
施策の方向	▶1_家庭の教育力回復を図る取組

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	自己実現を図るために、市民一人ひとりが個性や能力を最大限に伸ばし、環境の変化に対応できる生きがいのある充実した生活が送れるよう、ライフステージに合った各種学級講座等とおして生涯学習にわたる学習の継続と自己学習力の向上を目指す。特に家庭教育への支援を進め、家庭の教育力の向上に努める。 生涯学習研究集会、小学校家庭教育学級合同講演会、小学校新入学期子育て講座、中学校思春期子育て講座、東洋大学オープン講座、すくすくサポート隊などを開催。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
生涯学習研究集会	各種学級講座の参加者と担当者による年間事業の評価する場として開催及びたてばやしふるさとアカデミアを作成する。
小学校家庭教育学級合同講演会	各公民館・各小学校で実施している家庭教育学級生を一堂に会し、より深い学習機会と交流の場として開催する。
小学校新入学期子育て講座	家庭教育指導員による、小学校入学前に実施される入学説明会の際に取り入れている子育て講座を開催する
すくすくサポート隊	児童館等が近くにない公民館にて、ボランティアのサポート隊員による子育て支援の場とする。
家庭教育相談	家庭教育指導員の予約制による子育て相談の機会を開設する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	生涯学習研究集会（たてばやしふるさとアカデミア作成） 小学校家庭教育学級合同講演会 小学校新入学期子育て講座 すくすくサポート隊		生涯学習研究集会（たてばやしふるさとアカデミア作成） 小学校家庭教育学級合同講演会 小学校新入学期子育て講座 すくすくサポート隊	生涯学習研究集会（たてばやしふるさとアカデミア作成） 小学校家庭教育学級合同講演会 小学校新入学期子育て講座 すくすくサポート隊
	事業費	691	691	691
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	691	691	691

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	生涯学習事業実績延べ回数	751	目標値	740	735	730	725	720
		単位：回	実績値	759	1,173			
活動指標	すくすくサポート隊開設回数	86	目標値	87	88	88	89	90
		単位：回	実績値	67	89			
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	691千円	令和4年度決算額	373千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	生涯学習研究集会 令和2年度：書面開催 令和3年度：書面開催 令和4年度：書面開催 小学校新入学期子育て講座 令和2年度：416人 令和3年度：529人 令和4年度：520人 小学校家庭教育学級合同講演会 令和2年度：16人 令和3年度：26人 令和4年度：79人 すくすくサポート隊 令和2年度：延べ242人参加 令和3年度：延べ430人参加 令和4年度：延べ710人参加		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	研究集会は書面開催となったものの、各年代に応じた学習機会が計画的に実施され、その成果は、一堂に会することはできなくても、冊子としてまとめられ、学習内容が精査されているほか、次年度の参考書となっており、学び方が研究されている。 また、新入学期子育てセミナーを全ての小学校で実施することができ、DVDや資料等を作成して全ての対象者に学ぶ機会を提供できた。すくすくサポート隊は、利用者が事業に参加している様子などを自身の開設するSNSに掲載されたことにより、参加者が増加した。
課題	各種講座等については、参加者数の減少があげられており、課題に対する学習内容とニーズのある学習内容の配分に苦慮している。また、5公民館で行われているすくすくサポート隊では、サポート隊員の高齢化が進み、サポート隊員となる協力者の増員が課題である。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
令和6年度事業計画	生涯学習研究集会 小学校新入学期子育て講座 中学校思春期子育て講座 東洋大学オープン講座 すくすくサポート隊
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	175	重要事業	○	総合戦略		担当部署	生涯学習課 青少年係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・5・3	青少年健全育成事業			1,636 千円	2,048 千円	919 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13_心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
施策の方向	▶2_子どもの健全育成を促進する学びの機会の提供

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	青少年の居場所づくり事業、青少年育成指導者の養成や青少年育成団体への活動支援を行い、地域に根ざした自主的な青少年健全育成活動を広める。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①放課後子ども教室【重要事業】
放課後に子どもたちの安全・安心な居場所を作り、地域住民等の協力を得て、様々な交流や体験、学習の機会を提供する。
- ②青少年指導者養成講座
子ども会等の青少年団体活動を指導援助できる地域指導者を養成する。
- ③小学生インリーダー研修会
赤城の雄大な自然の中、地域の子どもの中心として活躍できるリーダーの育成を図る。
- ④通学合宿
共同生活や地域での体験活動を通じて、人とのふれあいやありがたさを実感し、生きる力を育む。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①放課後子ども教室【重】 新規開設1箇所 <西公民館・十小地区>		①放課後子ども教室【重】 新規開設1箇所 <未定>	①放課後子ども教室【重】 新規開設1箇所 <未定>
	②青少年指導者養成講座開催（年1回）	②青少年指導者養成講座開催（年1回）	②青少年指導者養成講座開催（年1回）	②青少年指導者養成講座開催（年1回）
	③小学生インリーダー研修会開催（年1回）	③小学生インリーダー研修会開催（年1回）	③小学生インリーダー研修会開催（年1回）	③小学生インリーダー研修会開催（年1回）
	④通学合宿開催（4地区）	④通学合宿開催（4地区）	④通学合宿開催（4地区）	④通学合宿開催（4地区）
	事業費	2,048	2,126	2,374
財源	国庫	0	0	0
	県費	484	496	656
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,564	1,630	1,718

【関連する指標】

総合計画指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標	放課後子ども教室開設数（重）	1	目標値	2	3	4	5	6
		単位：箇所	実績値	2	3			
活動指標	青少年指導者養成講座参加人数	25	目標値	25	25	25	25	25
		単位：人	実績値	0	0			
活動指標	小学生インリーダー研修会参加人数	19 (R2)	目標値	20	20	20	20	20
		単位：人	実績値	0	0			
活動指標	通学合宿参加人数	58	目標値	60	60	60	60	60
		単位：人	実績値	0	0			

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	2,048千円	令和4年度決算額	919千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	●夏季教育キャンプ 令和元年度：32名参加 令和2年度：中止 令和3年度：中止 令和4年度：中止 ●小学生インリーダー研修会 令和元年度：中止 令和2年度：19名参加 令和3年度：中止 令和4年度：中止 ●青少年指導者養成講座 令和元年度：25名参加 令和2年度：23名参加 令和3年度：中止 令和4年度：中止 ●放課後子ども教室開設 令和3年度：1箇所開設 26名参加 令和4年度：2箇所開設 31名参加			
				●少年の主張館林市大会 令和元年度：294名参加 令和2年度：中止 令和3年度：60名参加 令和4年度：119名参加 ●青少年育成運動推進大会 令和元年度：218名参加 令和2年度：70名参加 令和3年度：158名参加 令和4年度：130名参加 ●通学合宿 令和元年度：58名参加 令和2年度：中止 令和3年度：中止 令和4年度：中止

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	「地域の中での子育て」を推進するためにも、担い手となる青少年育成団体の支援や指導者養成は今後も必要なため、政策の推進において不可欠な事業と言える。 「放課後子ども教室」を実施することで、地域住民の参画のもと子どもたちに交流の場や体験及び学習の機会を提供すると同時に、地域力向上が期待できるため、適切な効果が得られている。					
課題	この事業の大半が人との交流を主としているため、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止になっている。特に、キャンプ等の宿泊を伴う事業は密になり易く、多人数での食事を行うため、事業を継続することが困難。また、新型コロナウイルスの警戒レベルは下がったが、社会全体としてコロナ前の生活スタイルに戻る意識は薄いため、従来の事業にとらわれない形での事業再編が求められている。 新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、感染症対策を行ったうえで、可能な範囲内で事業を継続する必要がある。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
令和6年度事業計画	・青少年指導者養成講座開催 (年1回) ・小学生インリーダー研修会開催 (年1回) ・少年の主張館林市大会開催 (年1回) ・通学合宿実施支援 (3地区) ・青少年育成運動推進大会 (年1回) ・放課後子ども教室開設 (1か所増)					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	176	重要事業	総合戦略	担当部署	生涯学習課 青少年係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・3	青少年問題対策事業		1,076 千円	1,076 千円	904 千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13 心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
施策の方向	▶3 地域社会における子どもの安全安心の確保

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	地域全体で、青少年の安全確保と非行防止活動や有害となる社会環境対策を行えるよう、青少年育成団体への活動奨励や支援を行うとともに、子ども自身の悩みや保護者の子育て上の悩みに対応した相談体制を確保する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①青少年育成推進委員の活動支援	青少年健全育成及び非行防止対策を推進するため、青少年対策の推進者としての活動を促進する。
②子ども安全協力の家	登下校中の児童・生徒が、身に危険を感じたときや急病などで困ったときに、地域で子どもを手助けし安全を守る。
③中学校訪問	学校との連携を深めて地域活動を充実させるため、中学校との情報交換会を実施する。
④青少年カウンセリング講座	家庭教育や青少年団体指導等におけるカウンセリングに関する基本的な理論や技法を習得する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①青少年育成推進委員の活動支援（通年）	①青少年育成推進委員の活動支援（通年）	①青少年育成推進委員の活動支援（通年）	①青少年育成推進委員の活動支援（通年）
	②子ども安全協力の家（通年）	②子ども安全協力の家（通年）	②子ども安全協力の家（通年）	②子ども安全協力の家（通年）
	③中学校訪問実施（年1回、5校）	③中学校訪問実施（年1回、5校）	③中学校訪問実施（年1回、5校）	③中学校訪問実施（年1回、5校）
	④青少年カウンセリング講座開催（年5回）	④青少年カウンセリング講座開催（年5回）	④青少年カウンセリング講座開催（年5回）	④青少年カウンセリング講座開催（年5回）
	事業費	1,076	1,076	1,076
財源	国庫	0	0	0
	県費	214	214	214
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	862	862	862

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	子ども安全協力の家件数	目標値	404	403	402	401	400
		実績値	376	378			
活動指標	中学校訪問数	目標値	5	5	5	5	5
		実績値	4	5			
活動指標	青少年カウンセリング講座参加者数	目標値	31	31	31	30	30
		実績値	15	31			

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	1,076千円	令和4年度決算額	904千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 青少年育成推進員委嘱者数 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度：143名 令和2年度：143名 令和3年度：143名 令和4年度：143名 ● 青少年カウンセリング講座 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度：32名参加 令和2年度：15名参加 令和3年度：15名参加 令和4年度：31名参加 ● 中学校訪問情報交換会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度：全5校実施 令和2年度：1校実施 令和3年度：4校実施 令和4年度：5校実施 ● 子ども安全協力の家協力戸数 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度：407戸 令和2年度：376戸 令和3年度：376戸 令和4年度：378戸 		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	青少年育成推進員や青少年センター補導員、地域の青少年対策委員会等の地道な活動により、青少年が犯罪者や被害者となるような深刻な事件を発生させないための抑止力効果があるため、今後も事業は継続すべきである。 また、「青少年カウンセリング講座」を継続開催することで青少年の「よき相談者・理解者」に成り得る人材育成に寄与している。
課題	会社員などの定年延長など、社会情勢の変化により、青少年推をはじめとする地域で活躍していただける人材の確保が年々難しくなっている。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	地域全体で、青少年の安全確保と非行防止活動を行うため、青少年育成団体への活動奨励や支援を継続する。 また、子ども自身の悩みや保護者の子育て上の悩みに対応できる相談体制を築くため講座等を継続して行う。
令和6年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・市青少推、地域青少年対策委員会の活動支援（通年） ・中学校訪問情報交換会開催（年1回、中学校5校） ・子ども安全協力の家事業（通年） ・青少年カウンセリング講座開催（年5回） ・少年の日・家庭の日の普及啓発 ・スマホ・インターネット問題の講座開催（1回）
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	177	重要事業	総合戦略	担当部署	生涯学習課 青少年係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・3	青少年センター運営事業		6,752 千円	6,692 千円	6,379 千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13_心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
施策の方向	▶3_地域社会における子どもの安全安心の確保

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	青少年の非行を防止し健全な育成を図るため、青少年センターを設置し、青少年補導、青少年相談、青少年情報提供、青少年の健全育成及び非行防止に必要な事業を行う。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①補導員補導活動
青少年の問題行動の早期発見、早期指導及び子どもの安全確保のため、補導員による効果的な指導活動を推進する。
- ②青色回転灯防犯パトロール実施者研修
実施者が適正かつ的確なパトロールのあり方を学ぶことによって、指導者の資質向上を図る。
- ③子ども相談室
子どもの日常生活で発生する様々な悩み事や、保護者の悩み事の相談窓口として、市民の要望に応じていく。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①補導員補導活動（通年） 定例巡回補導、協力店補導、下校時補導、列車内補導、小学校区特別補導	①補導員補導活動（通年） 定例巡回補導、協力店補導、下校時補導、列車内補導、小学校区特別補導	①補導員補導活動（通年） 定例巡回補導、協力店補導、下校時補導、列車内補導、小学校区特別補導	①補導員補導活動（通年） 定例巡回補導、協力店補導、下校時補導、列車内補導、小学校区特別補導
	②青色回転灯防犯パトロール実施者研修実施（2回）	②青色回転灯防犯パトロール実施者研修実施（2回）	②青色回転灯防犯パトロール実施者研修実施（2回）	②青色回転灯防犯パトロール実施者研修実施（2回）
	③子ども相談室（通年） 面接相談、電話相談、メール相談	③子ども相談室（通年） 面接相談、電話相談、メール相談	③子ども相談室（通年） 面接相談、電話相談、メール相談	③子ども相談室（通年） 面接相談、電話相談、メール相談
	事業費	6,692	6,692	6,692
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	6,692	6,692	6,692

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	補導員補導活動延べ従事者数	656	目標値	671	678	685	693	700
		単位：人	実績値	475	670			
活動指標	青色回転灯防犯パトロール実施者研修開催数	2	目標値	2	2	2	2	2
		単位：回	実績値	2	2			
活動指標	相談員による電話・Eメール相談応答率	100	目標値	100	100	100	100	100
		単位：%	実績値	100	100			

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	6,692千円	令和4年度決算額	6,379千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<ul style="list-style-type: none"> ●青少年センター補導員委嘱者数 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度：100名 令和2年度：98名 令和3年度：96名 令和4年度：96名 ●少年の日・家庭の日ホステス等応募点数 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度：303点 令和2年度：209点 令和3年度：239点（絵画51点、標語188点） 令和4年度：129点（絵画23点、標語106点） ●補導員補導活動延べ従事者数 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度：656名 令和2年度：300名 令和3年度：475名 令和4年度：670名 ●青色回転灯防犯パトロール実施者研修開催 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度：2回開催 令和2年度：2回開催 令和3年度：2回開催 令和4年度：2回開催 		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	補導員による「声かけ」補導活動は、地域の大人の見守りであり、青少年の非行防止には有効と言える。また、困った時に相談できる場所があることも、青少年の非行防止や健全育成に不可欠なため、適切な効果が得られている。補導員会の活動や青少年相談活動を支える青少年センター運営事業は継続すべきである。
課題	補導員の担い手の確保や、青少年センターの指導員や相談員等の確保等、活動や業務に適した人材確保が困難になりつつある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）
	青少年の非行を防止し健全な育成を図るための機能を有する「青少年センター」の業務を継続し、青少年補導や青少年相談等の各種事業を行う。
令和6年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年補導員の指導及び活動支援 ・定例補導防犯パトロール実施（通年） ・特別補導等実施（全小学校区で春、夏、冬）、健全育成協力店巡回、下校時補導等 ・子ども相談室の運営（通年）
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	178	重要事業	総合戦略	担当部署	生涯学習課 青少年係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・3	二十歳のつどい事業		1,498 千円	1,591 千円	1,463 千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13_心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
施策の方向	▶2_子どもの健全育成を促進する学びの機会の提供

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	二十歳の節目を祝福する式典を行うことにより、自覚と責任、社会貢献を考える機会とする。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①式典の開催

民法の一部改正に伴い、令和4年4月1日から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられるが、「成人式」を「二十歳のつどい」に改称し、引き続き20歳となる人を対象に開催する。
 新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、2部制で開催する。来場できない対象者向けにオンライン配信を実施し、入場できない保護者向けにパブリックビューイング会場を設置する。

②実行委員会支援

式典の進行、アトラクションなどの企画運営を行う実行委員を募集し、活動を支援する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①式典準備（7月～）		①式典準備（7月～）	①式典準備（7月～）
	②実行委員会開催（9月～）		②実行委員会開催（9月～）	②実行委員会開催（9月～）
	③式典開催（1月）		③式典開催（1月）	③式典開催（1月）
	事業費	1,591	1,591	1,591
財源	国庫	523	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,068	1,591	1,591

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	式典出席率	80.2	目標値	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
		単位：%	実績値	74.8	74.0			
活動指標	実行委員数	6	目標値	6	7	7	8	8
		単位：人	実績値	9	14			
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	1,591 千円	令和4年度決算額	1,463 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	●二十歳のつどい（旧称：成人式）出席率 （出席者/対象者） 令和元年度：80.2%（578/721） 令和2年度：71.4%（584/818） 令和3年度：74.8%（573/766） 令和4年度：74.0%（553/747） ●二十歳のつどい実行委員数 令和元年度：6名 令和2年度：5名 令和3年度：9名 令和4年度：14名		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A		
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
評価根拠	市をあげての成人となったことを祝う式典であり、成人としての自覚と責任、社会貢献を促す節目にもなるため、適切な効果が得られる。		
課題	令和2年度から新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、2部制で開催。会場内においても、検温の実施、体調チェックシートの提出、マスク着用、換気・消毒等を実施。来場できない新成人向けにオンライン配信を実施し、入場できない保護者向けにパブリックビューイング会場を設置。今後の新型コロナウイルス感染症に対する社会の動向に合わせ、実施体制を調整する必要がある。		
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）		
	令和5年度は新型コロナウイルスが5類に移行したため、一部制での通常開催を検討する。		
令和6年度事業計画	・民法の一部改正に伴い、令和4年4月1日から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられ、「成人式」を「二十歳のつどい」に改称し、引き続き20歳となる人を対象に開催する。 ・二十歳のつどい（旧称：成人式）の開催 ・二十歳のつどい実行委員会委員募集及び活動（6月～）		
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較	
備考			

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	179	重要事業	○	総合戦略		担当部署	生涯学習課	生涯学習係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)		
10・5・4	公民館学級講座開設事業			2,943千円	2,916千円	1,902千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13_心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶1_家庭の教育力回復を図る取組
	▶3_課題解決型の学習活動の促進と人材の育成・活用

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	少年少女教室、小学校家庭教育学級、女性セミナー、高齢者教室、各公民館独自のオープン講座等において、社会の課題に対応した多種多様な学級講座をライフステージごとに提供する。そして、それぞれの講座の参加者が学習をとおして仲間を作り、体験し、課題を共有し、解決しながら自己実現を目指す。
令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
公民館学級講座開設事業【重要事業】	
少年少女教室 各公民館担当となる小学校エリアを主軸においた小学生を対象とし、主に体験学習を通して仲間づくり・居場所づくりの場とする。	
小学校家庭教育学級 各公民館が担当する小学校に通う保護者を対象に、家庭教育の向上を目指す講座を開設し、家庭教育の支援や仲間づくりの場とする。	
女性セミナー 各公民館が担当となる地域住民の特に女性を対象とした学級講座を開設し、地域課題の解決や仲間づくりの場とする。	
高齢者教室 各公民館が担当となる地域住民の特に高齢者を対象とした学級講座を開設し、健康づくりや生きがいづくり、仲間づくりの場とする。	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	公民館学級講座開設事業【重】	公民館学級講座開設事業【重】	公民館学級講座開設事業【重】	公民館学級講座開設事業【重】
	・少年少女教室の開催 ・小学校家庭教育学級の開催 ・女性セミナーの開催 ・高齢者教室の開催 ・各種学級講座の開催	・少年少女教室の開催 ・小学校家庭教育学級の開催 ・女性セミナーの開催 ・高齢者教室の開催 ・各種学級講座の開催	・少年少女教室の開催 ・小学校家庭教育学級の開催 ・女性セミナーの開催 ・高齢者教室の開催 ・各種学級講座の開催	・少年少女教室の開催 ・小学校家庭教育学級の開催 ・女性セミナーの開催 ・高齢者教室の開催 ・各種学級講座の開催
事業費		2,916	3,000	3,000
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	2,916	3,000	3,000

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	学級講座数	95	目標値	97	97	98	99	100
		単位：学級	実績値	86	139			
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	2,916千円	令和4年度決算額	1,902千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	少年少女教室 令和2年度：延べ 582人参加 令和3年度：延べ 964人参加 令和4年度：延べ1,846人参加 小学校家庭教育学級 令和2年度：延べ 495人参加 令和3年度：延べ 706人参加 令和4年度：延べ 976人参加 女性セミナー 令和2年度：延べ1,365人参加 令和3年度：延べ1,526人参加 令和4年度：延べ1,835人参加 高齢者教室 令和2年度：延べ1,859人参加 令和3年度：延べ2,027人参加 令和4年度：延べ3,160人参加			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	小学校家庭教育学級は、子育て中の心配事や疑問点について学級講座を通じて学級生同士が情報交換し、仲間づくりをすることによりその悩みや課題を解決する糸口となっている。その他の学級講座等についても、事業等を通じてライフステージごとの悩みを仲間と共有し、その解決策を仲間とともに図り、生涯学習をととした学びが、地域社会の一員としてまちづくりや生きがいの一助となっている。			
課題	公民館だより、市のホームページ等で学級講座生の募集を図っているが、各学級講座とも、学級生の確保が難しくなかなか人数が集まらない。			
	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
【Action】 今後の 方向性 ・内容	地域が抱える課題や社会ニーズに対応する現代的課題を捉えた学習機会を提供できるよう、次代を見据えた学習内容を研究し充実させる。			
令和6年度 事業計画	小学校家庭教育学級 少年少女教室 女性セミナー 高齢者教室 各公民館自主事業（オープン参加）			
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	180	重要事業	総合戦略	担当部署	生涯学習課	生涯学習係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・1	社会教育総務			5,929千円	5,964千円	5,696千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶1_生涯学習理念の普及啓発

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	社会教育委員会議において、本市の社会教育に関する事業を精査し、新たな課題の洗いだしや事業の推進を図るほか、社会教育団体への財政支援をととして、各団体がまちづくりの中核を担えるよう支援をする。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

社会教育委員会議	社会教育委員会議の開催・研修会の参加への啓発を行う。
社会教育功労者表彰	館林市教育委員会の表彰規定により、社会教育功労者の表彰式の開催する。
社会教育主事資格取得講習へ派遣する。	
社会教育団体補助	社会教育4団体への事務局として支援・協力及び補助金の交付を行う。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		社会教育委員会議 社会教育功労者表彰 社会教育主事資格取得 社会教育団体補助・支援	社会教育委員会議 社会教育功労者表彰 社会教育主事資格取得 社会教育団体補助・支援	社会教育委員会議 社会教育功労者表彰 社会教育主事資格取得 社会教育団体補助・支援
事業費		5,964	5,964	5,964
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	5,964	5,964	5,964

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	社会教育委員会議の開催数	2	目標値	2	2	2	2	2
		単位：回	実績値	1	3			
活動指標	社会教育団体補助団体数	4	目標値	4	4	4	4	4
		単位：団体	実績値	4	4			
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	6,020 千円	令和4年度決算額	5,696 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	社会教育委員会議 令和2年度：2回延べ24人 令和3年度：1回延べ11人 令和4年度：3回延べ25人 社会教育功労者表彰 令和2年度：被表彰者個人21・団体2 令和3年度：被表彰者個人7・団体1 令和4年度：被表彰者個人9・団体1 社会教育主事資格取得講習 令和2年度：0人 令和3年度：1人 令和4年度：2人 社会教育団体補助 館林市婦人会連絡協議会：各年180,000円 館林市小中学校PTA連合会：各年200,000円 館林ユネスコ協会：各年30,000円 生涯学習館林市民の会：各年180,000円			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	社会教育行政において取り組むべき課題や果たすべき役割などの方向性を明確にするための協議や計画を定めるために社会教育委員会議を開催し、本市の社会教育の取組の指針となる「社会教育推進計画（令和5年～7年度）」を策定した。社会教育功労者表彰式では、他の見本となる被表彰者への感謝と努力をたたえる場となり、社会教育分野の活動者の励みとなっている。また、社会教育団体の活動を支援することによって、各種団体の活動が多様な社会活動のつながりと学習意欲を高め、生涯学習社会を牽引している。					
課題	社会教育活動団体において、新型コロナウイルス感染症の拡大によって活動ができない状況が長引いたことより、会員の意欲の低下も起因し会員数が減少するなど、活動の継続に影響を及ぼしており、社会参加や学習意欲の回復が課題となっている。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	社会教育委員のほか社会教育関係機関と、館林市第6次総合計画、館林市教育大綱に基づく「社会教育推進計画（令和5年～7年度）」の施策を実施する。 社会教育団体の活動を支援することは、まちづくりの中核を担う指導者や活動に直結しているため、今後も組織活性化のため育成指導に努める。					
令和6年度事業計画	社会教育委員会議等の実施 社会教育功労者表彰式の開催 社会教育主事資格取得講習への派遣 社会教育団体補助					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	※前年度比較		
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	181	重要事業	総合戦略	担当部署	生涯学習課	生涯学習係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・5・1	生涯学習推進事業		1,277千円	1,267千円	1,211千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶1_生涯学習理念の普及啓発

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	生涯学習社会の実現のため、学ぶよろこびや豊かな心を育むまちを目指し、生涯学習意欲の喚起や生涯学習需要にこたえるため、生涯学習情報紙「まなびい」・ふるさとづくり市民フェスティバルを開催し、個人の学びを夢や希望、生きがいを膨らませる成果の場とすることを目的とする。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
ふるさとづくり市民フェスティバル	生涯学習活動をしている個人や団体を対象に多くの人の参加を促し、実行委員会体制で学習したことの成果発表の場、市民交流の場として開催する。
生涯学習情報紙「まなびい」	市民の誰もが、生涯のうちのいつでもどこでも学ぶ機会が得られるよう、学習情報紙を発行し提供する。また学習者が講師となって学びの社会還元ができる体制づくりを構築する。
ふるさとづくり出前講座	広く市民の学習機会に、本市が発信したい情報をメニューとして掲げ、提供、啓発の機会とする。

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	ふるさとづくり市民フェスティバル		ふるさとづくり市民フェスティバル 生涯学習情報紙「まなびい」の発行 ふるさとづくり出前講座	ふるさとづくり市民フェスティバル 生涯学習情報紙「まなびい」の発行 ふるさとづくり出前講座
	生涯学習情報紙「まなびい」の発行			
	ふるさとづくり出前講座			
事業費		1,267	1,267	1,267
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,267	1,267	1,267

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	ふるさとづくり出前講座の回数	198	目標値	198	199	199	200	200
			実績値	95	150			
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	1,265千円	令和4年度決算額	1,211千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	ふるさとづくり市民フェスティバル 令和2年度：中止 令和3年度：中止 令和4年度：延べ4,064人参加 生涯学習情報紙「まなびい」・ふるさとづくり出前講座 令和2年度：80回延べ2,977人 令和3年度：95回延べ4,275人 令和4年度：150回延べ4,308人			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	ふるさとづくり市民フェスティバルは10月に市民のつどいとのお合同開催という形態をとり、3年ぶりに開催することができた。生涯学習情報紙「まなびい」は、予定どおり情報紙の発行ができたほか、学習機会など講座の開設を適時様々な媒体を介し情報提供を行い、市民が学習情報を入手し易くなるよう努めた。ふるさとづくり出前講座においては、公民館や地域で行われる様々な学習機会に、地域や生活の課題解決に役立つ講座を提供したものの、コロナ禍において、講座回数は目標値に届かなかった。					
課題	「ふるさとづくり市民フェスティバル」は、ウィズコロナ時代を見据え、学習成果の発表の場を研究する必要がある。生涯学習情報紙「まなびい」の発行をはじめとする学習情報提供体制の充実においては、新規に学習したいという方へのアプローチを強め、学びたいときに学びたい情報を発信する工夫と内容の充実が必要である。出前講座は、メニューの充実と認知度を高める必要がある。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
令和6年度 事業計画	ふるさとづくり市民フェスティバル 生涯学習情報紙「まなびい」 ふるさとづくり出前講座 両毛広域生涯学習ネットワーク推進					
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	182	重要事業	総合戦略	担当部署	生涯学習課	生涯学習係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・2	社会教育活動促進事業 (市民大学講座)			3,000千円	3,000千円	3,000千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶4_多様化する学習ニーズへの対応と個性に応じた学びの場の創出

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	「市民大学講座」を開催し、各分野で活躍している方々を講師として招き、その経験や知識を通して、現代社会における様々な必要課題への市民の学習意欲を高めることを目的としている。全5回開催。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

市民大学講座の開催	現代的課題や学習ニーズを捉え、高度な学習機会、市民の学習意欲を高める場として、年5回を実行委員会に委託する。
-----------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		市民大学講座の開催	市民大学講座の開催	市民大学講座の開催
	事業費	3,000	3,000	3,000
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	1,500	1,500	1,500
	一般財源	1,500	1,500	1,500

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	参加者延べ人数	1,894	目標値	1,763	1,697	1,631	1,566	1,500
		単位：人	実績値	0	2,350			
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	3,000 千円	令和4年度決算額	3,000 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	市民大学講座 令和2年度：中止 令和3年度：中止 平成4年度：延べ2,350人参加			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	市民大学講座を2年ぶりに5回講座として開催し、600人の申込があり、延べ2,350人が受講することができた。各分野で活躍している著名人を招き、市民が主体的に企画・運営し提供した講座が、学ぶ楽しさや知る喜びを感じ、豊かな人生を過ごすために充実した内容であることにより、地域課題や生活課題の解決に向けた、個人の気づきやきっかけとなり、人づくりの一助となっている。			
課題	市民大学講座の開催にあたっては、市民が実行委員会を組織し、計画・立案・講師選定等を主体的に行っている。今後、事業を継続するにあたり、若年層の参画が必要とされる。また、ウィズコロナ時代に合わせた、学習機会の提供や学習方法を研究する必要がある。			
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	「生きるということ」をテーマに各分野で活躍している著名人を招き開催し、毎年申込者に対する当日出席者の割合は高い数字を示している。今後も、市民の学習ニーズや社会問題を的確にとらえた講座を開催し、参加者の知的欲求を満たす教育活動を推進していく。			
令和6年度 事業計画	市民大学講座（全5回）			
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	183	重要事業	○	総合戦略		担当部署	生涯学習課	生涯学習係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)		
10・5・4	公民館運営			138,873千円	147,804千円	157,757千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶5_生涯学習・社会教育施設の適正な維持更新と機能充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	公民館は、実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、住民の教養の向上、健康の管理、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

公民館活動推進委員会
各公民館において、公民館活動推進委員会を開催し、公民館の運営方針の決定や地域活動の情報交換の場とする。

公民館改修工事【重要事業】
郷谷公民館2階講堂等空調設備改修工事
分福公民館南面外壁改修工事
城沼公民館1階ホール等空調設備改修工事
城沼公民館高圧気中開閉器等取替工事

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	事業費	147,804	150,000	150,000	
	財源	国庫	715	0	0
		県費	0	0	0
		市債	16,900	0	0
		その他	2,077	0	0
一般財源		128,112	150,000	150,000	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	公民館活動推進委員会議の開催	目標値	22	22	22	22	22
		実績値	24	29			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	166,990千円	令和4年度決算額	157,757千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	主な工事 令和2年度：28,365,700円（赤羽公民館講堂空調改修工事ほか） 15,466,220円（コロナ対策工事：トイレ自動水栓化、Wi-Fi設置工事ほか） 令和3年度：27,284,400円（城沼公民館1階ホール等空調設備改修工事ほか） 令和4年度：28,963,000円（六郷公民館エレベーター改修工事ほか）			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	地域コミュニティの拠点として公民館が運営されており、住民の教養の向上、健康の管理、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進が図られている。					
課題	市内11公民館のうち、建築後30年を経過した施設が大半を占める中、利用者の健康や災害時の避難所を担う重要な施設として、利用者の利便性・快適性の確保を考慮した施設管理の推進と機能の充実が必要。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	市内11館の運営に適正な人員を配置しながら、人づくりや地域づくりを担う拠点として、社会情勢等の変化を踏まえ、公民館に求められる役割や機能について、検証していく。 また、地域コミュニティの拠点である公民館は、避難所としての役割もあるため、利用者が安心して安全に利用できるように、「館林市公共施設等総合管理計画」に沿った適正な施設管理の推進と機能の充実に努めていく。					
令和6年度 事業計画	公民館壁面改修工事、調理実習室改修工事ほか					
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	184	重要事業	○	総合戦略		担当部署	生涯学習課	生涯学習係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)		
10・5・4	公民館学級講座開設事業			2,943千円	2,916千円	1,902千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶13_心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまちになる
	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶1_家庭の教育力回復を図る取組
	▶3_課題解決型の学習活動の促進と人材の育成・活用

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	少年少女教室、小学校家庭教育学級、女性セミナー、高齢者教室、各公民館独自のオープン講座等において、社会の課題に対応した多種多様な学級講座をライフステージごとに提供する。そして、それぞれの講座の参加者が学習をとおして仲間を作り、体験し、課題を共有し、解決しながら自己実現を目指す。
令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
公民館学級講座開設事業【重要事業】	
少年少女教室 各公民館担当となる小学校エリアを主軸においた小学生を対象とし、主に体験学習を通して仲間づくり・居場所づくりの場とする。	
小学校家庭教育学級 各公民館が担当する小学校に通う保護者を対象に、家庭教育の向上を目指す講座を開設し、家庭教育の支援や仲間づくりの場とする。	
女性セミナー 各公民館が担当となる地域住民の特に女性を対象とした学級講座を開設し、地域課題の解決や仲間づくりの場とする。	
高齢者教室 各公民館が担当となる地域住民の特に高齢者を対象とした学級講座を開設し、健康づくりや生きがいづくり、仲間づくりの場とする。	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	公民館学級講座開設事業【重】	公民館学級講座開設事業【重】	公民館学級講座開設事業【重】	公民館学級講座開設事業【重】
	・少年少女教室の開催 ・小学校家庭教育学級の開催 ・女性セミナーの開催 ・高齢者教室の開催 ・各種学級講座の開催	・少年少女教室の開催 ・小学校家庭教育学級の開催 ・女性セミナーの開催 ・高齢者教室の開催 ・各種学級講座の開催	・少年少女教室の開催 ・小学校家庭教育学級の開催 ・女性セミナーの開催 ・高齢者教室の開催 ・各種学級講座の開催	・少年少女教室の開催 ・小学校家庭教育学級の開催 ・女性セミナーの開催 ・高齢者教室の開催 ・各種学級講座の開催
事業費		2,916	3,000	3,000
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	2,916	3,000	3,000

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	学級講座数	95	目標値	97	97	98	99	100
		単位：学級	実績値	86	139			
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	2,916千円	令和4年度決算額	1,902千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	少年少女教室 令和2年度：延べ 582人参加 令和3年度：延べ 964人参加 令和4年度：延べ1,846人参加 小学校家庭教育学級 令和2年度：延べ 495人参加 令和3年度：延べ 706人参加 令和4年度：延べ 976人参加 女性セミナー 令和2年度：延べ1,365人参加 令和3年度：延べ1,526人参加 令和4年度：延べ1,835人参加 高齢者教室 令和2年度：延べ1,859人参加 令和3年度：延べ2,027人参加 令和4年度：延べ3,160人参加			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	小学校家庭教育学級は、子育て中の心配事や疑問点について学級講座を通じて学級生同士が情報交換し、仲間づくりをすることによりその悩みや課題を解決する糸口となっている。その他の学級講座等についても、事業等を通じてライフステージごとの悩みを仲間と共有し、その解決策を仲間とともに図り、生涯学習をととした学びが、地域社会の一員としてまちづくりや生きがいの一助となっている。					
課題	公民館だより、市のホームページ等で学級講座生の募集を図っているが、各学級講座とも、学級生の確保が難しくなかなか人数が集まらない。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
令和6年度事業計画	小学校家庭教育学級 少年少女教室 女性セミナー 高齢者教室 各公民館自主事業（オープン参加）					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	185	重要事業	総合戦略	担当部署	生涯学習課	生涯学習係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・4	ふれあい稲作体験事業			520千円	520千円	520千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶4_多様化する学習ニーズへの対応と個性に応じた学びの場の創出

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	農業が盛んな館林市に育つ子どもたちも、普段何気なく主食としている米が、どのように生産されるかを知らない状況にある。このことから、田植えや稲刈り等の米作りを体験し、農家の米作りに対する工夫や努力、そして食文化や自然を学ぶ。併せて親子のふれあいや地域とのふれあいの場とする。中部公民館、大島公民館、三野谷公民館、分福公民館の4館にて実施。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

稲作体験事業

4学級を開設（中部・大島・三野谷・分福）し、事前学習、生育観察、田植え・稲刈り体験、かかし作り、収穫祭、野菜作りをとおして、農業を学ぶ機会のほか、親子や住民の交流の場とする。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	4学級開催		4学級開催	4学級開催
	事業費	520	520	520
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	520	520	520

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	参加者延べ人数	1,318	目標値	1,279	1,259	1,240	1,220	1,200
		単位：人	実績値	1,189	1,185			
		単位：	目標値					
			実績値					
		単位：	目標値					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	520 千円	令和4年度決算額	520 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	4学級 令和2年度：延べ 825人 令和3年度：延べ1,189人 令和4年度：延べ1,185人		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	B		
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	地域ボランティア指導者のもと、田起こしから田植え、稲刈り、脱穀等一連の作業について米作りの事前学習や、米作りの実際の体験を通して、農業を理解することができた。また、収穫祭を実施し、自分で収穫した米を食べるということは、食べ物を育てる大変さを実感すると同時に充実感を学ぶことのできる貴重な体験学習であるため。		
課題	農業体験には、地域の指導者・協力者が必要不可欠であるが、今後、高齢化による指導者不足が予測されるため、新たな運営について研究していく必要がある。		
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)		
	体験を通じて、子どもたちが農業や食物、地域について学ぶ機会を提供すること、地域の人たちが協力して作業することによって世代間交流を深めることを目的として今後も事業を継続する。		
令和6年度事業計画	中部公民館「わんぱく米づくり隊」 大島公民館「おおしまむら★米作りにチャレンジ!!」 三野谷公民館「七小ふれあい稲作体験事業」 分福公民館「分福ふれあい稲作体験教室こめこめクラブ」		
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較		
備考			

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	186	重要事業	総合戦略	担当部署	向井千秋記念子ども科学館 事業係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・10	向井千秋記念子ども科学館運営		99,319千円	84,161千円	86,918千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶1_生涯学習理念の普及啓発
施策の方向	▶2_生涯学習情報提供・相談体制の充実
施策の方向	▶3_課題解決型の学習活動の促進と人材の育成・活用
施策の方向	▶4_多様化する学習ニーズへの対応と個性に応じた学びの場の創出
施策の方向	▶5_生涯学習・社会教育施設の適正な維持更新と機能充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	設備、展示物等の維持管理に努め、適切な施設運営を図る。 常設展示、プラネタリウムの投影、各種講座等を実施し、青少年の科学への興味・関心を高め、豊かな創造性を育む。
令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示(通年) ○プラネタリウム投影(通年) ○各種講座 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間天体観望会(年12回(特別天体観望会含む)) ・サイエンスショー(年24回) ・科学講座(年10回) ・親子いきもの探検隊(年8回) ・公開天文台(年12回) ・理工工作教室(年8回) ・科学クラブ(年10回) ・プログラミング関連講座(年11回)他 	

【事業スケジュール】

(単位：千円)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示(通年) ○プラネタリウム投影(通年) ○各種講座 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間天体観望会(年12回(特別天体観望会含む)) ・公開天文台(年12回) ・サイエンスショー(年24回) ・理工工作教室(年8回) ・科学講座(年10回) ・科学クラブ(年10回) ・親子いきもの探検隊(年8回) ・プログラミング関連講座(年11回)他 	<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示(通年) ○プラネタリウム投影(通年) ○各種講座 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間天体観望会(年12回(特別天体観望会含む)) ・公開天文台(年12回) ・サイエンスショー(年24回) ・理工工作教室(年8回) ・科学講座(年10回) ・科学クラブ(年10回) ・親子いきもの探検隊(年8回) ・プログラミング関連講座(年11回)他 ○プラネタリウムコンピューター更新工事 ※システム更新のため支出増 	<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示(通年) ○プラネタリウム投影(通年) ○各種講座 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間天体観望会(年12回(特別天体観望会含む)) ・公開天文台(年12回) ・サイエンスショー(年24回) ・理工工作教室(年8回) ・科学講座(年10回) ・科学クラブ(年10回) ・親子いきもの探検隊(年8回) ・プログラミング関連講座(年11回)他 ○プラネタリウムプロジェクター更新工事 ※機器更新のため支出増
事業費		84,161	114,961	126,181
財源	国庫	0	0	0
	県費	70	0	0
	市債	0	0	0
	その他	9,123	0	0
	一般財源	74,968	114,961	126,181

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 向井千秋記念子ども科学館利用者数 (入館者)	62,812	目標値	63,875	64,406	64,937	65,469	66,000
	単位：人	実績値	36,583	52,773			
総合計画指標 向井千秋記念子ども科学館利用者数 (観覧者)	25,006	目標値	25,671	26,003	26,335	26,668	27,000
	単位：人	実績値	16,291	24,983			
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	94,101千円	令和4年度決算額	86,918千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	○入館者数	R2: 22,986人	R3: 36,583人	R4: 52,773人
	○プラネタリウム観覧者数	R2: 10,599人	R3: 16,291人	R4: 24,983人
	○使用料収入	R2: 4,757,570円	R3: 8,559,060円	R4: 12,803,570円
	○各種講座			
	・夜間天体観望会	R2: 8回 289人	R3: 7回 274人	R4: 10回 451人
	・公開天文台	R2: 1回 39人	R3: 1回 36人	R4: 8回 357人
	・サイエンスショー	R2: 14回 313人	R3: 13回 354人	R4: 24回 736人
	・理科工作教室	R2: 4回 161人	R3: 3回 173人	R4: 9回 802人
	・科学講座	R2: 3回 66人	R3: 6回 99人	R4: 10回 103人
	・科学クラブ	R2: 24回 509人	R3: 30回 558人	R4: 50回 899人
・親子いきもの探検隊	R2: 6回 93人	R3: 7回 99人	R4: 8回 175人	
・プログラミング関連講座	R2: 6回 81人	R3: 7回 89人	R4: 11回 183人	

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	コロナ禍の影響がまだ残っており、時間の短縮や事業の中止はなかったものの、団体利用はまだ低調気味ではあった。しかし個人利用は回復傾向にあり、複数の事業においてすぐに募集枠が埋まったり、科学講座のアンケートの結果から「また参加したい」との回答が9割を超えたりするなど、参加ニーズや科学への関心が高まり、事業の効果は出ている。
課題	老朽化の進んだ設備や開館当時から展示物もあり、適切な維持管理や更新、見せ方の工夫などを検討する他、話題性のある企画展の開催など、利用者拡大や満足度向上につながる事業展開を図っていく必要がある。また、各種講座においても小中学校の理科教員をはじめ、高校や大学、企業とも連携を密にし、内容の充実や参加者の満足度向上を図り新規講座の開発に努める必要がある。また、講師の不足が危惧されるため、人員の確保やボランティアの活用も進める必要がある。
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
引き続きコストの削減と労力の軽減を図りながら、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しつつ、満足度向上及び利用者拡大を図り、また、関連のある各機関との連携を深め、地域に根差した科学館として事業の拡充を図っていく。	
令和6年度 事業計画	○常設展示(通年) ○プラネタリウム投影(通年) ○各種講座 ・夜間天体観望会(年12回(特別天体観望会含む)) ・サイエンスショー(年24回) ・科学講座(年10回) ・親子いきもの探検隊(年8回) ・公開天文台(年12回) ・理科工作教室(年8回) ・科学クラブ(各コース年10回) ・プログラミング関連講座(年11回)他
予算規模 見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	187	重要事業	総合戦略	担当部署	向井千秋記念子ども科学館 事業係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・10	向井千秋記念子ども科学館施設整備事業			0 千円	7,304 千円	6,248千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶5_生涯学習・社会教育施設の適正な維持更新と機能充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	適切な維持管理に努め、安全安心な利用の確保と施設の長寿命化を図る。
----------------	-----------------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- 西棟外壁調査業務委託料【新】
- 外壁改修工事設計業務委託料【新】
- 非常放送設備改修工事【新】
- 自動火災報知設備更新工事【新】

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		○西棟外壁調査業務委託料【新】 ○外壁改修工事設計業務委託料【新】 ○非常放送設備改修工事【新】 ○自動火災報知設備更新工事【新】	○外壁改修工事監理業務委託料【新】 ○外壁改修工事【新】 ○防火シャッター改修工事【新】 ○プラネタリウムコンピューター室空調改修工事【新】 ○屋上防水改修工事【新】 ○正面入口軒天パネル塗装工事【新】 ※改修工事等の金額未定	○吸収式冷温水機改修設計業務【新】 ○プラネタリウム屋外独立庇改修設計業務【新】 ○4階眺望台改修工事【新】 ※改修工事等の金額未定
事業費		7,304		
財源	国庫	0		
	県費	0		
	市債	1,800		
	その他	0		
	一般財源	5,504		

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 向井千秋記念子ども科学館利用者数 (入館者)	62,812	目標値	63,875	64,406	64,937	65,469	66,000
	単位：人	実績値	36,583	52,773			
総合計画指標 向井千秋記念子ども科学館利用者数 (観覧者)	25,006	目標値	25,671	26,003	26,335	26,668	27,000
	単位：人	実績値	16,291	24,983			
		目標値					
		単位：					
		実績値					
		目標値					
		単位：					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	7,304千円	令和4年度決算額	6,248千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	R2			
	エレベーター改修工事	33,825,000円		
	高圧ケーブル等更新工事	1,364,000円		
	R3			
	なし			
	R4			
	西棟外壁調査業務委託	825,000円		
	外壁外補修設計業務委託	1,463,000円		
	自動火災報知設備及び非常放送設備更新工事	3,960,000円		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	外壁の調査の実施とそれを元にした翌年度以降の工事の設計委託を行った。これにより今後の施設の長寿命化と安全の確保に役立つ。また非常時に来館者の安全を守るため、老朽化していた自動火災報知設備と非常放送の設備を更新した。					
課題	3年をかけて補修工事を行う予定であり、その間休館せずに運営を行い、また来館者の安全を確保する必要がある。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	適切な維持管理に努め、安全安心な利用の確保と施設の長寿命化を図っていく。					
令和6年度 事業計画	外壁等補修工事ほか各種改修工事					
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	188	重要事業		総合戦略		担当部署	向井千秋記念子ども科学館 事業係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・5・10	向井千秋記念子ども科学館特別企画事業			1,000 千円	345 千円	234千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶1_生涯学習理念の普及啓発

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	「はやぶさ2」をはじめとした日本の宇宙探査や生物の多様性に関する企画等を通して、宇宙や自然への興味関心を高めるとともに、プラネタリウムでの星座解説やヒーリングイベントを実施し、プラネタリウムの活用を図る。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<ul style="list-style-type: none"> ○星空生解説「爆笑！星兄プラネタリウムショー」 ○全国科学館連携協議会巡回展 ○生物多様性センターパネル展 ○国立天文台パネル展 ○プラネタリウムヒーリング 	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		○星空生解説「爆笑！ 星兄プラネタリウムショー」 ○全国科学館連携協議会巡回展 ○生物多様性センターパネル展 ○国立天文台パネル展 ○プラネタリウムヒーリング	○全国科学館連携協議会巡回展 ○プラネタリウムヒーリング ○企画展「里沼」 ○宇宙に関する講演会	○市政施行70年・向井千秋宇宙飛行士飛行30周年記念事業 ・向井千秋宇宙飛行士講演会 ほか ○全国科学館連携協議会巡回展 ○プラネタリウムヒーリング
	事業費	345	345	1,000
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	345	345	1,000

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 向井千秋記念子ども科学館利用者数 (入館者)	62,812	目標値	63,875	64,406	64,937	65,469	66,000
	単位：人	実績値	36,583	52,773			
総合計画指標 向井千秋記念子ども科学館利用者数 (観覧者)	25,006	目標値	25,671	26,003	26,335	26,668	27,000
	単位：人	実績値	16,291	24,983			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	345千円	令和4年度決算額	234千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	星空生解説「爆笑！星兄プラネタリウムショー」		180人	
	国立天文台パネル展「宇宙からの光」		2,891人	
	科学館で5・7・5 あなたの一句大募集！		238句	
	クイズラリー		1,182人	
	企画展	R2: 15,228人	R3: 5,876人	R4: 31,379人
巡回展	R2: 38,225人	R3: 34,957人	R4: 13,844人	
講演会	R2: 65人	R3: 155人	R4: —	
プラネタリウムヒーリング	R2: 43人	R3: 111人	R4: 152人	

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D					
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	記念事業などの大きな企画の少ない中、プラネタリウムショーや宇宙に関する巡回展によって周辺地域からの集客に貢献した。また、新たに科学に関する俳句の募集を行い全国から応募があるなど、費用を抑えて知名度の向上を図る事業を展開していった。					
課題	引き続き、話題性・適時性のある事業を企画し、常設展示やプラネタリウム投影を補完し利用者拡大につなげていく必要がある。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	向井千秋氏の宇宙飛行30周年を記念した講演会や、展示物などの拡充の計画と、新たな話題性・適時性のある事業を企画・実施する。					
令和6年度事業計画	向井千秋氏講演会、宇宙や身近な科学をテーマとした企画展等の実施等					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	189	重要事業	○	総合戦略		担当部署	向井千秋記念子ども科学館 事業係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・5・10	向井千秋記念子ども科学館ROCKET事業			3,874 千円	1,308 千円	572千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶12_自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまちになる
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶2_夢と希望の実現に向けた支援の充実
施策の方向	▶4_確かな学力と豊かな心を育む教育の推進
施策の方向	▶1_生涯学習理念の普及啓発
施策の方向	▶4_多様化する学習ニーズへの対応と個性に応じた学びの場の創出

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	東京大学先端科学技術研究センターの助言を基に、現状の教育環境に馴染めずに悩みを抱えている子どもたちへの新しい学びの場を提供し、個性に合った支援を行うことにより、子どもたちのもつ能力を伸ばしたり、隠れた才能を見つけ出したりすることで、自立して生きていく力を養ったりする。 また、ROCKETの学びを活かした「里沼プログラム」を開発・実践し、子どもたちのシビックプライドの醸成、次世代の郷土の担い手の育成をめざす。
令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
○里沼（SATO-NUMA）プログラム ○タブレット等を活用した学習支援 ○ROCKET Lab ○トップランナートーク	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業スケジュール		○里沼（SATO-NUMA）プログラム ○タブレット等を活用した学習支援 ○ROCKET Lab ○トップランナートーク	○里沼（SATO-NUMA）プログラム ○タブレット等を活用した学習支援 ○ROCKET Lab ○トップランナートーク	○里沼（SATO-NUMA）プログラム ○タブレット等を活用した学習支援 ○ROCKET Lab ○トップランナートーク
事業費		1,308	1,308	1,308
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,308	1,308	1,308

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標	向井千秋記念子ども科学館利用者数 (入館者)	62,812	目標値	63,875	64,406	64,937	65,469	66,000
		単位：人	実績値	36,583	52,773			
総合計画指標	向井千秋記念子ども科学館利用者数 (観覧者)	25,006	目標値	25,671	26,003	26,335	26,668	27,000
		単位：人	実績値	16,291	24,983			
			目標値					
			単位：					
			実績値					
			目標値					
			単位：					
			実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	1,308千円	令和4年度決算額	572千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・Submarineﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	R2: 77人 (3回)	R3: 35人 (2回)	R4: —
	・Balloonﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	R2: 24人 (3回)	R3: 50人 (3回)	R4: —
	・茂林寺沼ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	R2: —	R3: —	R4: 43人 (3回)
	・百年小麦ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	R2: —	R3: —	R4: 39人 (3回)
	・ICT等を活用した学習支援	R2: 63人	R3: 83人	R4: 73人
	・ROCKET Lab	R2: 153人 (13回)	R3: 153人 (17回)	R4: 171人 (17回)
	・トップランナートークin館林	R2: 15人	R3: 206人 (2回) (動画配信)	R4: 132人 (オンライン配信)

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	ROCKET Labにおいては、参加者のアンケートから、「ROCKETのなかまや大人たちと話ができるようになってきた」、「自分のできることが見つかった」との回答が多く、事業目的である「自己肯定感や自己有用感を高める」ことがおおむね達成できた。保護者・学校のアンケート結果からは、参加者と同様に活動への肯定的な回答のほか、「様々な人と話をする機会が増えた」という回答が多く、子どもの居場所としての安心感をえられている保護者も多くみられた。また、ICT等を活用した学習支援においては、通級指導教室に在籍となった児童生徒へのアセスメント実施により、読み書きに困難を抱えている児童生徒の個の特性や実態を担当教諭が知ることができ、適切な支援へとつながった。「里沼 (SATO-NUMA) プログラム」においては、館林への興味関心の高まりがみられ、新しい発見・さらなる魅力に気づいた子どもが多く見られた。
課題	学校との連携を図るうえで、参加者の担任だけでなく管理職にも校務支援システム等を用いて情報共有を行ってきたが、まだ本事業への周知が不十分である。また、通常学級での個別支援に関しては、実際の児童生徒の姿から支援方法を考えて実践を行ったため、アセスメントは実施せず、まだ科学的知見に基づいた実践とはなっていない。今後、通級指導教室等に在籍する児童生徒同様、アセスメントの実施とその結果に基づいた活用を図る必要がある。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	東京大学のROCKET事業と連携して行ってきたこれまでの実践を基に、本市の特色を生かしたROCKETプロジェクトの推進を図る。
令和6年度事業計画	・ROCKETの学びを活かした「里沼 (SATO-NUMA) プログラム」の実施 (茂林寺沼プログラム、百年小麦プログラム) ・ROCKETの学びを活かした個別支援の実施 (ICT等を活用した学習支援) ・学校 (相談室) と連携を密にしたROCKET Labの実施 (ROCKET Lab)
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	190	重要事業	総合戦略	担当部署	図書館 奉仕係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・5	図書館運営		37,513 千円	40,920 千円	39,254 千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶1_生涯学習理念の普及啓発
施策の方向	▶2_生涯学習情報提供・相談体制の充実
施策の方向	▶3_課題解決型の学習活動の促進と人材の育成・活用
施策の方向	▶4_多様化する学習ニーズへの対応と個性に応じた学びの場の創出
施策の方向	▶5_生涯学習・社会教育施設の適正な維持更新と機能充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	生涯学習推進の拠点の一つとして、図書館の充実を図り、住民の学習意欲に応えるような諸事業を実施するとともに、円滑な図書館運営のため、老朽化した施設設備の維持管理、電算システムの運用等を実施する。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①図書館サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・図書及び視聴覚資料の貸出業務、読書案内等の情報提供、リクエストサービス等の提供、在宅高齢者等への配本、貸出文庫の提供など、充実した図書館サービスを行う。 ・ボランティアや学習グループを支援する。 ・吸収冷温水機や照明器具の修繕、学習席用の椅子の更新等により適切な施設管理を行う。 ・「館林市図書館個別施設計画」に基づき、給排水設備更新工事調査設計委託を実施する。 ・電話回線の切り替えや機器の更新を行う。【新規】
②行事の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事の開催により住民の学習意欲に応える。 ・ブックスタートをはじめとする子どもが本に親しむ機会を設けることにより、子ども読書活動の推進を図る。
③図書館情報推進	<ul style="list-style-type: none"> ・電算システムの機器の更新を行い、業務の円滑化を図る。
④新型コロナウイルス対応	<ul style="list-style-type: none"> ・消毒等を継続し、新しい生活様式にかなった図書館としていく。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	図書館の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館奉仕・調査相談・相互貸借 ・図書館協議会 ・ボランティアとの協働 ・施設設備の維持管理 ・電話回線をひかり回線へ切替【新】 ・給排水設備更新工事調査設計委託 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の充実 ・図書館奉仕・調査相談・相互貸借 ・図書館協議会 ・ボランティアとの協働 ・施設設備の維持管理 ・給排水設備更新工事 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の充実 ・図書館奉仕・調査相談・相互貸借 ・図書館協議会 ・ボランティアとの協働 ・施設設備の維持管理 ・給排水設備更新工事
	図書館行事推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート ・子どもの読書活動の推進 ・各種イベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館行事推進事業 ・ブックスタート ・子どもの読書活動の推進 ・各種イベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館行事推進事業 ・ブックスタート ・子どもの読書活動の推進 ・各種イベントの開催
	図書館情報事業	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館システムの運用、機器更【新】 ・新型コロナウイルス感染症対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館情報事業 ・図書館システムの運用 ・新型コロナウイルス感染症対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館情報事業 ・図書館システムの運用 ・新型コロナウイルス感染症対応
事業費		40,920	50,000	50,000
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	3,400	0	0
	その他	184	0	0
	一般財源	37,336	50,000	50,000

【関連する指標】

総合計画指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
図書館資料の延べ貸出点数		227,537	目標値	227,858	228,019	228,179	228,340	228,500
		単位：点	実績値	215,510	214,987			

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	40,920 千円	令和4年度決算額	39,254 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・開館日数 令和2年度 253日 令和3年度 278日 令和4年度 279日	・利用登録者数 令和2年度 62,875人 令和3年度 63,258人 令和4年度 63,900人	・利用者数 令和2年度 40,941人 令和3年度 46,796人 令和4年度 46,769人	
	・本館貸出し点数 令和2年度 175,936点 令和3年度 204,430点 令和4年度 200,792点	・全館貸出点数 令和2年度 186,686点 令和3年度 215,510点 令和4年度 214,987点		
	・レファレンス件数 令和2年度 3,228件 令和3年度 2,975件 令和4年度 2,738件	・集会行事参加人数 令和2年度 1,292人 令和3年度 1,656人 令和4年度 2,678人		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D			
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	資料の貸出点数は目標値に達成しなかったが、コロナ禍での集会行事の実施方法を工夫することで、行事の参加人数は昨年度より大幅に増加した。 図書館は生涯学習の推進に不可欠な拠点であるため、図書館運営は不可欠な事業である。			
課題	・住民の知的要求を的確に把握するとともに、専門的なレファレンスに応えるための職員の質の向上。 ・施設の維持管理			
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	新しい生活様式を考慮しながら、「第三次子ども読書活動推進計画」を推進していく。 適切な施設の維持管理につとめ、安全安心な利用の確保と施設の長寿命化を図っていく。			
令和6年度事業計画	図書館の充実 ・図書館奉仕・調査相談・相互貸借 ・図書館協議会 ・ボランティアとの協働 ・施設設備の維持管理 図書館行事推進事業 ・ブックスタート ・子どもの読書活動の推進 ・各種イベントの開催 図書館情報事業 ・図書館システムの運用			
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	191	重要事業	総合戦略	担当部署	図書館 奉仕係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・5	図書館資料整理事業		12,490 千円	13,604 千円	13,202 千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶2_生涯学習情報提供・相談体制の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	住民の多様な学習ニーズに対応できるよう、蔵書の充実を図る。また、郷土資料の適切な保存管理を行い、郷土の文化を後世に伝える。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①図書館資料整理活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料等や法規追録・定期刊行物の購入を行う。 ・郷土資料の収集や所蔵している貴重な郷土資料の修繕により、本市文化を後世に伝える。 ・古文書等の保存のため、書庫内の燻蒸を行う。
--------------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	図書館資料整理活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料等購入 ・法規追録・定期刊行物（新聞・雑誌・官報）の購入 ・郷土資料合本製本 ・貴重図書修繕 ・貴重資料の燻蒸 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料等購入 ・法規追録・定期刊行物（新聞・雑誌・官報）の購入 ・郷土資料合本製本 ・貴重図書修繕 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料等購入 ・法規追録・定期刊行物（新聞・雑誌・官報）の購入 ・郷土資料合本製本 ・貴重図書修繕 ・貴重資料の燻蒸 	
	事業費	13,604	12,490	13,604	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	13,604	12,490	13,604	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 図書館資料の延べ貸出点数	227,537	目標値	227,858	228,019	228,179	228,340	228,500
	単位：点	実績値	215,510	214,987			
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	13,604 千円	令和4年度決算額	13,202 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<ul style="list-style-type: none"> ・図書受入れ冊数 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 6,706冊 令和3年度 5,984冊 令和4年度 6,376冊 ・新聞・雑誌購入点数 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 93点 令和3年度 93点 令和4年度 91点 ・郷土資料製本 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 51冊 令和3年度 43冊 令和4年度 31冊 ・郷土資料のデジタル化（令和2年度より） <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 9点 令和3年度 6点 令和4年度 10点 			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	隔年で実施している書庫内の燻蒸を実施し、貴重資料の保存を図った。図書の購入や郷土資料のデジタル化も行い、資料の充実を図った。図書館の基本である蔵書の充実は、不可欠な事業である。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の様々なニーズに対応できるよう蔵書の充実に努める ・郷土資料の収集整理保存及びその活用
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）
	図書館の基本である蔵書の充実に努めるとともに、除籍等も計画的に実施し、利用しやすい環境を整えていく。また、郷土資料の利用促進のため、群馬県立図書館と連携した資料のデジタル化を進めていく。
令和6年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料等購入 ・法規追録・定期刊行物（新聞・雑誌・官報）の購入 ・郷土資料合本製本 ・貴重図書修繕 ・群馬県立図書館と連携した郷土資料のデジタル化
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	192	重要事業	総合戦略	担当部署	図書館 奉仕係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・5	視聴覚教育振興事業		1,931 千円	1,931 千円	1,893 千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶14_生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまちになる
施策の方向	▶2_生涯学習情報提供・相談体制の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	C DやDVD等の視聴覚資料の充実に努めるとともに、その活用を図る。また、視聴覚教育振興事業のため所蔵している16ミリフィルムや機材の活用を図る。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①視聴覚教育振興事業	・視聴覚資料の購入 ・視聴覚資料の修繕 ・映画会等の開催により活用を図る。
------------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		視聴覚教育振興事業 ・視聴覚資料の購入 ・視聴覚資料の修繕 ・映画会等の開催	視聴覚教育振興事業 ・視聴覚資料の購入 ・視聴覚資料の修繕 ・映画会等の開催	視聴覚教育振興事業 ・視聴覚資料の購入 ・視聴覚資料の修繕 ・映画会等の開催
事業費		1,931	1,931	1,931
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,931	1,931	1,931

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指 標	図書館資料の延べ貸出点数	227,537	目標値	227,858	228,019	228,179	228,340	228,500
		単位：点	実績値	215,510	214,987			
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	1,931 千円	令和4年度決算額	1,893 千円																				
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚資料所蔵数 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和2年度 13,387点</td> <td style="width: 50%;">・視聴覚料利用点数</td> </tr> <tr> <td>令和3年度 13,228点</td> <td>令和2年度 17,145点</td> </tr> <tr> <td>令和4年度 13,400点</td> <td>令和3年度 18,572点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>令和4年度 18,905点</td> </tr> </table> ・映画会参加人数 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和2年度 44回・320人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>令和3年度 30回・247人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>令和4年度 69回・781人</td> <td></td> </tr> </table> ・団体貸出用視聴覚機材等利用点数 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和2年度 93点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>令和3年度 93点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>令和4年度 87点</td> <td></td> </tr> </table> 			令和2年度 13,387点	・視聴覚料利用点数	令和3年度 13,228点	令和2年度 17,145点	令和4年度 13,400点	令和3年度 18,572点		令和4年度 18,905点	令和2年度 44回・320人		令和3年度 30回・247人		令和4年度 69回・781人		令和2年度 93点		令和3年度 93点		令和4年度 87点	
令和2年度 13,387点	・視聴覚料利用点数																						
令和3年度 13,228点	令和2年度 17,145点																						
令和4年度 13,400点	令和3年度 18,572点																						
	令和4年度 18,905点																						
令和2年度 44回・320人																							
令和3年度 30回・247人																							
令和4年度 69回・781人																							
令和2年度 93点																							
令和3年度 93点																							
令和4年度 87点																							

【事業の評価】

【Check】 指標評価	D
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	視聴覚資料（CD、DVD等）の利用は、昨年度より増加した。コロナ禍にあり、映画会は参加人数を限定しながらの実施ではあるが、回数・参加者数とも増加し、参加者からは好評で適切な成果が得られている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに合った資料の購入 ・16ミリ映写機等、視聴覚機材の維持管理
【Action】 今後の方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）
	図書館の基本である資料の充実に努めるとともに、除籍等も計画的に実施し、利用しやすい環境を整えていく。また、団体貸出用の視聴覚機材・視聴覚教材の管理も適切に行っていく。
令和6年度事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚資料の購入 ・視聴覚資料の修繕 ・映画会等の開催
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	193	重要事業	○	総合戦略		担当部署	文化振興課 市史編さんセンター
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
2・1・1	市史編さん事業			22,395 千円	21,404 千円	20,793 千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15 地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶3 郷土の歴史文化を学ぶ機会の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	先人たちが伝え残してきた伝統的な文化遺産やその足跡を知り、市民が郷土に愛着と誇りを持ってまちづくりを行うことができるよう、次世代へ残る『館林市史』を刊行する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

市史編さん事業【重要事業】

1. 市史の刊行

①事業概要：『館林市史』16巻ならびに別巻等を刊行し、市民の郷土学習の基礎資料とする。

②事業内容：

別巻「館林の絵馬（寺社の文化財Ⅰ）」の刊行

2. 市史資料の調査・研究

①事業概要：市内の古文書・寺社・歴史的建造物等を調査し、市史の基礎資料とする。

②事業内容：

- (1) 寺社建築調査
- (2) 仏像・絵馬調査
- (3) 近代建築調査

3. 市史資料の普及・啓発

①事業概要：市史を活用した講座等を開催し、市民への普及・啓発を図る。

②事業内容：

- (1) 市広報紙（市史コラム等）の掲載
- (2) 公民館・各種団体の講座の実施

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	市史編さん事業【重】	市史編さん事業【重】	市史編さん事業【重】	市史編さん事業【重】
	1. 市史の刊行	1. 市史の刊行	1. 市史の刊行	1. 市史の刊行
	○別巻「館林の絵馬（寺社の文化財Ⅰ）」の刊行	○市制施行70周年記念誌の編集・印刷（令和6年度に刊行・配布）	○市制施行70周年記念誌の配布（令和5年度に編集・印刷）	○市制施行70周年記念誌の配布（令和5年度に編集・印刷）
	2. 市史資料の調査・研究	2. 市史資料の調査・研究	2. 市史資料の調査・研究	2. 市史資料の調査・研究
	3. 市史資料の普及・啓発	3. 市史資料の普及・啓発	3. 市史資料の普及・啓発	3. 市史資料の普及・啓発
事業費		21,404	22,577	21,000
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	1,503	1,503	1,503
	一般財源	19,901	21,074	19,497

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	21,414千円	令和4年度決算額	20,793千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■『館林市史』の刊行 ・令和2年度：別巻「館林の寺社と史料」 ・令和3年度：特別編第7巻「館林の文化と芸術」 別巻「館林の里沼」 教材版「ぼんちやんと学ぼう館林の歴史」（再版） 市史20周年記念「ぼんちゃん歴史クイズ」 ・令和4年度：別巻「館林の絵馬（寺社の文化財Ⅰ）」 「徳川四天王榊原康政公ゆかり館林まちあるきマップ」			

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	市史編さん事業は平成13年度に市史編さん委員会（市長が会長）が発足し、基本計画を策定して『館林市史』全16巻ならびに別巻等の刊行が明記されている。『館林市史』は市民の共有財産である歴史・文化遺産を次世代へ残すとともに、館林のまちづくりを行うための政策を導くための基本となるものである。					
課題	平成13年度に発足した市史編さん事業は、令和3年度までに市史の16巻や別巻等を刊行してきた。しかし、20年にわたる編さん事業により本編にまとめきれない内容が増加し、5年度以降も別巻（『館林の寺社建築』『館林の仏像』など）を編集している。また、令和6年度に市制施行70周年を迎えることから、それに向けた記念誌作成の準備を行う必要がある（編さん委員会は70周年を目途に解散予定）。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	刊行計画に基づき市史の刊行を行うとともに、20年にわたる事業のなかで蓄積された歴史資料の管理・活用体制を整え、将来的に公開できるようにし、市内外に向けて市史の成果を公的に活用できるようにする。各種講座や展示、学校教育等との連携も強め、市史の内容を広く普及し、館林市の歴史に多くの市民が誇りをもてるようにし、シビックプライドを醸成する。					
令和6年度事業計画	館林市史別巻『館林の寺社建築』・市史研究『おはらき』などの冊子を編集・発行するとともに、令和6年度の市制施行70周年に向けた記念誌の配布および頒布を行う。					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	194	重要事業	○	総合戦略	○	担当部署	文化振興課	日本遺産推進係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)		
2・1・1	日本遺産推進事業			31,032千円	17,286千円	16,300千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち ▶Ⅳ_都市と自然が調和し人と産業が躍動する魅力あるまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りを持ち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる ▶21_多くの人から愛される活力と魅力あふれるまちになる
施策の方向	▶6_日本遺産を活用した地域の魅力発信や環境整備 ▶1_観光資源の創出と活用

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	本市に存在する文化・歴史と観光・産業等を融合させ、令和元年度文化庁日本遺産に認定された「里沼(SATO- NUMA)」を地域活性化や外国人インバウンド等の向上につなげる。「里沼」ストーリーと地域に点在する構成文化財のもつ価値・意義を市民に伝えることにより、シビックプライド醸成による地域活性化、観光・インバウンド増加による経済効果を目的とする。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

1. 日本遺産推進事業【重要事業】

①事業概要：「日本遺産」認定後の推進組織の運営及び、地域活性化計画に位置付けられた各種事業の展開を推進する。歴史や文化財と、本市に存在する観光や産業などを融合させ、郷土愛(シビックプライド)の醸成による地域振興や国内外からの来訪者による交流人口、定住者を含めた関係人口の増加を目指す。

②事業内容：

- (1)「里沼」の調査・研究・普及・啓発 →(A)調査・研究事業の実施 (B)普及・啓発事業の実施
(C)先進地事例の視察、外部研修会等への参加 (D)展示会・PRイベント等の開催
(2)里沼シティプロモーション →(A)群馬ダイヤモンドベガサス連携事業 (B)インターネットを活用した情報発信

2. 「里沼」体感！ワークショップ事業

①事業概要：「里沼」を活かしたワークショップを具体的に展開し、本市の魅力向上やコト消費の充実につなげる。

②事業内容：

- (1)「里沼」題材の各種ワークショップの開催 →(A)地域プレイヤーと連携したワークショップ実施
(2)里沼カヌー・カヤック講座の開催 →(A)(B)里沼カヌー・カヤック講座・体験会実施
(C)城沼水面利用ルール策定・届出制度運用
(3)体験型プログラム創出を目的とした調査・検討 →(A)新ワークショッププログラム創出のための検討

3. 日本遺産推進協議会等支援事業

①事業概要：日本遺産推進事業と同じ

②事業内容：

- (1)館林市「日本遺産」推進協議会事務局 →(A)館林市「日本遺産」推進協議会の運営 (B)協議会事業の執行
(C)又マベーション連絡協議会の運営 (D)推進協議会補助金・貸付金の管理
(2)経済部局と連携した協議会事業の実施 →(A)日本遺産及び「里沼」ロゴ許認可事務
(B)庁内タスクフォース会議への参加と関係課調整

【事業スケジュール】

(単位：千円)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	日本遺産推進事業【重】 ・「里沼」の調査・研究・普及・啓発 「里沼」体感！ワークショップ事業 ・「里沼」題材の各種WSの開催 ・里沼カヌー・カヤック講座の開催 ・体験型プログラム創出を目的とした調査・検討 日本遺産推進協議会等支援事業 ・館林市「日本遺産」推進協議会事務局 ・経済部局と連携した協議会事業の実施		日本遺産推進事業【重】 ・「里沼」の調査・研究・普及・啓発 「里沼」体感！ワークショップ事業 ・「里沼」題材の各種WSの開催 ・里沼カヌー・カヤック講座の開催 ・体験型プログラム創出を目的とした調査・検討 日本遺産推進協議会等支援事業 ・館林市「日本遺産」推進協議会事務局 ・経済部局と連携した協議会事業の実施	日本遺産推進事業【重】 ・「里沼」の調査・研究・普及・啓発 「里沼」体感！ワークショップ事業 ・「里沼」題材の各種WSの開催 ・里沼カヌー・カヤック講座の開催 ・体験型プログラム創出を目的とした調査・検討 日本遺産推進協議会等支援事業 ・館林市「日本遺産」推進協議会事務局 ・経済部局と連携した協議会事業の実施
	事業費	17,286	20,000	20,000
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	6,672	0	0
	一般財源	10,614	20,000	20,000

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	小・中学生における日本遺産「里沼」の認知度	0	目標値	63.0	66.0	68.0	70.0	73.0
		単位：%	実績値	61.6	87.3			
活動指標	日本遺産「里沼」関連で開発された商品・サービス数	0	目標値	20	25	28	30	32
		単位：件	実績値	34	38			
活動指標	日本遺産への協力件数(市民・ガイド団体+民間事業者等)	8	目標値	25	30	32	33	35
		単位：件	実績値	735	765			
活動指標	観光客入込み数	150	目標値	189	196	200	200	200
		単位：万人	実績値	50	105			

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	17,286千円	令和4年度決算額	16,300千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<p>【平成31年・令和元年度】5月20日「日本遺産」認定。6月27日館林市「日本遺産」推進協議会を設立。補助金交付決定後、6分野17事業実施。[商工課・つつじのまち観光課・文化振興課]庁内調整会議16回、国県との協議10回、日本遺産「里沼」を普及啓発するためのシンポジウムをはじめとする啓発活動38回、里沼を体感するためのWS活動11回実施。</p> <p>【令和2年度】新型コロナウイルスの影響により上半期は事業実施が困難であるものの、7月27日第2回館林市「日本遺産」推進協議会、11月に館林市ヌマベーション連絡協議会を開催。文化庁補助金を活用し、人材育成・普及啓発・調査研究・情報発信・活用整備分野における各種事業を展開した。</p> <p>【令和3年度】文化振興課に日本遺産推進係を新設し、企画課が担っていた推進協議会事務局事業を統合。引続き新型コロナウイルスの影響により大規模なイベント・PR活動等は開催できなかったが、市単事業及び推進協議会事業を中心に人材育成、普及啓発、調査研究、情報発信、活用整備の各分野での事業を展開した。特に新規事業として、里沼カヌー・カヤック講座や市内小・中学校の総合学習と連携した普及によるシビックプライド醸成に取り組んだ。</p> <p>【令和4年度】今年度より国庫補助がなくなり、市からの補助金1,300千円を得て日本遺産推進協議会を運営した。新型コロナウイルス感染防止措置を講じつつ、市単事業及び推進協議会事業を中心に人材育成、普及啓発、調査研究、情報発信、活用整備の各分野での事業を展開した。前年度に引き続き、里沼カヌー・カヤック講座や市内小・中学校の総合学習と連携した普及によるシビックプライド醸成などを行うほか、「AR里沼」スタンプラリーや、近県の日本遺産認定地3か所の取り組み事例を紹介する「里沼セミナー」を開催した。里沼セミナーでは、プレイヤーの発掘や活動支援、事業推進のための予算(推進協議会の原資等)の確保についての事例を学ぶことができ、参加者からも好評を得た。</p>		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	日本遺産推進事業は、第6次総合計画において重要事業に位置しており、日本遺産「里沼」認定を通して、本市の文化・歴史を観光・産業と結びつけることで、地域振興へと繋げることができる。また、地元住民が自分たちの地域の魅力を再認識することで、地域活性化や魅力あるまちづくりへの気運の醸成を図ることができる。			
課題	(1) 地域活性化を進めるにあたり、事業推進に適した体制づくり・人材確保が必要。 (2) 各種事業展開に向けた庁内における高いレベルでの共通認識(庁内連携)。 (3) 地域で活躍するプレイヤーの発掘・選定・活動支援。 (4) 地域住民が館林市の魅力を再認識できるような機会(普及活動・連携事業)の提供。 (5) 円滑に事業推進できるための予算(推進協議会の原資等)及び人員確保。			
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止) <input checked="" type="checkbox"/> 文化庁は、令和3年度に日本遺産再審査制度を導入した。認定6年間経過後のストーリー浸透や各種事業展開の継続性、事業推進体制の「自走」など、地域活性化の度合いを検証し、取組みが不十分な場合は「認定取消し」措置が行われる。 <input checked="" type="checkbox"/> 本市においては(A)活動者の「自走」(＝行政の資金投入はあるものの、組織運営や事業実施自体はプレイヤーを統括できる人材が担っている状態)と、(B)資金面での「自走」(＝推進体制が将来的に法人化・会社化し、独立採算(一部行政からの資金援助)での組織運営、事業実施ができていない状態)と段階的に区分し、(A)の成果が出つつある状況。令和4～6年度で早期に(A)活動者の「自走」を実現し、段階的に(B)資金面での「自走」への移行に向けた検討に着手したい。 <input checked="" type="checkbox"/> 本市においては日本遺産「里沼」に対して①シビックプライド醸成、②ブランディングを主眼として取り組んできたが、収益化が難しく且つ地道な普及活動が鍵を握る①については、引き続き館林市が主体となって普及啓発や人材育成、調査研究分野における下支えを行う必要がある。一方で情報発信や活用整備に関する②は、民間事業者や民間活動者の巻き込みが重要であることから、民間の動きと密接に連動させ、日本遺産「里沼」の推進を図っていくことが重要。			
令和6年度 事業計画	<input checked="" type="checkbox"/> 地域活性化計画に位置付けた16事業(令和元～3年度)→10事業(*統合集約：令和4年度～)を引き続き実施しながら、活動指標に掲げた4つのKPIの達成に向けて取り組んでいく。			
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	195	重要事業	○	総合戦略		担当部署	文化振興課	文化財係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)		
10・5・6	文化財保護管理			17,196千円	33,865千円	32,723千円		

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶5_文化財の保護・継承環境の整備

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	先人の残した文化遺産を後世に伝えるため、文化財の保存活用や文化財管理施設の管理を適切に行う。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

1 文化財保護管理【重要事業】	<ul style="list-style-type: none"> ①文化財の適切な保存と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・市指定重要文化財「旧館林藩士住宅」屋根葺替工事【新規】 ・史跡等の樹木管理、物置小屋更新 ②文化財保存活用地域計画作成 <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の継承支援や指定制度などについて研究する。 ・歴史文化を学びや観光・まちづくりなどに活用する。
2 茂林寺沼及び低地湿原保護管理【重要事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・湿原の保護保全（葦刈等） ・モニタリング調査 ・自然学習会での普及活動 ・市民との協働による調査や保護活動

（単位：千円）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業スケジュール	1 文化財保護管理【重】 <ul style="list-style-type: none"> ①文化財の適切な保存と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・史跡等の樹木管理等 ・旧館林藩士住宅屋根葺替【新】 ②文化財保存活用地域計画作成 2 茂林寺沼湿原保護管理【重】 <ul style="list-style-type: none"> ・湿原の保護保全（葦刈等） ・モニタリング調査 ・自然学習会での普及活動 ・市民と協働した調査や保護活動 	1 文化財保護管理【重】 <ul style="list-style-type: none"> ①文化財の適切な保存と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・史跡等の樹木管理等 ②文化財保存活用地域計画作成 2 茂林寺沼湿原保護管理【重】 <ul style="list-style-type: none"> ・湿原の保護保全（葦刈等） ・モニタリング調査 ・自然学習会での普及活動 ・市民と協働した調査や保護活動 	1 文化財保護管理【重】 <ul style="list-style-type: none"> ①文化財の適切な保存と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・史跡等の樹木管理等 ②文化財保存活用地域計画作成 2 茂林寺沼湿原保護管理【重】 <ul style="list-style-type: none"> ・湿原の保護保全（葦刈等） ・モニタリング調査 ・自然学習会での普及活動 ・市民と協働した調査や保護活動 	
事業費	33,865	18,000	17,500	
財源	国庫	170	170	500
	県費	419	419	419
	市債	0	0	0
	その他	16,001	1	1
	一般財源	17,275	17,410	16,580

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 文化活動の充実度に満足している市民の割合	30.5	目標値	-	-	34.5	-	36.5
	単位：%	実績値	-	-		-	
総合戦略KPI 歴史文化施設における市民一人当たりの年間利用回数	0.3	目標値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
	単位：回	実績値	0.266	0.324			
活動指標 文化財巡検における標柱・説明板等の異状発見の割合	30	目標値	30	30	30	30	30
	単位：%	実績値	50	50			
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	33,865千円	令和4年度決算額	32,723千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	1 文化財保護管理【重】 (1)文化財保護審議会の運営〔令和2年度＝2回、3年度＝1回、4年度＝1回〕 (2)文化財の維持管理（館林城跡・本丸土塁等の樹木剪定・除草）〔令和2～4年度＝年2回〕 (3)文化財標柱及び説明板の維持管理・更新〔令和2年度＝4基、3年度＝1基、4年度＝4基〕 (4)指定文化財等の補修工事 ・旧館林二業見番組合事務所の補修、ライトアップ工事〔令和2年度〕 ・「旧館林藩士住宅」シート張り工事〔令和3年度〕 ・「旧館林藩士住宅」屋根葺替工事、外壁等改修工事〔令和4年度〕 (5)文化財保存活用地域計画の作成〔令和2～令和6年度〕 2 茂林寺沼湿原保全のための各種事業 (1)茂林寺沼湿原保護保全専門委員会の運営〔令和2年度＝中止、3年度＝1回、4年度＝2回〕 (2)茂林寺沼湿原の維持管理〔令和2～4年度〕 ・環境保全関連 水位測定、外来種駆除、カキツバタ栽培、見本園整備、モニタリング調査 ・施設等保全関連 木道工事、ヨシ刈工事、除草・雑木伐採委託、井戸洗浄業務委託 ・普及啓発関連 自然学習会(植物・昆虫)の実施(年3回)、市民協働調査(地域住民・大泉高校等参加)			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	本市の歴史文化資源を保存する事業は高コストながらも、地域住民のシビックプライド醸成にとって不可欠である。またそれぞれの事業が各種メディア等で取り上げられることにより、本市のPRや魅力度向上につながるとともに、地域住民には文化財愛護意識や郷土愛が着実に培われている。					
課題	令和4年度に「旧館林藩士住宅」の茅葺屋根改修工事を行ったが、「田山花袋旧居」全面改修工事、館林城土橋門の塗装工事などを順次進める必要がある。また、茂林寺沼湿原に関しては水量低下、水質悪化の問題が生じており、湿原維持に向けて井戸ポンプ増設、水質浄化ナノバブル装置導入、中央園路を含めた木道・観賞デッキ全面改修、民間活力を活用した維持管理コスト低減などを検討することが急務である。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	①文化財保存活用地域計画作成による文化財保全方針の策定・周知・実行 ②個別文化財の保存活用方針と中・長期的整備計画の作成(カルテ化) ③日本遺産関連補助メニューを活用した「田山花袋旧居」及び館林城土橋門改修工事の実施 ④環境省関連補助メニュー等を活用した茂林寺沼湿原における水質改善・水位上昇を目的とした新事業の展開					
令和6年度事業計画	1 文化財保護管理【重】 ①文化財保護審議会の運営〔年2回〕 ②館林城跡・本丸土塁等の樹木剪定・除草〔年2回〕 ③文化財標柱及び説明板の維持管理・更新〔3基〕 ④指定文化財等の補修工事〔田山花袋旧居改修工事〕 ⑤文化財保存活用地域計画の作成完了 2 茂林寺沼湿原保全のための各種事業 ①茂林寺沼湿原保護保全専門委員会の運営〔年2回〕 ②茂林寺沼湿原の維持管理〔令和2～4年度〕 ・例年実施している環境保全関連、施設等保全関連、普及啓発関連事業の継続 ・井戸ポンプ増設、水質浄化ナノバブル装置の導入					
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	196	重要事業	総合戦略	担当部署	文化振興課	文化財係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・5・6	資料館運営		9,442千円	10,460千円	9,658千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15 地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶3 郷土の歴史文化を学ぶ機会の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	市民が館林の歴史や文化に誇りを持てるよう、郷土資料の収集保管、調査研究、展示・普及活動を行い、学びの充実を図る。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

【施設管理】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一資料館、第二資料館の維持管理 ・ 収蔵資料の保存や来場者の利用に適した施設や設備の整備
【資料収集・調査研究】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寄贈や購入による資料の受入及び整理 ・ 収蔵資料の調査と研究を進め、その価値を把握する。
【資料保存管理】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵資料の適切な管理や修繕を実施する。
【展示普及活動（展示以外）】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示の解説案内や出前講座の実施 ・ 学校教育や生涯学習事業との連携や普及活動を通じた、市民の学びの充実を図る。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	【施設管理】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一・第二資料館の日常管理 ・ 第二資料館樹木剪定 ・ 施設設備修繕 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一・第二資料館の日常管理 ・ 第二資料館樹木剪定 ・ 施設設備修繕 ・ 第一空調設備改修調査業務委託 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一・第二資料館の日常管理 ・ 第二資料館樹木剪定
	【資料収集】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料収集 ・ 資料購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料収集 ・ 資料購入
	【資料保存管理】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料修繕 ・ 第一資料館燻蒸（隔年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料保存管理 ・ 資料修繕 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料保存管理 ・ 資料修繕 ・ 第一資料館燻蒸（隔年）
	事業費	10,460	10,871	12,000
	財源			
	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	55	55	55
	一般財源	10,405	10,816	11,945

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 文化活動の充実度に満足している市民の割合	30.5	目標値	-	-	34.5	-	36.5
	単位：%	実績値	-	-		-	
総合戦略 KPI 歴史文化施設における市民一人当たりの年間利用回数	0.3	目標値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
	単位：回	実績値	0.266	0.324			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	10,460千円	令和4年度決算額	9,658千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	1 施設利用者数 ・令和2年度：第一資料館=4,329人、第二資料館=5,071人 *コロナのため4/17~5/25休館 令和3年度：第一資料館=5,764人、第二資料館=7,687人 令和4年度：第一資料館=7,684人、第二資料館=9,097人 2 施設管理 (1) 日常管理 清掃・機械警備〔令和2～4年度〕 (2) 施設維持管理 第二資料館の樹木剪定、屋根雨樋清掃〔令和2～4年度〕 旧上毛モスリン事務所窓修繕 等〔令和3年度〕 3 資料収集 (1) 資料収集 郷土資料の購入〔令和2年度=12点、3年度=1点、4年度=2点〕 4 資料保存管理 (1) 資料保存管理 収蔵資料の修復〔令和2年度=1点、3年度=3点、4年度=1点〕 第一資料館燻蒸〔隔年実施：令和2・4年度〕			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	資料館には、館林の歴史文化を象徴する1万点以上の資料が収集・保管されており、その中には、最後の館林城主・秋元家の旧蔵資料(秋元家コレクション)や、館林城に関する資料なども多数含まれている。今後もこれらを適切に保管するとともに、公開・活用しながら後世に引継いでいく責務がある。令和元年度途中から新型コロナウイルスの影響により施設利用者数が激減したが、令和3・4年度以降では着実に挽回できている。
課題	第一資料館は、1978年開館から50年が経過し、施設老朽化と収蔵庫不足の解消、来館者利便性の向上とバリアフリー化が喫緊の課題である。第一資料館は施設本体・展示設備の老朽化だけでなく、1・2階の収蔵庫が既にキャパシティをオーバーしており、資料保全が不能に陥っている。また発掘調査出土品や民具などは資料保存庫(旧保健所・旧職業訓練校)で保管しているが、建物の老朽化等で適切な管理ができていない。市史編さん事業によって本市ゆかりの資料の掘起しが行われたことにより資料寄贈・寄託の要望も急増しているが、収蔵庫がないため温湿度管理や防犯に優れた収蔵庫の確保が急務である。第一資料館は2階展示室へのエレベーターがなく、第二資料館も敷地内は砂利敷きのため車イス・ベビーカー乗入れが困難であり、旧上毛モスリン2階展示室へのエレベーターもなくユニバーサル化が実現できていない。
	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
【Action】 今後の方向性・内容	①ソフト事業(展示・普及活動)の充実により、資料館を通じてシビックプライド醸成や学習機会強化に取り組む。 ②資料所有者・研究者・機関等との連携強化を図り、収蔵資料の調査研究の深化と館の存在度を高める。 ③施設・設備の大規模改修、収蔵庫の確保・整備について検討を進める。(公共施設集約・経営合理化の観点から、資料館のみならず田山花袋記念文学館までを含めた再編(仮称)総合博物館建設)を含めて)
令和6年度事業計画	1 施設管理 ① 日常管理 清掃・機械警備 ② 施設維持管理 第二資料館の樹木剪定、屋根雨樋清掃 等 2 資料収集 ① 資料収集 郷土資料の購入 3 資料保存管理 ① 資料保存管理 収蔵資料の修復、第一資料館燻蒸 ② (仮称)総合博物館建設の検討・研究
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	197	重要事業	総合戦略	担当部署	文化振興課 文化財係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・6	文化財調査事業		3,797千円	3,797千円	2,599千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶5_文化財の保護・継承環境の整備

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	文化財を後世に伝えるため、調査と研究を進め、その価値を把握し、記録する。
----------------	--------------------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

1 文化財調査	市内遺跡発掘調査（国庫補助事業） 埋蔵文化財包蔵地に該当する各種開発行為に先行して、緊急発掘調査を実施する。 遺構等の図面や写真による記録保存、出土遺物の整理、発掘調査報告書の刊行
2 歴史的遺産保存調査	市内に残る歴史的遺産に関する調査を実施

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		1 文化財調査 ・市内遺跡発掘調査（国庫補助事業） 2 歴史的遺産保存調査	1 文化財調査 ・市内遺跡発掘調査（国庫補助事業） 2 歴史的遺産保存調査	1 文化財調査 ・市内遺跡発掘調査（国庫補助事業） 2 歴史的遺産保存調査
事業費		3,797	3,797	3,797
財源	国庫	1,000	1,000	1,000
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	6	6	6
	一般財源	2,791	2,791	2,791

【関連する指標】

活動指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
	発掘調査の件数	8	目標値	8	8	7	7	6
		単位：地点	実績値	5	4			
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	3,797千円	令和4年度決算額	2,599千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	1 文化財調査 (1)埋蔵文化財発掘調査(国庫補助事業) ・文化財保護法93条届出処理〔令和2年度：89件、3年度：123件、4年度：128件〕 ・埋蔵文化財包蔵地における各種開発行為に先立つ緊急発掘調査(試掘確認調査)の実施 〔令和2年度：5遺跡+区域外1、3年度：5遺跡、4年度：4遺跡〕 (2)遺物整理作業・発掘調査報告書刊行 ・遺物整理作業〔通年・随時〕 ・発掘調査報告書刊行〔令和2年度1冊、3年度：1冊、4年度：1冊〕 2 歴史的遺産保存調査 (1)市内に残る歴史的遺産関連調査の実施 ・近代化遺産調査、仏像調査〔令和3年度〕			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	埋蔵文化財調査は文化財保護法等で規定されている事業であり、事業実施が義務付けられている。よって事業継続によって適切な文化財の保護を図ることが重要である。また、未指定文化財調査を積極的に実施し、適切な価値づけを行うことにより、本市の歴史文化資源の適切な保存・活用を図る必要がある。
課題	現在、本市の文化財調査は市史編さん事業に負うところが大きい。令和7年度に予定されている市史編さん事業終了後は、文化財係が主体となってその事業を引き継ぐこととなる。少子高齢化等、急速な社会経済状況の変化の中で、文化財や歴史文化資源が喪失する危険性は極めて高く、調査を実施しながら価値づけを行うとともに、保存・活用を図りながら、地域住民のシビックプライド醸成を図る必要がある。この状況を下支えするために、埋蔵文化財や古文書・美術品などの調査に精通した職員の育成が必要である。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止) ①埋蔵文化財発掘調査、未指定文化財調査の実施を継続し、最低限の文化財行政レベルを維持する。 ②館林市文化財保存活用地域計画作成と合わせ、文化財リストの作成・公開を図る。 ③各種調査結果・未指定文化財リストをベースとした、新指定及び登録文化財候補物件の選定。
令和6年度事業計画	1 文化財調査 ①埋蔵文化財発掘調査(国庫補助事業) ・文化財保護法93条届出・94条通知処理 ・埋蔵文化財包蔵地における各種開発行為に先立つ緊急発掘調査(試掘確認調査)の実施 ②遺物整理作業・発掘調査報告書刊行 ・遺物整理作業 ・発掘調査報告書刊行 2 歴史的遺産保存調査 ①市内に残る歴史的遺産関連調査の実施 ・「内陸古砂丘」の国登録有形文化財(天然記念物)登録に向けた4市町合同調査〔令和6年度〕(国庫補助事業)
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較 2 (1)総事業費4,000,000円(見込) * 補助率1/2 裏負担分を4市町で均等配分
備考	令和5年度財源(国庫)：当初計画1,000千円 → 交付決定500千円

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	198	重要事業	総合戦略	担当部署	文化振興課 文化財係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・6	文化財普及事業		1,804 千円	1,320千円	1,470千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りを持ち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶3_郷土の歴史文化を学ぶ機会の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	誰でも本市の文化財やその価値について知り理解できるよう、市民が文化財に親しむ機会の充実を図る。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

1	文化財教室等の開催 歴史講演会、 文化財見学会（「旧館林藩士住宅」茅葺屋根葺替工事現場見学会等）の開催
2	（資料館）特別展の開催 収蔵資料展：春・夏・冬 特別展：秋

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	1	文化財教室等の開催	1 文化財教室等の開催	1 文化財教室等の開催
	2	（資料館）特別展の開催	2 文化財普及図書の刊行	2 文化財普及図書の刊行
			3 （資料館）特別展の開催	3 （資料館）特別展の開催 市制70周年記念特別展
	事業費	1,320	1,700	1,800
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	500	500	500
	一般財源	820	1,200	1,300

【関連する指標】

活動指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
活動指標	特別展等の見学者の満足度（来館者へのアンケート結果より）	50	目標値	50	50	50	50	50
		単位：%	実績値	93	97.8			
活動指標	市民による文化財活用イベント（文化財ルネッサンス事業）の実施回数	14	目標値	14	14	14	14	14
		単位：回	実績値	13	4			
活動指標	講座等の受講者の満足度（参加者へのアンケート結果より）	50	目標値	50	50	50	50	50
		単位：%	実績値	80	92			
総合計画指標	文化活動の充実度に満足している市民の割合	30.5	目標値	-	-	34.5	-	36.5
		単位：%	実績値	-	-		-	

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	1,320千円	令和4年度決算額	1,470千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	1 文化財教室等の開催 ・〔令和2年度〕講演会「未来に伝えよう 館林の歴史と文化」参加者40人 ・〔令和3年度〕田山花袋生誕150年記念講座(3回) 参加者合計79人 ・〔令和4年度〕 第一資料館特別展関連講座 ①古文書解読講座 参加者37人、②「日光脇往還を歩こう」参加者14人 ・田山花袋記念文学館講座 ①書簡解読ワークショップ「藤村の手紙を読もう!」(6回) 受講者合計17人 ②講演会「恋愛学で読みとく田山花袋『蒲団』」参加者200人 2 普及図書の刊行 ・〔令和2年度〕「館林市の文化財」 ・〔令和3年度〕「たてばやしと鉱毒事件」(増刷) ・〔令和4年度〕資料館特別展図録「徳川ゆかりの地—日光脇往還をゆく—」、館林市立資料館年報13 3 資料館特別展の開催(主なもの) ・〔令和2年度〕戦後75年記念企画展「戦時下の人々」来館者1,091人 特別展「水と生きる—利水と治水の歴史—」来場者892人 ・〔令和3年度〕日本遺産追加認定記念企画展「沼辺のたから」来場者1,379人 藤牧義夫生誕110年記念特別展「藤牧義夫と館林」来場者1,348人 ・〔令和4年度〕収蔵資料展「モノが語る古墳時代」来場者1,608人 特別展「徳川ゆかりの道—日光脇往還をゆく—」来場者1,854人			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	第六次総合計画でも「施策の方向」の中で「郷土の歴史文化を学ぶ機会の充実」として位置付けられている。毎年文化財教室(講座・ワークショップ等)や普及図書刊行、資料館特別展など各種事業を実施しており、一定の参加者・来場者を獲得できている。よって今後も当該事業を積極的に展開し、市民の学びを支援していくことが重要である。					
課題	各種事業を実施し、「歴史文化を学ぶ機会の充実」のための学習素材の提供体制は整えられつつある。しかしながらこれらの事業は市・市教育委員会主催が中心であり、地域住民を含む民間側での自主的な学びの機会形成や、将来的な文化財保存活用を担う人材育成までには至っていない。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	市内の各小・中学校では総合的な学習の時間やコミュニティスクール等により、地域性を活かした学習プログラムが導入されている。学習対象としては歴史・文化財が採用されやすいことから、文化振興課としても学校教育との連携を強化していくことが重要である。また公民館講座との連携だけでなく、文化財を活用した「文化財ルネッサンス事業」への支援等を通じて、シビックプライド醸成を図っていく。さらに、地域住民や民間事業者・活動者が文化財の保存・活用に参画することの意義を積極的に周知する一方で、これらの方々が各種愛護活動に気軽に参画できるシステムの構築を進め、歴史文化を活かしたまちづくり、まちづくり人材の育成を図っていく。					
令和6年度事業計画	1 文化財教室等の開催 2 普及図書の刊行 3 資料館特別展の開催					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	199	重要事業	総合戦略	担当部署	文化振興課 芸術文化係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・6	芸術文化活動の推進			12,304千円	12,252千円	9,081千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15 地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りを持ち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶2 芸術文化活動の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	優れた芸術を鑑賞する機会を充実させるとともに、芸術文化活動の場の提供や新たな芸術文化創造の支援に努めます。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
<p>(1) 芸術文化活動への支援と芸術鑑賞機会の充実</p> <p>① 芸術文化活動の支援 情操を養い、心や生活にゆとりと潤いを生むために、芸術文化活動の機会を提供するとともに市民の参加と主体による団体活動を支援します。</p> <p>② 芸術鑑賞事業の実施 文化や芸術に対する教養を高め、感受性を育むために、子どもから高齢者までを対象とした優れた芸術を鑑賞する機会を設けます。</p> <p>(2) 芸術文化に触れ合う機会の充実と担い手の育成</p> <p>① 伝統文化の振興 郷土芸能等の体験や発表を通じ、伝統文化の振興に努めます。</p>	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール		(1) 芸術文化活動への支援と芸術鑑賞機会の充実 ①芸術文化活動の支援 ・芸術文化祭14事業、写真公募展、緑のコンサート、ピアノフェスティバル、こども音楽のひろばの開催 ・館林市文化協会、館林市少女合唱団の支援 ②芸術鑑賞事業の実施 ・小中学校芸術鑑賞教室の実施 ・自主事業の実施 (2) 芸術文化に触れ合う機会の充実と担い手の育成 ①伝統文化の振興 ・伝統文化教室の開催	(1) 芸術文化活動への支援と芸術鑑賞機会の充実 ①芸術文化活動の支援 ・芸術文化祭14事業、写真公募展、緑のコンサート、ピアノフェスティバル、こども音楽のひろばの開催 ・館林市文化協会、館林市少女合唱団の支援 ②芸術鑑賞事業の実施 ・小中学校芸術鑑賞教室の実施 ・自主事業の実施 (2) 芸術文化に触れ合う機会の充実と担い手の育成 ①伝統文化の振興 ・伝統文化教室の開催	(1) 芸術文化活動への支援と芸術鑑賞機会の充実 ①芸術文化活動の支援 ・芸術文化祭14事業、写真公募展、緑のコンサート、ピアノフェスティバル、こども音楽のひろばの開催 ・館林市文化協会、館林市少女合唱団の支援 ②芸術鑑賞事業の実施 ・小中学校芸術鑑賞教室の実施 ・自主事業の実施 (2) 芸術文化に触れ合う機会の充実と担い手の育成 ①伝統文化の振興 ・伝統文化教室の開催	
	事業費	12,252	12,252	12,252	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	0	0	0
その他		0	0	0	
	一般財源	12,252	12,252	12,252	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	9,978千円	令和4年度決算額	9,081千円													
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	<p>■芸術文化活動の支援</p> <p>【市芸術文化祭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度：中止 その他、伝統文化教室（1事業）、写真公募展、ピアノフェスティバルは実施 ※緑のコンサート、こども音楽のひろばは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・令和3年度 開催事業数：6事業、参加者：1,870人 その他、伝統文化教室（2事業）、写真公募展、ピアノフェスティバルは実施 ※緑のコンサート、こども音楽のひろばは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・令和4年度 開催事業数：13事業、参加者：5,493人 その他、写真公募展、緑のコンサート、ピアノフェスティバルを実施 ※伝統文化教室、こども音楽のひろばは、新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため中止 <p>【文化団体育成等】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">令和2年度</td> <td style="width: 25%;">少年少女合唱団団員数 26人</td> <td style="width: 20%;">文化協会加盟団体数 68団体</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">1,170人</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>少年少女合唱団団員数 19人</td> <td>文化協会加盟団体数 60団体</td> <td style="text-align: right;">1,021人</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>少年少女合唱団団員数 12人</td> <td>文化協会加盟団体数 58団体</td> <td style="text-align: right;">927人</td> </tr> </table> <p>■芸術鑑賞事業の実施</p> <p>【小中学校芸術鑑賞教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・令和3年度 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・令和4年度 小学生総参加者：2,399人、中学生は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 				令和2年度	少年少女合唱団団員数 26人	文化協会加盟団体数 68団体	1,170人	令和3年度	少年少女合唱団団員数 19人	文化協会加盟団体数 60団体	1,021人	令和4年度	少年少女合唱団団員数 12人	文化協会加盟団体数 58団体	927人
令和2年度	少年少女合唱団団員数 26人	文化協会加盟団体数 68団体	1,170人													
令和3年度	少年少女合唱団団員数 19人	文化協会加盟団体数 60団体	1,021人													
令和4年度	少年少女合唱団団員数 12人	文化協会加盟団体数 58団体	927人													

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	市芸術文化祭の実施や館林市少年少女合唱団、館林市文化協会等の活動を支援することで、市民の文化活動の裾野を広げ、文化の向上を図ることが必要である。					
課題	館林市芸術文化祭の活動主体となっている館林市文化協会の加盟団体とその会員数が高齢化などにより減少傾向となっている。また、館林市少年少女合唱団においても、余暇の多様化によるものか、団員数が伸び悩んでいる。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	情操を養い、心や生活にゆとりと潤いを生むために、芸術文化活動の機会を提供するとともに市民の参加と主体による団体活動の充実を図るため、練習や成果発表の場を確保するなど活動環境の維持・整備とともに団体加盟人数の増加への支援を行う。					
令和6年度事業計画	<p>■芸術文化活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化祭14事業、写真公募展、緑のコンサート、ピアノフェスティバル、こども音楽のひろばの開催 ・館林市文化協会、館林市少年少女合唱団の支援 <p>■芸術鑑賞事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校芸術鑑賞教室の実施 ・自主事業の実施 <p>■伝統文化の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化教室の開催 					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	200	重要事業	総合戦略	担当部署	文化振興課 芸術文化係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・6	彫刻のまちづくり事業		1,161千円	1,161千円	872千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15 地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りを持ち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶2 芸術文化活動の推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	彫刻を生かしたまちづくりを進め、彫刻に対する市民意識の高揚を図ります。
----------------	-------------------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

◆ 彫刻のまちづくりの推進	郷土の自然や歴史と調和した豊かな芸術文化環境の創造に努めます。
① 普及事業（彫刻教室、彫刻講座等）の開催	
② 彫刻の小径作品等の補修の実施	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		① 普及事業の開催 ・ 彫刻教室、彫刻講座等の開催 ② 彫刻の小径作品等の補修の実施 ・ 計画的な補修の実施	① 彫刻教室、彫刻講座等の実施 ・ 企画立案・実施・評価・改善 ② 彫刻の小径作品等の補修の実施 ・ 計画的な補修の実施	① 彫刻教室、彫刻講座等の実施 ・ 企画立案・実施・評価・改善 ② 彫刻の小径作品等の補修の実施 ・ 計画的な補修の実施
事業費		1,161	1,161	1,161
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,161	1,161	1,161

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
		目標値					
		単位：実績値					
		目標値					
		単位：実績値					
		目標値					
		単位：実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	1,161 千円	令和4年度決算額	872 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■彫刻教室、彫刻講座等の実施 【彫刻教室】 ・令和2年度 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・令和3年度 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・令和4年度 開催回数：5回 参加者：延60人 【彫刻講座（彫刻清掃体験）】 ・令和2年度 参加者：14人 ・令和3年度 参加者：9人 ・令和4年度 参加者：13人 ■彫刻の小径作品等の補修の実施 【彫刻作品の補修】 ・令和2年度 補修点数：7点 ・令和3年度 補修点数：6点 ・令和4年度 補修点数：6点		

【事業の評価】

【Check】 指標評価						
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	「彫刻教室」や「彫刻講座」を実施し、彫刻の制作や鑑賞、清掃体験を通じ、彫刻に対する意識の高揚を図るとともに作品の補修等を行い、鑑賞環境の整備を図っていくことが必要である。					
課題	彫刻講座の参加者数が伸び悩んでいること、また、藤野天光の作品の石膏原型が市内の倉庫に保管されているが、空調設備はなく、一定の温度や湿度の管理ができていない状態であるため、適正な保管ができる環境整備が課題である。					
【Action】 今後の方向性・内容	■ 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
令和6年度事業計画	藤野天光の石膏原型の保管について、専門家より、保存方法や活用等の助言を受ける。また、彫刻作品の補修等を行いながら、彫刻教室や彫刻講座などの普及事業の充実を図る。					
令和6年度事業計画	■彫刻教室、彫刻講座等の実施 ・企画立案、実施、評価、改善 ■彫刻の小径作品等の補修の実施 ・計画的な補修の実施					
予算規模見込み	■ 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	201	重要事業	○	総合戦略		担当部署	文化振興課 芸術文化係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・5・7	文化会館運営			228,704千円	102,479千円	85,860千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15 地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶1 芸術文化活動の拠点施設の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	芸術活動や文化活動の拠点となる施設の充実を図ります。
----------------	----------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

文化会館運営【重要事業】	<p>◆文化施設の適切な管理の推進</p> <p>○文化施設の維持管理</p> <p>よりよい芸術文化活動を推進するため、施設整備を充実にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化会館運営管理 ・自動火災報知設備改修工事 ・トイレ改修工事実施設計 ・舞台機構設備改修工事
--------------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業 スケジュール	事業費	102,479	102,479	102,479	
	財源	国庫	0	0	0
		県費	0	0	0
		市債	12,200	0	0
		その他	16,507	16,507	16,507
	一般財源	73,772	85,972	85,972	

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画指標	芸術文化施設における市民1人当たり年間利用回数	2.5	目標値	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
		単位：回	実績値	1.4	1.6			
総合戦略KPI	芸術文化施設における市民1人当たり年間利用回数	2.5	目標値	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
		単位：回	実績値	1.4	1.6			
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	105,972千円	令和4年度決算額	85,860千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■芸術文化施設利用状況（年間）			
		(文化会館)	(芸術ホール)	(合 計)
	・令和2年度	利用者数 36,944人	240人	37,184人
	・令和3年度	利用者数 25,607人	26,680人	52,287人
	・令和4年度	利用者数 79,281人	36,451人	115,732人 (R4.4.1現在 住民人口74,652人)

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	よりよい芸術文化活動を推進するため、維持管理に努め、安全安心な施設利用の確保と施設の長寿命化を図っていく必要がある。
課題	昭和49年の開館から48年が経過し、施設及び設備の老朽化が進んでいる。それに伴う設備の故障・不具合等も増えており、貸館業務に影響するものも出ている。今後もバリアフリーを考慮し、安全安心に配慮した施設整備を計画的に進め、老朽化対策を行っていくことが課題である。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	文化施設が支障なく利用されるよう、点検を適時行い、適正かつ「館林市公共施設等総合管理計画」に沿った施設の補修や改修を行い、機能の充実と適切な維持管理の推進を行う。
令和6年度事業計画	■文化会館の貸館業務、定期的な維持管理、計画的な整備の実施 ・非常用発電機改修工事実施設計 ・舞台機構設備改修工事 ・楽屋空調改修工事 ・監視モニター設備改修工事
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	202	重要事業	総合戦略	担当部署	文化振興課 芸術文化係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・8	三の丸芸術ホール運営		41,252千円	41,693千円	40,967千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15_地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶1_芸術文化活動の拠点施設の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	芸術活動や文化活動の拠点となる施設の充実を図ります。
----------------	----------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

◆文化施設の適切な管理の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○文化施設の維持管理 <ul style="list-style-type: none"> よりよい芸術文化活動を推進するため、施設整備を充実します。 ・三の丸芸術ホール運営管理 ・三の丸芸術ホール南西側屋上防水改修工事 ・三の丸芸術ホール南西側雨樋等改修工事
----------------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ○三の丸芸術ホール運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の運営、維持管理業務 ○三の丸芸術ホール施設整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ・南西側屋上防水改修工事 ・南西側雨樋等改修工事 	<ul style="list-style-type: none"> ○三の丸芸術ホール運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の運営、維持管理業務 ○三の丸芸術ホール施設整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ・北西側屋上防水改修工事 ・南側雨樋等改修工事 ・舞台照明設備改修工事 ・Wi-Fi設置工事 	<ul style="list-style-type: none"> ○三の丸芸術ホール運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の運営、維持管理業務 ○三の丸芸術ホール施設整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ・南東側雨樋等改修工事 ・正面玄関改修工事 ・舞台照明設備改修工事 ・防犯カメラ設置工事 	
事業費	41,693	41,693	41,693	
財源	国庫	0	0	
	県費	0	0	
	市債	4,400		
	その他	8,000	8,000	8,000
	一般財源	29,293	33,693	33,693

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 芸術文化施設における市民1人当たり年間利用回数	2.5	目標値	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
	単位：回	実績値	1.4	1.6			
総合戦略KPI 芸術文化施設における市民1人当たり年間利用回数	2.5	目標値	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
	単位：回	実績値	1.4	1.6			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	42,593千円	令和4年度決算額	40,967千円																
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	■ 芸術文化施設利用状況 (年間) <table style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">(文化会館)</th> <th style="text-align: center;">(芸術ホール)</th> <th style="text-align: center;">(合 計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 令和2年度 利用者数</td> <td style="text-align: center;">36,944人</td> <td style="text-align: center;">240人</td> <td style="text-align: center;">37,184人</td> </tr> <tr> <td>・ 令和3年度 利用者数</td> <td style="text-align: center;">25,607人</td> <td style="text-align: center;">26,680人</td> <td style="text-align: center;">52,287人</td> </tr> <tr> <td>・ 令和4年度 利用者数</td> <td style="text-align: center;">79,281人</td> <td style="text-align: center;">36,451人</td> <td style="text-align: center;">115,732人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 5px;">(R4.4.1現在 住民人口74,652人)</p>				(文化会館)	(芸術ホール)	(合 計)	・ 令和2年度 利用者数	36,944人	240人	37,184人	・ 令和3年度 利用者数	25,607人	26,680人	52,287人	・ 令和4年度 利用者数	79,281人	36,451人	115,732人
	(文化会館)	(芸術ホール)	(合 計)																
・ 令和2年度 利用者数	36,944人	240人	37,184人																
・ 令和3年度 利用者数	25,607人	26,680人	52,287人																
・ 令和4年度 利用者数	79,281人	36,451人	115,732人																

【事業の評価】

【Check】 指標評価	C
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	よりよい芸術文化活動を推進するため、文化会館と併せ、維持管理に努め、安全安心な施設利用の確保と施設の長寿命化を図っていく必要がある。
課題	昭和61年の開館から36年が経過し、施設や設備の老朽化が進んでいる。屋上防水工事や舞台照明装置など改修が必要な設備が多い。今後もバリアフリーを考慮し、安全安心に配慮した施設整備を計画的に進め、老朽化対策を行っていくことが課題である。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	文化施設が支障なく利用されるよう、点検を適時行い、適正かつ「館林市公共施設等総合管理計画」に沿った施設の補修や改修を行い、機能の充実と適切な維持管理の推進を行う。
令和6年度事業計画	■ 三の丸芸術ホールの貸館業務、定期的な維持管理、計画的な整備の実施 ・ 南側雨樋等改修工事 ・ 正面玄関改修工事 ・ 舞台照明設備改修工事 ・ 防犯カメラ設置工事
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	203	重要事業	総合戦略	担当部署	文化振興課 文化財係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・9	田山花袋記念文学館運営		7,573千円	9,565千円	8,589千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15 地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶3 郷土の歴史文化を学ぶ機会の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	市民が館林の歴史や文化に誇りを持てるよう、郷土の文豪田山花袋に関する資料の収集保管・調査研究・普及活動を通して、学びの充実を図る。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

<p>【施設管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の日常管理 収蔵資料の保存や来場者の利用に適した施設や設備の整備、改修（樹木剪定、ハロン消火設備蓄電池改修など） <p>【資料収集・調査研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寄贈や購入による田山花袋資料の収集、分類、整理 <p>【資料保存管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収蔵資料の適切な管理や修繕を実施し後世に伝える。 燻蒸（隔年実施） 資料の修繕 <p>【普及活動（展示以外）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 展示の解説案内や出前講座などの実施
--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業スケジュール	<p>【施設管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の日常管理 ハロン消火設備蓄電池改修 <p>【資料収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料購入 <p>【資料保存管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料修繕 燻蒸（隔年実施） 	<p>【施設管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の日常管理 展示ケース照明改修（LED化）① <p>【資料収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料購入 <p>【資料保存管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料修繕 	<p>【施設管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の日常管理 展示ケース照明改修（LED化）② <p>【資料収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料購入 <p>【資料保存管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料修繕 燻蒸（隔年実施）
事業費	9,565	8,000	10,000
財源	国庫	0	0
	県費	0	0
	市債	0	0
	その他	614	614
	一般財源	8,951	7,386

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 文化活動の充実度に満足している市民の割合	30.5	目標値	-	-	34.5	-	36.5
	単位：%	実績値	-	-		-	
総合戦略KPI 歴史文化施設における市民一人当たりの年間利用回数	0.3	目標値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
	単位：回	実績値	0.266	0.324			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	9,565千円	令和4年度決算額	8,589千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【実施事業】 (1)資料調査研究 研究紀要33及び34号の刊行〔令和2・4年度〕 (2)資料収集 花袋関係資料の購入、田山家からの寄贈資料の受入 (3)資料保存管理 収蔵資料の修繕(掛軸仕立替)、収納箱等の作成 収蔵庫及び展示室の燻蒸(隔年実施)〔令和2・4年度〕 (4)施設改修 非常灯改修工事〔令和2年度〕 身障者用トイレ便座改修工事・タイル修繕〔令和3年度〕 館内テラス内タイル修繕〔令和4年度〕 【入館者数】 令和2年度：1,465人 *コロナのため4/17~5/25休館 令和3年度：2,198人 令和4年度：2,918人			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である <input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である <input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている <input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある <input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている <input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	田山花袋記念文学館は、花袋関連資料を収蔵・保管・展示する国内唯一の博物館である。一般来館者以外にも専門家や研究者、メディア等からも問合せも多く、田山花袋研究における世界の中心地でもある。約35年間に多岐にわたる展示会を開催してきたが、市制70周年を迎える令和6年度以降(令和13年まで)、田山花袋が残した日記類の解説・刊行事業も予定しており、引き続き本市の文化創造の拠点としての、魅力ある事業を展開していく必要がある。
課題	開館から約35年が経過し資料収集・保存・展示のための施設老朽化が激しく、応急的な改修・修繕、来館者満足度を高めるためスタッフ配備や日常清掃等にコストがかかっている状況。高コストに対して、この20年間で入館者数は約3分の1に減少しており、館運営を支えるための収入は極めて少ない。入館者数減少に歯止めをかけるため、趣向を凝らした企画展や、花袋とゆかりのある作家を顕彰する国内の文学館・博物館との共同企画、小・中学校との連携事業等を積極的に進め、また令和元年度に文化庁日本遺産に認定された本市のストーリー「里沼(SATO-NUMA)」においても、「田山花袋関連資料(田山花袋記念文学館)」を構成文化財のひとつとして位置づけ、日本遺産ブランドを活かした全国的なPRにも取り組んでいる。
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)
	①ソフト事業(展示・普及活動)の充実により、文学館を通じてシビックプライド醸成や学習機会強化に取り組む。 ②資料所有者・研究者・機関等との連携強化を図り、収蔵資料の調査研究の深化と館の存在度を高める。 ③施設・設備の大規模改修、収蔵庫の確保・整備について検討を進める。(公共施設集約・経営合理化の観点から、文学館のみならず資料館までを含めた再編((仮称)総合博物館建設)を含めて)
令和6年度事業計画	①資料調査研究 研究紀要36号刊行～(市制70周年記念花袋日記解説事業) ②資料収集 花袋関係資料の購入 ③資料保存管理 収蔵資料の修繕、収納箱等の作成 ④施設管理 令和7年度の屋根改修(塗装)工事、池廃止に向けた準備 令和8年度以降の資料館・博物館等再編に向けた研究・検討
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較
備考	

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	204	重要事業	総合戦略	担当部署	文化振興課 文化財係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・5・9	(文学館) 特別展の開催		1,629千円	943千円	695千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ 育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶15 地域の歴史や伝統・芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる
施策の方向	▶3 郷土の歴史文化を学ぶ機会の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	展示を通して郷土の文豪・田山花袋を普及し、市民の学びの充実を図る。
----------------	-----------------------------------

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

特別展・収蔵資料展の開催	
収蔵資料展：春・夏・冬	
特別展：秋	

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業スケジュール	特別展・収蔵資料展の開催	特別展・収蔵資料展の開催	特別展・収蔵資料展の開催	特別展・収蔵資料展の開催 ・市制70周年特別展
	事業費	943	1,100	1,200
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	943	1,100	1,200

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 文化活動の充実度に満足している市民の割合	30.5	目標値	-	-	34.5	-	36.5
	単位：%	実績値	-	-		-	
総合戦略KPI 歴史文化施設における市民一人当たりの年間利用回数	0.3	目標値	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
	単位：回	実績値	0.266				
活動指標 見学者アンケートによる特別展等の満足度	50	目標値	50	50	50	50	50
	単位：%	実績値	83	100			
		目標値					
		単位：	実績値				

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	943千円	令和4年度決算額	695千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	[令和2年度] ・ 収蔵資料展「旅する小説家—花袋とゆく夏の山水処々—」 397人 ・ 花袋没後90年記念特別展「江見水蔭～無名の花袋を支えた小説家～」 319人 ・ 収蔵資料展「花袋先生の冬じたく」 269人 ・ 収蔵資料展「料理は味よりも香を—花袋と「食」にまつわる話—」前期 832人 (全国文学館協議会共同展「3.11文学館からのメッセージ『花袋と災害』」を同時開催) [令和3年度] ・ 田山花袋生誕150年記念特別展「情熱の人田山花袋—《新しく》《真面目》な文学を求めて—」 第一部=303人 第二部=434人 第三部=265人 計1,002人 ・ 収蔵資料展「料理は味よりも香を—花袋と「食」にまつわる話—」後期 406人 ・ 島崎藤村生誕150年記念企画展「藤村からの手紙」第1部=716人 ・ 花袋生誕150年記念特別展関連書簡解説講座 79人 [令和4年度] ・ 島崎藤村生誕150年記念企画展「藤村からの手紙」第2部=578人 ・ 島崎藤村生誕150年記念企画展「藤村からの手紙」第3部=385人 ・ 特別展「花袋大解剖—みんなが気になる花袋のアレコレ—」709人 ・ 収蔵資料展「文士たちが見た花袋」225人(令和5年3/31まで) ・ 書簡解説ワークショップ「藤村の手紙を読もう！」17人 ・ 講演会「恋愛学で読みとく田山花袋『蒲団』」200人			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進におい て不可欠な事業で ある	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与し ている事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有 無について検討の余地がある
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られ ている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水 準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が 得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	リピーターや新たな入館者を獲得するために、田山花袋とその作品等についてさまざまな切り口で紹介した特別展や企画展及び収蔵資料展を継続的に開催できている。令和4年度は、花袋の親友・島崎藤村の生誕150年に合わせた企画展(3部構成)を開催したほか、特別展「花袋大解剖—みんなが気になる花袋のアレコレ—」では、同時代作家の作品・書簡等から探る花袋の実像を伝えることができた。また展示解説会や講座・ワークショップも企画・実施し、メディアで取り上げられることも多く、本市出身の文豪・田山花袋の顕彰・普及の効果は高い。					
課題	時機を捉えた展示会等を開催し、住民・来訪者が本市の歴史文化を学ぶための一定の機会を提供できたが、情報発信や展示手法についてはよりよい効果を求めて研究・検討しながら、より一層の工夫を凝らしていく必要がある。また、田山花袋中心の展示に限界があるため、今後は市史「館林の文化と芸術」に紹介された本市ゆかりの文学者を紹介する展示も検討したい。					
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
令和6年度 事業計画	①田山花袋に関する第一級の資料を所蔵している館としての強みを活かした魅力ある事業開催を検討する。 ②今後開催する展示会の中・長期的な計画を作成するとともに、展示企画や資料調査を担う学芸員をはじめとしたスタッフの育成を図る。					
予算規模 見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	205	重要事業	○	総合戦略	担当部署	スポーツ振興課 管理係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
8・5・3	公園競技施設管理運営			103,684千円	155,464千円	153,223千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶4_スポーツ施設の適正管理

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	公園競技施設（体育館（ダノン城沼アリーナ）、陸上競技場、野球場、庭球場、多目的広場、市民プール、グラウンドゴルフ場、弓道場、高根運動場、東山運動広場）の整備及び管理運営を図る。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
①公園競技施設管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・公園競技施設の維持管理 多くの市民や競技者がスポーツ施設を安全かつ安心して利用できるよう、施設の点検及び整備に努めるとともに、設備の充実を図る。 ・屋外施設の維持補修（グラウンド内の芝刈り、整地等） ・各種スポーツ用具、備品の購入及び維持管理
②公園競技施設の整備【重要事業】【新規】	<ul style="list-style-type: none"> ・公園競技施設の整備 各施設の設備（空調、電気、給排水、照明等）に関する保守点検及び維持補修を行う。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業スケジュール	①公園競技施設管理運営 ・バスケットゴール購入 ②公園競技施設の整備【重】 ・ダノン城沼アリーナ冷暖房設置工事設計業務委託【新】 ・ダノン城沼アリーナ外壁改修工事（東面） ・城沼市民プール観覧席補強工事 ・城沼野球場受変電設備更新工事 ・多目的広場屋外照明交換工事 ・多目的広場整地工事	①公園競技施設管理運営 ・ランニングマシンリース ②公園競技施設の整備【重】 ・ダノン城沼アリーナ冷暖房設置工事 ・ダノン城沼アリーナ外壁改修工事（南・西面） ・ダノン城沼アリーナ館内管理用カメラ改修工事 ・城沼野球場整地工事	①公園競技施設管理運営 ・乗用草刈り機リース ②公園競技施設の整備【重】 ・ダノン城沼アリーナ外壁改修工事（北面） ・ダノン城沼アリーナ非常用自家発電機更新工事 ・城沼市民プール50mプールろ過機更新工事 ・城沼市民プールスライダー改修工事設計業務委託
事業費	155,464	566,000	180,000
財源	国庫	1,323	0
	県費	0	0
	市債	46,600	0
	その他	19,747	0
	一般財源	87,794	566,000

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 スポーツ実施率（週1回以上）【総合戦略KPIを兼ねる】	31.3	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
	単位：%	実績値	49.6	60.4			
総合計画指標 スポーツ施設に関する満足度	45.3	目標値	46.9	47.6	48.4	49.2	50.0
	単位：%	実績値	42.6	39.7			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	161,464千円	令和4年度決算額	153,223千円		
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	主な内容 [令和2年度] ・各施設、設備の保守管理業務委託 ・ダノン城沼アリーナ屋上防水改修工事 ・ダノン城沼アリーナトイレ水栓改修工事 ・城沼市民プール50mプール塗装工事 ・城沼総合体育館ジェットヒーター購入 [令和3年度] ・各施設、設備の保守管理業務委託 ・ダノン城沼アリーナ受変電設備等更新工事 ・城沼野球場外野クッション設置工事 ・城沼総合運動場雨水排水ポンプ更新工事 ・ラグビーゴールセット購入 [令和4年度] ・各施設、設備の保守管理業務委託 ・ダノン城沼アリーナ空調設備改修工事設計業務委託 ・ダノン城沼アリーナ東側外壁改修工事 ・城沼野球場高圧受電設備更新工事 ・多目的広場整地工事 ・移動式バスケットゴール購入			・施設利用者数（全体） 令和2年度：76,290人 令和3年度：119,620人 令和4年度：163,957人	

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	市民のスポーツ活動の拠点施設である公園競技施設を整備することは、市体育協会及び加盟団体主催の各種スポーツ大会の実施による競技力の向上や地域住民の体力づくりなど健康増進に資するために不可欠な事業である。 今後も利用者のニーズを把握し、各学校施設の整備等を計画的に行いながら、スポーツ実施率の向上に繋げていく必要がある。					
課題	各施設の老朽化が著しく、多様化する市民ニーズに対し、スポーツ環境の整備が遅れている状況となっている。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
	施設の老朽化対応として、引き続き定期的な点検、整備に重点を置くとともに、利用者が一年を通して快適にスポーツを行えるよう、各施設の利便性並びに安全性の向上に向け、中長期的な維持管理に取り組む。					
令和6年度事業計画	公園競技施設（体育館、陸上競技場、野球場、庭球場、多目的広場、市民プール、グラウンドゴルフ場、弓道場、高根運動場、東山運動広場）の整備及び管理運営 内容：各施設（設備）の維持補修、グラウンド整備（芝刈り、整地等）					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	206	重要事業	総合戦略	担当部署	スポーツ振興課	管理係・振興係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・6・1	保健体育総務			20,248千円	16,842千円	16,359千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶2_スポーツ活動への支援

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	体育・スポーツの普及振興に努め、スポーツによる社会参加と生きがいを推進する。
----------------	--

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

- ①体育総務
- ・第三次生涯スポーツ推進計画の進捗管理
第三次生涯スポーツ推進計画の周知及びスポーツ、レクリエーション活動に対する市民ニーズの把握を図り、生涯スポーツのまちの実現を目指す。
 - ・スポーツ推進委員会運営
スポーツ推進委員会を運営し、スポーツ推進委員によるスポーツの日常化を推進し、市民の健康増進と体力づくりの促進を図る。
- ②社会体育団体育成指導等
- ・体育協会事業費補助金
館林市における体育・スポーツ団体を総括し、体育・スポーツの普及と体力づくりの振興を図り、もって市民の健全な心身の進展に寄与することを目的とする。
 - ・スポーツ少年団運営費補助金
スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活性化を図るとともに、スポーツを通じて青少年の心身の健全な育成に資することを目的とする。
 - ・スポーツ推進委員会事業費補助金
第三次館林市生涯スポーツ推進計画の実行と市民スポーツ及びレクリエーションの普及振興を図るため、研究、協議並びに指導の実践活動を行う。

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①体育総務 ・スポーツ推進委員会運営	6,615	17,000	16,500
	②社会体育団体育成指導等 ・体育協会事業費補助金交付 ・スポーツ少年団運営費補助金交付 ・スポーツ推進委員会事業費補助金交付			
事業費				
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	26	26	26
	一般財源	6,589	16,974	16,474

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 スポーツ実施率（週1回以上）【総合戦略KPIを兼ねる】	31.3	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
	単位：%	実績値	49.6	60.4			
総合計画指標 スポーツ施設に関する満足度	45.3	目標値	46.9	47.6	48.4	49.2	50.0
	単位：%	実績値	42.6	39.7			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	23,576千円	令和4年度決算額	22,542千円		
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	○体育協会 ・団体数(R2:38, R3:38, R4:38) ・支部数(R2:8支部, R3:8支部, R4:8支部) ・会員数(R2:6, 327, R3:6, 891, R4:6, 159) ○スポーツ少年団 ・団体数(R2:34, R3:32, R4:27) ・団員数(R2:552, R3:515, R4:430)		○補助金の交付 [令和2年度～令和4年度] 同額で支出 ・体育協会事業補助金(3,112千円) ・スポーツ少年団運営費補助金(657千円) ○会計年度任用職員の雇用数 [令和2年度] 6人 [令和3年度] 6人 [令和4年度] 6人		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	各種スポーツ大会や競技力の向上、また多様な世代のニーズへの対応など、本市におけるスポーツ関係組織の中核的かつ重要な役割を果たしており、その運営を円滑に遂行するための支援は不可欠であることから、団体活動に対する継続的な補助が必要である。 会計年度任用職員については、施設の利用予約や受付業務（窓口、電話等）で多くの利用者への対応を行うほか、屋外施設の維持管理業務（機械による整地や除草）を行う必要があるため、今後も継続的な雇用が必要と考える。					
課題	健康寿命の延伸に向け、運動・スポーツへの関心が高く、いつでも、どこでも、だれでもスポーツに取り組める環境整備を進めなければならない。 会計年度任用職員に関しては、不規則勤務等であることと、特に夜間職員5名中2名が70代半ばと高齢であり、今後の職員確保が困難になることが予測されるため、体制の検討が必要である。また人員不足のため屋外施設の維持管理業務を正規職員が実施している状況にある。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）					
	令和4年3月に第三次館林市生涯スポーツ推進計画を策定したことから、本計画の目標達成に向けて新たな施策の取組を実施する。					
令和6年度事業計画	○補助金の交付 ・体育協会事業補助金 ・スポーツ少年団運営費補助金 ○会計年度任用職員の継続雇用及び見直し（施設維持管理担当の増員）					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	207	重要事業	総合戦略	担当部署	スポーツ振興課 振興係	
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・6・1	体育・スポーツの振興(市民体育行事)			3,318千円	3,335千円	2,057千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶1_スポーツ環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	市民を対象とした各種体育行事を開催し、健康体力づくりを図るとともに、体育・スポーツ活動の日常化を促進する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①市民総合体育祭	体育・スポーツに参加する機会を広く市民に提供するとともに、スポーツ交流の定着化と健康で明るい地域社会づくりを目指す。
②市民総合体育大会春季大会	体育協会加盟団体を中心として、広く市民参加を募り、スポーツ活動の推進と競技力向上を図る。
③市民歩け歩け大会	自然の中を歩くことの楽しさ、素晴らしさを仲間と体験しながら、健康とふれあいの大切さの認識を深める。
④たてばやし水泳大会	健康体力づくり促進と水泳競技の普及促進を図る。
⑤たてばやし駅伝大会	仲間と連帯意識を育むとともに、健康増進と競技スポーツとしての選手育成を図る。
⑥たてばやしシャトルマラソン大会	走ることにより健康の保持増進と体力の向上を図り、あわせて明るく楽しい活力に満ちた地域社会づくりに寄与する。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①市民体育行事	<ul style="list-style-type: none"> ・市民総合体育祭の開催 ・市民総合体育大会春季大会の開催 ・市民歩け歩け大会の開催 ・たてばやし水泳大会の開催 ・たてばやし駅伝大会の開催 ・たてばやしシャトルマラソン大会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①市民体育行事 ・市民総合体育祭の開催 ・市民総合体育大会春季大会の開催 ・市民歩け歩け大会の開催 ・たてばやし水泳大会の開催 ・たてばやし駅伝大会の開催 ・たてばやしシャトルマラソン大会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①市民体育行事 ・市民総合体育祭の開催 ・市民総合体育大会春季大会の開催 ・市民歩け歩け大会の開催 ・たてばやし水泳大会の開催 ・たてばやし駅伝大会の開催 ・たてばやしシャトルマラソン大会の開催
	事業費	3,335	3,300	3,300
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	3,335	3,300	3,300

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 スポーツ実施率（週1回以上）【総合戦略KPIを兼ねる】	31.3	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
	単位：%	実績値	49.6	60.4			
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					
		目標値					
	単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	3,335 千円	令和4年度決算額	2,057 千円	
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【令和2年度実施事業】 ウォークラリー、たてばやしウォーク(1回・2回中止)、定期ふれあいウォーク(2回・3回中止) ※中止事業 歩け歩け大会(春)、市民総体春季総合開会式、水泳大会、スポレク祭(中止)、市民総合体育祭、市民総合体育祭(球技)、駅伝大会、スキー大会、シャトルマラソン大会			・市民体育行事の開催 令和2年度：延 372人参加 令和3年度：延 777人参加 令和4年度：延 4,032人参加
	【令和3年度実施事業】 歩け歩け大会(春)、水泳大会、ウォークラリー、スキー大会 ※中止事業 市民総体春季総合開会式、スポレク祭、市民総合体育祭、市民総合体育祭(球技)、駅伝大会、マラソン大会、小学生なわとび大会			
	【令和4年度実施事業】 歩け歩け大会(春)、支部対抗ターゲットバードゴルフ大会、支部対抗グラウンドゴルフ大会、水泳大会、スポレク祭、ウォークラリー、駅伝大会、スキー大会、マラソン大会、市民レクリエーション大会 ※中止事業 市民総体春季総合開会式、市民総合体育祭、支部対抗球技大会(4種目) ※廃止事業 小学生なわとび大会			

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	各種大会をとおして、地域の連携と協調を高めるとともに、心身の健康増進、生きがいに寄与し、より良い地域社会の構築に成果が挙げられており、継続的な取組を進めていかなければならないが、開催方法の見直しも図る必要がある。					
課題	生活スタイルの変化や、ニーズの多様化及び高齢化社会に伴い、事業参加者の減少や役員の担い手不足等の課題も徐々に表面化しており、今後、事業の見直し等を検討しなくてはならない。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
令和6年度事業計画	歩け歩け大会(春)、水泳大会、ウォークラリー、スポーツレクリエーション祭、駅伝大会、スキー大会、マラソン大会等の開催					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	208	重要事業		総合戦略		担当部署	スポーツ振興課 振興係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・6・1	体育・スポーツの振興 (全国・関東・県下体育事業派遣)			1,815千円	1,818千円	1,292千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶3_競技スポーツの推進

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	スポーツ競技選手の養成と競技力の向上に努めるとともに、県民スポーツ大会等へスポーツ競技優秀者を市の代表として派遣する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①県民スポーツ大会夏季大会〔水泳〕選手派遣	県内の市対抗で行われる水泳競技に、本市の代表として選手役員を派遣する。
②県民スポーツ大会秋季大会選手派遣	県内の市・郡別対抗で行われる17競技に、本市の代表として選手役員を派遣する。
③県民スポーツ大会駅伝競走大会選手派遣	県内の市対抗で行われ、館林邑楽チームの代表として、本市から選手役員を派遣する。
④県民スポーツ大会冬季大会選手派遣	県内の市対抗で行われる冬季2大会に、本市の代表として選手役員を派遣する。
⑤県スポーツ少年団大会選手派遣	県下全市町村のスポーツ少年団交流事業として行われる8競技に、選手役員を派遣する。

【事業スケジュール】

(単位：千円)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール	①全国・関東・県下体育事業派遣	・県民スポーツ大会夏季大会〔水泳〕への選手派遣	①全国・関東・県下体育事業派遣	①全国・関東・県下体育事業派遣
		・県民スポーツ大会秋季大会への選手派遣 ・県民スポーツ大会駅伝競走大会への選手派遣 ・県民スポーツ大会冬季大会への選手派遣	・県民スポーツ大会夏季大会〔水泳〕への選手派遣 ・県民スポーツ大会秋季大会への選手派遣 ・県民スポーツ大会駅伝競走大会への選手派遣 ・県民スポーツ大会冬季大会への選手派遣	・県民スポーツ大会夏季大会〔水泳〕への選手派遣 ・県民スポーツ大会秋季大会への選手派遣 ・県民スポーツ大会駅伝競走大会への選手派遣 ・県民スポーツ大会冬季大会への選手派遣及び令和7年度当番市(スケート)の準備 ・県スポーツ少年団大会への選手派遣
事業費		1,818	1,820	1,900
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,818	1,820	1,900

【関連する指標】

総合計画指標	指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
スポーツ実施率(週1回以上)【総合戦略KPIを兼ねる】		31.3	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
	単位：%		実績値	49.6	60.4			
			目標値					
	単位：		実績値					
			目標値					
	単位：		実績値					
			目標値					
	単位：		実績値					

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	209	重要事業	○	総合戦略	○	担当部署	スポーツ振興課 振興係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・6・1	体育・スポーツの振興 (生涯スポーツ振興事業)			1,338千円	1,381千円	602千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶1_スポーツ環境の充実

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	スポーツを日常生活に欠かせない文化として根付かせるとともに、地域住民一人ひとりの取り組みが、継続して実施されるよう、各般にわたるスポーツ環境の整備のための事業を推進する。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
①スポーツ教室の開催	スポーツ・レクリエーション活動の振興と市民の健康増進を図るため、各種スポーツ教室を開催し、これまでスポーツ活動機会の少なかったかたに、スポーツに親しむ機会を提供する。
②ファミリースポーツ活動推進事業	親子のふれあいを深めることを目的に、体を動かすことの楽しさ・大切さを知る機会とする。
③中高年スポーツ活動推進事業	中高年を対象に、健康の保持増進と仲間づくりを図りながら、生涯スポーツ活動の普及を推進する。
④健康づくり事業	市民が健康で自立した生活を維持するため、運動習慣の継続が可能となる環境整備を行う。
⑤地域スポーツ活動推進事業	スポーツ・レクリエーション活動を通じて地域住民の連帯の輪を深め、一人ひとりが健康体力の保持増進を図り、生涯にわたりスポーツに親しむことを目的とする。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度				
事業 スケジュール	①生涯スポーツ振興事業【重】	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室の開催 ・ファミリースポーツ活動推進事業の実施 ・中高年スポーツ活動推進事業の実施 ・健康づくり事業の実施 ・地域スポーツ活動推進事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室の開催 ・ファミリースポーツ活動推進事業の実施 ・中高年スポーツ活動推進事業の実施 ・健康づくり事業の実施 ・地域スポーツ活動推進事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室の開催 ・ファミリースポーツ活動推進事業の実施 ・中高年スポーツ活動推進事業の実施 ・健康づくり事業の実施 ・地域スポーツ活動推進事業の実施 				
	事業費				1,381	1,400	1,400	
	財源				国庫	0	0	0
					県費	0	0	0
					市債	0	0	0
その他		175	175	175				
一般財源		1,206	1,225	1,225				

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 スポーツ実施率（週1回以上）【総合戦略KPIを兼ねる】	31.3	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
	単位：%	実績値	46.9	60.4			
総合計画指標 各種スポーツ教室への参加者数	706	目標値	804	853	902	951	1,000
	単位：人	実績値	469	602			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	1,381千円	令和4年度決算額	602千円		
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	【令和2年度実施事業】 スポーツ教室 大人のためのラグビー初心者教室、エアロビックチャレンジ2021(障がい者)、ステップde筋力UP教室ほか7教室 ファミリースポーツ活動 ☆JONUMA☆親子ティーボール教室、親子de卓球体験教室ほか3教室 ※中止事業 地域スポーツ活動(8支部中止)、スポーツ指導者講習会、水中かるた大会、市民体力測定、市民レクリエーション大会ほか		・生涯スポーツ振興事業の開催 令和2年度：延 771人参加 令和3年度：延 689人参加 令和4年度：延 1,659人参加		
	【令和3年度実施事業】 春から始める♪初めてのヨガ教室ほか5教室(5教室中止)、ファミリースポーツ活動(2教室実施)、地域スポーツ活動(1支部実施・7支部中止)、スポーツ指導者講習会(1回実施・2回中止)、定期ふれあいウォーク(1回実施・2回中止)、たてばやしウォーク2021(1回実施・2回中止) ※中止事業 中高年スポーツ活動、障がい者レクリエーション、水中かるた大会、市民体力測定、市民レクリエーション大会他				
	【令和4年度実施事業】 スポーツ教室 柔軟性アップ!ボディメンテナンス教室ほか7教室(1教室中止)、ファミリースポーツ活動 親子de卓球体験教室ほか1教室 地域スポーツ活動(3支部実施・5支部中止)、スポーツ指導者講習会(3回実施)、定期ふれあいウォーク(4回実施)、たてばやしウォーク2022(3回実施) ※中止事業 大人のためのラグビー初心者教室				

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A					
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高	政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中	政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低	目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高	成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高	費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中	適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低	費用対効果が低水準にある
評価根拠	年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、対象者の特性やニーズに応じた事業を行うことで、日常生活に運動・スポーツを取り入れるきっかけとなり、市民の健康寿命の延伸を図ることができる。 市民福祉の向上には欠かせないアイテムとして、事業内容の充実及び関係機関等との連携による運動・スポーツの普及推進及び健康についての正しい知識の普及を図る。					
課題	少子高齢化等による競技人口の減少、競技団体組織の高齢化、役員・指導者の不足等による組織力の低下が懸念され、競技スポーツの衰退に繋がりがかねない。					
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)					
令和6年度事業計画	健康づくり事業・スポーツ教室の開催、ファミリースポーツ活動、地域スポーツ活動(8支部)、各種ウォーキング事業、体力測定、レクリエーション大会、軽スポーツ出前講座の開催					
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較					
備考						

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	210	重要事業	総合戦略	担当部署	スポーツ振興課 振興係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・6・1	体育・スポーツの振興 (少年スポーツ交流事業)		171千円	167千円	0千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶2_スポーツ活動への支援

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	大規模災害時の相互応援協定の締結を機に、埼玉県志木市との相互交流を深めるとともに、少年スポーツ活動の育成及び定着化を図る。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①少年スポーツ交流事業	埼玉県志木市との大規模災害時の相互応援協定の締結を機に、スポーツ少年団同士が隔年でお互いに行き来して交流し、同じスポーツ種目を愛好する仲間や親子の心と心のふれあいを深めることを目的とする。
-------------	--

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業 スケジュール		①少年スポーツ交流事業 ・館林市と志木市スポーツ少年団 交流事業の実施【志木市開催】	①少年スポーツ交流事業 ・館林市と志木市スポーツ少年団交 流事業の実施【館林市開催】	①少年スポーツ交流事業 ・館林市と志木市スポーツ少年団 交流事業の実施【志木市開催】
事業費		167	45	170
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	167	45	170

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度					
			R3	R4	R5	R6	R7	
総合計画指 標	スポーツ実施率（週1回以上）【総合 戦略KPIを兼ねる】	31.3	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
		単位：%	実績値	49.6	60.4			
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					
			目標値					
		単位：	実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	167千円	令和4年度決算額	0千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	・館林市・志木市スポーツ少年団交流大会 令和2年度：中止（志木市開催・サッカー） 令和3年度：中止（志木市開催・サッカー） 令和4年度：中止（志木市開催・サッカー）		

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A		
事業の必要性	<input type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input checked="" type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	志木市との交流は、平成9年8月に本市と防災協定を締結したことを契機に、平成10年8月の野球大会から交流を開始し、現在25年経過した。この間、5種目の交流種目において、1年おきに両市で交流を実施してきた。地域の異なった単位団と交流を行うことにより、少年期における貴重な経験の場を提供してきたが、その目的はある程度達成したものとする。		
課題	志木市と本市の交流種目において合致する種目が5種目であり、交流の恩恵を団員全てが享受できない。		
【Action】 今後の方向性・内容	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）		
	交流当初の目的をある程度達成していること、交流種目が限られていること、また少子化による団員の減少により交流が難しくなってきたことを鑑み、廃止の方向で検討していく。		
令和6年度事業計画	なし		
予算規模見込み	<input type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較		
備考			

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	211	重要事業	総合戦略	担当部署	スポーツ振興課 管理係
款・項・目	事業名		当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)
10・6・1	学校体育施設開放事業		2,095千円	2,041千円	1,945千円

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶2_スポーツ活動への支援

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	地域におけるスポーツ活動の拠点として、学校体育施設を開放し、広く市民のスポーツ活動の推進を図る。 施設：市内の小・中学校及び特別支援学校（計17校）
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）

①学校体育施設開放事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のスポーツ活動の場として市内の小・中学校、特別支援学校の体育施設（校庭、体育館等）を開放し、健康体づくりの促進とスポーツ活動の日常化を図る。運営については、各校の利用者で組織された学校開放運営委員に委託を行う。 ・体育施設利用中の体調の急変等に備え、各校に自動体外式除細動器（AED）を設置する。 ・夜間照明設備等の維持補修を行う。
----------------	---

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業スケジュール	①学校体育施設開放事業の推進 ・学校体育施設開放事業運営委託 ・自動体外式除細動器（AED）設置 ・屋外照明修繕	①学校体育施設開放事業の推進 ・学校体育施設開放事業運営委託 ・自動体外式除細動器（AED）設置 ・屋外照明修繕	①学校体育施設開放事業の推進 ・学校体育施設開放事業運営委託 ・自動体外式除細動器（AED）設置 ・屋外照明修繕	①学校体育施設開放事業の推進 ・学校体育施設開放事業運営委託 ・自動体外式除細動器（AED）設置 ・屋外照明修繕
事業費		2,041	2,041	2,041
財源	国庫	0	0	0
	県費	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	100	100	100
	一般財源	1,941	1,941	1,941

【関連する指標】

指標		現状値 (R元年度)	区分	年度				
				R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標	スポーツ実施率（週1回以上）【総合戦略KPIを兼ねる】	31.3	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
		単位：%	実績値	49.6	60.4			
総合計画指標	スポーツ施設に関する満足度	45.3	目標値	46.9	47.6	48.4	49.2	50.0
		単位：%	実績値	42.6	39.7			
			目標値					
			単位：	実績値				
			目標値					
			単位：	実績値				

【令和4年度事業】事業評価調査

【事業の実績】

令和4年度予算額	2,041 千円	令和4年度決算額	1,945 千円
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	関連設備修繕 [令和2年度] 第十小学校ナイター照明修繕 [令和3年度] 第十小学校高木剪定業務委託 [令和4年度] 第二中学校夜間照明設備修繕	登録団体・人数 令和2年度：133団体・2,470人 令和3年度：134団体・2,334人 令和4年度：132団体・2,400人 施設利用者数（全体） 令和2年度：42,216人 令和3年度：29,460人 令和4年度：51,363人	

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A		
事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある
事業の効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある
評価根拠	学校開放事業対象施設を整備することにより、各利用団体のスポーツ活動の促進が図られるほか、地域住民の体力づくりや健康増進に資するために不可欠な事業である。今後も利用者のニーズを把握し、各学校施設の整備等を計画的に行いながら、スポーツ実施率の向上に繋げていく必要がある。		
課題	各校の学校開放運営委員会の組織力に差があり、自主運営を行っている委員会が少ない。また、一部の利用者によるルールやマナー違反により、学校だけでなく施設外からも苦情等が寄せられている。		
【Action】 今後の方向性・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止（ <input type="checkbox"/> 一部廃止）		
	各運営委員会ごとで意見交換等を積極的に行い、共通認識を図りながら、自主運営化の徹底を周知していく。		
令和6年度事業計画	・学校開放運営委員会の開催 各委員会の運営形態や自主活動が十分になされていないことを踏まえ、引き続き会議等を開催し、事業内容の説明や団体間で情報交換等を行いながら、事業の標準化を図る。 ・屋外照明設備修繕の実施		
予算規模見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較		
備考			

【令和4年度事業】実施計画書

整理番号	212	重要事業	○	総合戦略		担当部署	スポーツ振興課 管理係
款・項・目	事業名			当初予算額 (R3)	当初予算額 (R4)	決算額 (R4)	
10・6・2	体育施設管理運営			12,156千円	7,174千円	4,824千円	

【総合計画との関連】

基本目的	▶Ⅲ_育てる幸せを感じ生涯にわたり互いに学び続ける家庭と文化を築くまち
施策目的	▶16_スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる
施策の方向	▶4_スポーツ施設の適正管理

【事業の目的及び内容】

【Plan】 事業目的	社会体育施設（市民体育館、市営テニスコート、渡良瀬川河川敷青少年ひろば）の整備及び管理運営を図る。
----------------	---

令和4年度事業計画（主要な事業とその取組内容）	
①体育施設管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・社会体育施設の維持管理 多くの市民や競技者がスポーツ施設を安全かつ安心に利用できるよう、施設の点検及び整備に努めるとともに、設備の充実を図る。 ・市営テニスコートの除草、整地等の整備及び付帯設備（器具庫等）の維持補修を行う。
②市民体育館整備【重要事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・市民体育館の設備（電気、給排水、照明等）の保守点検、維持補修を行う。
③青少年ひろば整備	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年ひろば内のサッカー場、キャンプ場などの芝刈り、整地等の整備及び給排水設備の維持補修を行う。

【事業スケジュール】

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度			
事業 スケジュール	①体育施設管理運営 ・アーチェリー場防矢板補修	①体育施設管理運営 ・テニスコート整地 ②市民体育館整備【重】 ・バスケットゴール補修 ③青少年ひろば整備 ・芝刈り、整地等の整備	①体育施設管理運営 ・テニスコート整地 ②市民体育館整備【重】 ・照明設備補修 ③青少年ひろば整備 ・芝刈り、整地等の整備	①体育施設管理運営 ・テニスコートトイレ更新 ②市民体育館整備【重】 ・樹木剪定委託 ③青少年ひろば整備 ・芝刈り、整地等の整備			
	②市民体育館整備【重】						
	③青少年ひろば整備						
	事業費				7,174	6,674	9,600
	財源						
国庫	0	0	0				
県費	0	0	0				
市債	0	0	0				
その他	27	27	27				
一般財源	7,147	6,647	9,573				

【関連する指標】

指標	現状値 (R元年度)	区分	年度				
			R3	R4	R5	R6	R7
総合計画指標 スポーツ実施率（週1回以上）【総合戦略KPIを兼ねる】	31.3	目標値	37.5	40.7	43.8	46.9	50.0
	単位：%	実績値	49.6	60.4			
総合計画指標 スポーツ施設に関する満足度	45.3	目標値	46.9	47.6	48.4	49.2	50.0
	単位：%	実績値	42.6	39.7			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

【令和4年度事業】事業評価調書

【事業の実績】

令和4年度予算額	7,174 千円	令和4年度決算額	4,824 千円		
【Do】 事業実績 (成果) ※過去3カ 年	主な内容 [令和2年度] ・各施設、設備の保守管理業務委託 ・市民体育館トイレ手洗水栓改修工事 ・アーチェリー場防矢壁修繕 [令和3年度] ・各施設、設備の保守管理業務委託 ・アーチェリーの場修繕 ・青少年ひろば簡易トイレ設置工事 [令和4年度] ・各施設、設備の保守管理業務委託 ・市民体育館軒下床タイル修繕 ・施設整備用車両修繕			・施設利用者数（全体） 令和2年度：11,558人 令和3年度：7,168人 令和4年度：10,574人	

【事業の評価】

【Check】 指標評価	A			
事業の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 政策の推進において不可欠な事業である	<input type="checkbox"/> 中 政策の推進に寄与している事業である	<input type="checkbox"/> 低 目的をある程度達成し、実施の有無について検討の余地がある	
事業の 有効性	<input type="checkbox"/> 高 成果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な成果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 成果が低水準にある	
事業の 効率性	<input type="checkbox"/> 高 費用対効果が高水準にある	<input checked="" type="checkbox"/> 中 適切な費用対効果が得られている	<input type="checkbox"/> 低 費用対効果が低水準にある	
評価根拠	社会体育施設を整備することにより、各団体のスポーツ活動の促進が図られるほか、市民の体力づくりや健康増進に繋がるうえで、不可欠な事業である。 今後も利用者のニーズを把握し、各施設の整備等を計画的に行いながら、スポーツ実施率の向上に繋げていく必要がある。			
課題	各施設の老朽化が著しく、多様化する市民ニーズへの対応に繋がる環境整備が遅れている状況となっている。			
【Action】 今後の 方向性 ・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 代替 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 (<input type="checkbox"/> 一部廃止)			
	施設の老朽化対応として、引き続き定期的な点検、整備に重点を置くとともに、利用者が一年を通して快適にスポーツを行えるよう、各施設の利便性・安全性向上に向け、中長期的な維持管理に取り組む。			
令和6年度 事業計画	社会体育施設（市民体育館、市営テニスコート、渡良瀬川河川敷青少年ひろば）の整備及び管理運営 内容：各施設（設備）の維持補修、グラウンド整備（芝刈り、整地等）			
予算規模 見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 同規模 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 ※前年度比較			
備考				